

令和 4 年度前橋市教育委員会事務  
点検・評価報告書

令和 5 年 8 月  
前橋市教育委員会



# 目次

I	はじめに	1
II	点検・評価の概要	2
1	点検・評価の対象	2
2	点検・評価の方法	2
3	学識経験者の意見について	2
4	P D C A サイクル（教育行政方針との関係）	3
III	教育委員会の活動状況	4
1	教育委員会会議の開催状況	4
2	教育委員会会議以外の活動状況	5
3	教育委員会の活動に対する評価	5
	令和4年度教育委員会審議案件一覧	6
IV	教育委員会の施策に関する点検・評価	9
1	評価結果の概要について	9
2	具体的施策別評価について	10
	令和4年度の分野別トピック	11
	学校や各種施設等への新型コロナウイルス感染拡大の影響	12
	【評価結果の概要】	
1	学校教育分野	13
2	青少年教育分野	18
3	社会教育分野	21
4	教育環境整備分野	25
	【具体的施策別評価（具体的施策評価シート）一覧表】	28
	【具体的施策別評価（具体的施策評価シート）	
○	学校教育分野	31
○	青少年教育分野	54
○	社会教育分野	66
○	教育環境整備分野	80
V	具体的施策評価シートと教育振興基本計画等の関係について	86

## I はじめに

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

これを受け、前橋市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、令和4年度の教育委員会活動及び事務事業について、点検及び評価を実施しました。

本報告書は、その結果及び学識経験者の意見をまとめて報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 前橋市教育委員会教育長及び教育委員

令和4年度		令和5年度	
職名	氏名	職名	氏名
教育長	よしかわ 真由美 吉川 真由美	教育長	よしかわ 真由美 吉川 真由美
教育長 職務代理者	な良 知彦 奈良 知彦	教育長 職務代理者	な良 知彦 奈良 知彦
委員	たかはま まさのぶ 高濱 正伸	委員	きむら もとこ 木村 素子
委員	きむら もとこ 木村 素子	委員	はたけやま まさふみ 畠山 正文
委員	はたけやま まさふみ 畠山 正文	委員	わたなべ てるこ 渡辺 照子

## Ⅱ 点検・評価の概要

### 1 点検・評価の対象

令和4年度の教育委員会の活動及び「令和4年度教育行政方針」に位置付けられた主な施策・事業を対象に点検・評価を行いました。

### 2 点検・評価の方法

「教育委員会事務点検及び評価委員会」を設置し、各事務事業担当課が作成した点検・評価シート及び評価根拠資料等により、具体的な事業指標を用いながら、客観的な視点から評価を実施しました。

### 3 学識経験者の意見について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定では、点検・評価の実施に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

令和4年度点検評価では、下記3名の学識経験者を外部評価委員として委嘱し、施策に対する評価や具体的な改善策をいただきました。また、適切な指標の設定など、評価の手法についてもアドバイスをいただいています。

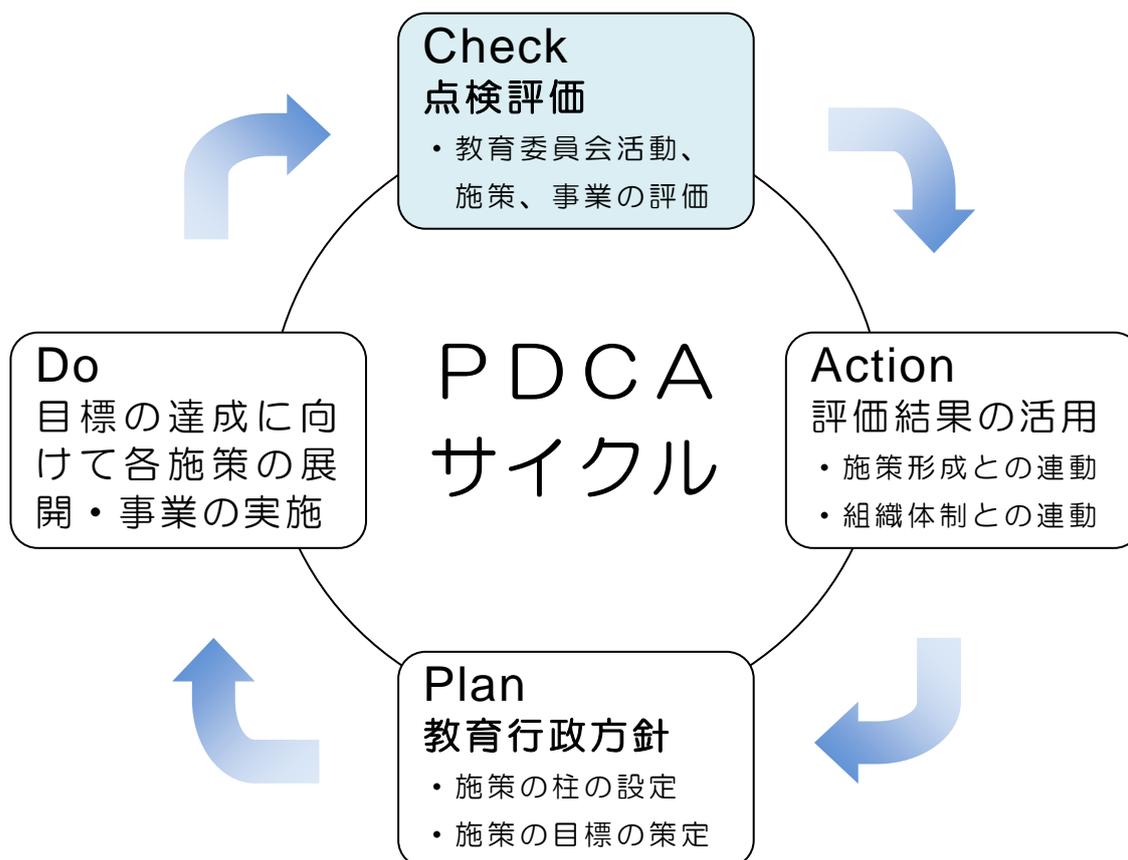
団体・役職	氏名
群馬大学大学院 教授	音山 若穂
共愛学園前橋国際大学 副学長・教授	後藤 さゆり
共愛学園前橋国際大学 教授	野口 華世

#### 4 P D C A サイクル（教育行政方針との関係）

前橋市教育委員会では、年度ごとに教育行政方針を定め、教育行政を進める上での指針としています。なお、令和5年度より教育行政方針で定めた具体的施策を教育振興基本計画に取り込みました。

今回の点検・評価に当たっては、令和4年度に教育行政方針で設定・策定した施策の柱や目標ごとに評価を実施しています。

これにより、教育行政の運営にP D C A サイクルを導入し、結果や成果に関する見通しと確かな計画性をもった教育行政の推進に努めています。



### Ⅲ 教育委員会の活動状況

教育委員会は、県や市町村に設置される行政委員会のひとつで、合議制の執行機関であり、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。原則教育長及び4人の委員で構成され、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し、決定しています。

令和4年度の教育委員会の活動を振り返るため、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの教育委員会の活動について、次のとおりまとめました。

#### Ⅰ 教育委員会会議の開催状況

##### (1) 開催日数等

教育委員会会議については、前橋市教育委員会会議規則において定例会と臨時会が定められており、定例会は原則として毎月1回開催し、臨時会は必要に応じて開催することとされています。令和4年度の開催状況は、次のとおりです。

・定例会 12回                      ・臨時会 0回

##### (2) 審議内容等

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第25条に基づき、次のとおり審議を行いました。

件名	件数
教育振興基本計画について	1
教育行政方針について	0
教育委員会事務の点検・評価について	1
教育文化功労者の表彰について	1
教育財産の取得又は処分について	2
職員人事について	7
委員会の規則の制定、改廃について	6
市議会議案についての意見について (予算5件、条例2件、事件5件)	12
附属機関の委員の委嘱及び任命について	1
その他	8
計	39

※ 開催日ごとの審議案件は、6ページからの「令和4年度教育委員会審議案件一覧」（以下「一覧」と表記。）のとおりです。

※ 上記のほかに、一覧に記載のとおり、教育長からの諸報告、その他事業に関する報告が行われました。

## 2 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員会会議のほかに、総合教育会議（市長との協議の場）、協議会（任意に開催される打合せ会議）の開催や学区別教育懇話会（各学区のPTA役員、学校長等との意見交換の場）に参加しました。また、各種行事等にも出席しました。

- (1) 総合教育会議 2回（7月14日、12月14日）
- (2) 協議会 2回
- (3) 教育懇話会 5回
- (4) 学校その他の教育施設等の視察  
3回（富士見共同調理場・教育支援教室「にじの家」「あすなろ」・臨江閣）
- (5) 各種行事等  
教育文化功労者表彰式、成人祝など

## 3 教育委員会の活動に対する評価

教育委員会では、毎月の教育委員会会議の開催ほか、平成27年度からは市長との協議の場である総合教育会議を開催し、毎回テーマを定めて市長との意見交換を行っております。令和4年度は、下記の日程及び議題で、2回の総合教育会議を開催しました。

開催日	議題
7月14日	(1) 前橋市教育振興基本計画について (2) 文化財の保護と活用 ～文化財に親しみ、郷土への愛着の心を未来へ継承～
12月14日	(1) 第3期前橋市教育振興基本計画（案）について (2) 部活動の地域移行に向けて

## 令和4年度教育委員会審議案件一覧

開催日	会議区分	案件区分	件名
4月15日	定例会	教育長報告	報告1 職員の人事異動(副参事級以下)の専決について
		教育長報告	報告2 令和4年度教育委員会事務の点検及び評価について
		教育長報告	報告3 令和4年度学校施設等整備について
		教育長報告	報告4 令和3年度末教職員の人事異動の概要について
		議案	議案第15号 前橋市立図書館新本館基本構想の策定について
		議案	報告第1号 職員の人事異動(課長級以上)の臨時代理について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 令和4年度学校施設の工事概要について
		その他	その他3 令和3年度市立前橋高等学校卒業生進路状況について
その他	その他4 新永明公民館の開館について		
5月16日	定例会	議案	議案16号 令和3年第2回定例市議会提出予定議案(事件)の作成に対する意見について
		議案	報告第2号 職員の行政処分の臨時代理について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 前橋市高校生学習室の利用状況について
その他	その他3 ブックスタート事業及び絵本セット団体貸出事業の実績について		
6月14日	定例会	議案	報告第3号 令和4年第2回定例市議会提出予定議案(予算)の作成に対し意見を付すことについての臨時代理について
		議案	報告第4号 令和4年第2回定例市議会提出予定議案(事件)の作成に対し意見を付すことについての臨時代理について
		その他	その他1 行事について
7月14日	定例会	教育長報告	報告1 令和4年7月1日付け職員の昇格について
		教育長報告	報告2 出張教育支援教室について
		議案	議案第17号 前橋市公民館運営審議会委員の委嘱について
		議案	議案第18号 令和5年度に使用する前橋市立小・中・特別支援学校の教科用図書の採択について
		議案	議案第19号 令和5年度に使用する前橋市立前橋高等学校の教科用図書の採択について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 第四コミュニティセンター及び総合福祉会館の各種申請書の様式統一について
		その他	その他3 第44回少年の主張 前橋大会の実施結果について
その他	その他4 林間研修施設「おおさる山乃家」の指定管理者の公募について		
8月17日	定例会	議案	議案第20号 令和3年第3回定例市議会提出予定議案(予算)の作成に対する意見について
		議案	議案第21号 令和3年第3回定例市議会提出予定議案(事件)の作成に対する意見について
		議案	議案第22号 令和2年度前橋市教育委員会事務点検・評価報告書について
		議案	議案第23号 公有財産(土地)の所属替について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 令和3年度市立学校の修学旅行について
		その他	その他3 令和3年度第1回前橋市社会教育委員会議の開催結果について
9月13日	定例会	教育長報告	報告1 令和3年度各会計決算(教育委員会所管分)の概要について
		教育長報告	報告2 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について
		議案	議案第24号 令和4年度前橋市教育文化功労者の決定について
		議案	議案第25号 教育財産(土地)の取得に係る申出について
		議案	議案第26号 教職員人事に関する基本方針について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 文化財調査委員会議の開催結果について
		その他	その他3 令和5年度前橋高等学校入学選抜志願者案内について
その他	その他4 令和4年度第1回前橋市公民館運営審議会の開催結果について		

## 令和4年度教育委員会審議案件一覧

開催日	会議区分	案件区分	件名
10月14日	定例会	教育長報告	報告1 市立学校園の送迎バスの安全管理について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 「新出土文化財展2022」の開催について
		その他	その他3 「まえばし学校フェスタ2022」の開催について
		その他	その他4 令和4年度第2回前橋市社会教育委員会議の開催結果について
11月15日	定例会	教育長報告	報告1 令和5年度市立幼稚園の入園申込状況について
		議案	議案第27号 令和4年第4回定例市議会提出予定議案(予算)の作成に対する意見について
		議案	議案第28号 令和4年第4回定例市議会提出予定議案(条例)の作成に対する意見について
		議案	議案第29号 令和4年第4回定例市議会提出予定議案(事件)の作成に対する意見について
		議案	議案第30号 前橋市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 第3期前橋市教育振興基本計画(案)に関するパブリックコメントの実施について
		その他	その他3 学校給食共同調理場の業務委託に係る優先交渉事業者の選定について
12月14日	定例会	その他	その他1 行事について
		その他	その他2 第2期前橋市教育施設長寿命化計画(案)に関するパブリックコメントの実施について
		その他	その他3 令和4年度「まえばし教育の日」事業実施結果について
		その他	その他4 令和4年度学区別教育懇話会実施結果について
		その他	その他5 令和4年度第2回前橋市公民館運営審議会の開催結果について
		その他	その他6 第1回前橋市はたちのつどいの開催について
1月10日	定例会	議案	議案第1号 令和5年4月1日付け人事異動方針について
		議案	議案第2号 教育財産(土地)の取得に係る申出について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 前橋・高崎連携文化財展の開催について
		その他	その他3 前橋市高校生模擬議会の実施結果について
		その他	その他4 令和4年度社会教育活動功労者への感謝状の贈呈について
2月15日	定例会	教育長報告	報告1 電子書籍サービスについて
		議案	議案第3号 令和5年第1回定例市議会提出予定議案(予算)の作成に対する意見について
		議案	議案第4号 令和5年第1回定例市議会提出予定議案(条例)の作成に対する意見について
		議案	議案第5号 第3期前橋市教育振興基本計画について
		議案	議案第6号 県費負担教職員(管理職)人事の内申について
		議案	議案第7号 公有財産(土地)の所属替について
		議案	議案第8号 前橋市立図書館の管理及び運営に関する規則の改正について
		議案	議案第9号 教育委員会の委員の辞職について
		議案	報告第1号 県費負担教職員(管理職)人事の内申の臨時代理について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 第2期前橋市教育施設長寿命化計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果について
		その他	その他3 令和4年度第3回前橋市社会教育委員会議の開催結果について
		その他	その他4 前橋・高崎連携文化財展の開催について

令和4年度教育委員会審議案件一覧

開催日	会議区分	案件区分	件名
3月16日	定例会	議案	議案第10号 令和5年第1回定例市議会提出予定議案(予算)の作成に対する意見について
		議案	議案第11号 令和5年第1回定例市議会提出予定議案(事件)の作成に対する意見について
		議案	議案第12号 前橋市教育委員会行政組織規則及び前橋市教育支援委員会規則の改正について
		議案	議案第13号 前橋市教育委員会公印規則の改正について
		議案	議案第14号 前橋市総合教育プラザ管理規則の改正について
		議案	議案第15号 前橋市立小学校及び中学校の出席停止命令の手續に関する規則の改正について
		議案	議案第16号 第2期前橋市教育施設長寿命化計画について
		議案	議案第17号 前橋市指定文化財の追加指定について
		議案	議案第18号 市費負担教職員(管理職)人事の内申について
		その他	その他1 行事について
		その他	その他2 令和4年度第2回前橋市教育情報システム利活用推進委員会の開催結果について
		その他	その他3 前橋市情報セキュリティポリシーの改定について
		その他	その他4 令和4年度第2回前橋市文化財調査委員会議の開催結果について
		その他	その他5 令和5年度市立前橋高等学校入学者選抜実施状況について
その他	その他6 令和4年度第3回前橋市公民館運営審議会の開催結果について		
その他	その他7 自動貸出機等の利用開始について		

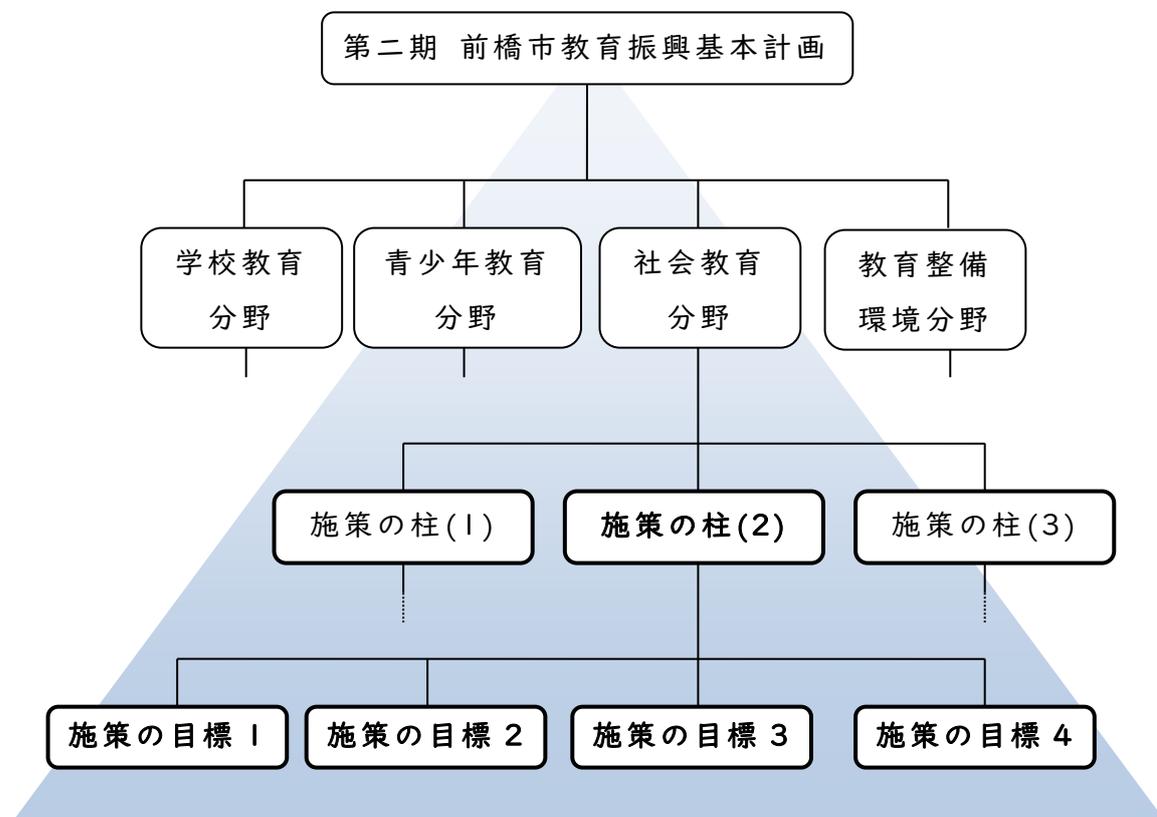
## IV 教育委員会の施策に関する点検・評価

### I 評価結果の概要について（P13～P27）について

前橋市教育行政方針は、前橋の教育が目指す人間像として「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人」と定めた第二期前橋市教育振興基本計画を基本としています。その実現のために教育分野を「学校教育分野」、「青少年教育分野」、「社会教育分野」、「社会環境整備分野」の四つの分野に分け、それぞれの分野において具体的に取組む施策と柱を設けるとともに、その「施策の柱」を推進するための「施策の目標」を掲げる構成をとっています。

13ページからは、この構成に基づいて、「施策の重点目標及び主な事業」、「施策の柱」に対する学識経験者意見を記載し、評価結果の概要を示しています。

教育行政方針概念図



## 2 具体的施策別評価（P28～P85）について

28ページから始まる各分野における施策の柱別評価では、実施した施策や事業ごとに評価・改善策をまとめています。

### ■ 評価

年度当初の計画どおりに目標が達成できたかどうかについて、事業指標及び施策全般の達成度で、次の区分により自己評価しています。

#### 【評価区分】

- A A：目標に対し達成度が高い
- A：目標に対し達成度が同程度又はやや高い
- B：目標に対し達成度がやや低い
- C：目標に対し達成度が低い

### ■ 重要施策

施策の目標を実現するために重要な施策を記載しています。

### ■ 事業指標

事業の達成度を測るために設定したアンケート結果や行事への参加者数などの項目の目標値・実績値を記載し評価の根拠としています。

### ■ 実績

事業の実施状況を記載しています。

### ■ 評価理由

なぜ、その評価区分としたのか、評価の理由を記載しています。

### ■ 今後の課題及び取組方針

事業実施にあたっての課題や反省点、課題等に対する改善点など施策を進めていくにあたっての課題と今後の取組方針について記載しています。

### ■ 学識経験者意見

外部評価委員である学識経験者からの評価です。事業の課題や改善案、また、事業指標の在り方などについて意見をいただいています。

## 【令和4年度の分野別トピック】

### □1 学校教育分野

- 前橋版コミュニティ・スクール導入校を国版コミュニティ・スクールに移行することを決定  
＜学務管理課（令和4年：学校教育課）＞
- 自転車のヘルメットの全学年着用の義務化  
＜市立前橋高等学校＞
- 言語聴覚士による「ことばの教室」を実施（幼児教育）  
＜教育支援課＞
- 相談指導員の相談スキルの向上などの教育相談機能の充実（特別支援教育）  
＜教育支援課＞

### □2 青少年教育分野

- JICA出前講座を活用した国際理解教育活動の実施  
＜学務管理課（令和4年度：青少年課）＞
- ヤングケアラーについての講習会実施（対象：生徒指導主事等・養護教諭）  
移動教育支援教室「かけはし」を開設  
＜教育支援課（令和4年度：青少年課）＞

### □3 社会教育分野

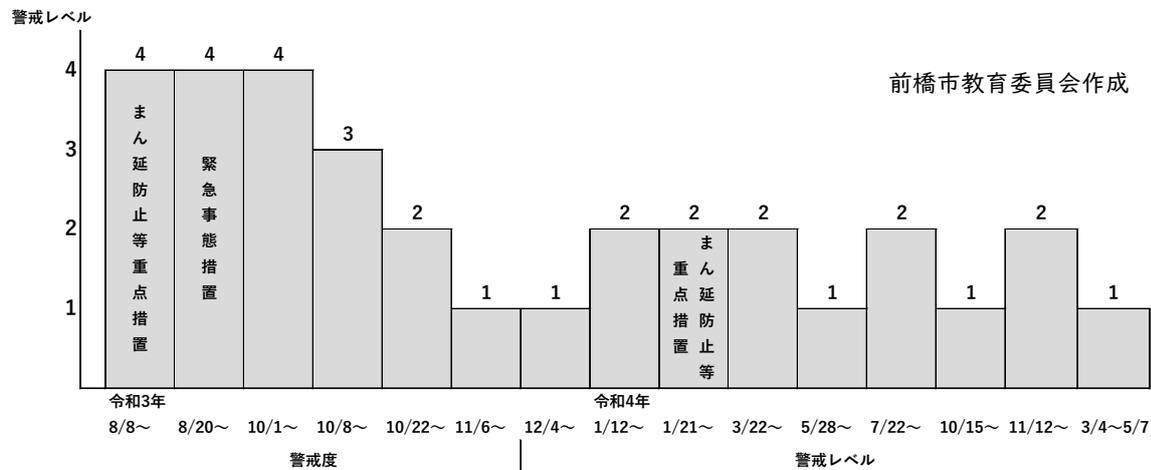
- コミュニティセンター直営化により、各コミセンで地域住民を対象としたデジタルデバイス解消スマホ教室の実施  
＜生涯学習課＞
- 高校生学習室の利用者を中心に自主的な高校生文化祭を開催  
＜生涯学習課＞
- 社会福祉施設への団体貸出の実施  
＜図書館＞
- 臨江閣の魅力を発信するためにクリアファイル、ポストカードの作成  
文化財専門職の正規職員の採用  
＜文化財保護課＞

### □4 教育環境整備分野

- 令和4年5月16日に永明公民館の落成記念式典実施  
＜生涯学習課＞
- 図書館の新本館基本構想を公表  
＜図書館＞

## 【学校や各種施設等への新型コロナウイルス感染拡大の影響】

### ■群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」警戒度・警戒レベルの推移（前橋市）



※群馬県のガイドライン改正に伴い、令和3年12月2日以降は「警戒レベル」

※令和5年5月8日「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」廃止

### ■群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」（令和2年5月15日施行）

各警戒レベルにおいて想定される要請				
警戒レベル	県民	イベント	事業者	【参考】 県立学校
0	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な感染防止対策の徹底</li> <li>新しい生活様式の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策を徹底のうえ、人数制限を行い開催 ※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な感染防止対策の徹底</li> <li>業種別ガイドラインの遵守</li> <li>ストップコロナ対策認定店制度への登録推奨</li> <li>テレワーク、時差出勤を推奨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は一部制限を検討</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染リスクの高い場所への外出は十分注意</li> <li>県外移動は十分注意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（感染防止安全計画策定時の人数上限）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレワーク、時差出勤を強く推奨</li> <li>高齢者施設や病院等での直接面会は十分注意（オンライン面会等の推奨）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校単位で分散登校等（オンライン学習活用）を検討</li> <li>部活動は一部制限を検討</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染リスクの高い場所への外出は十分注意</li> <li>県外移動は十分注意</li> </ul> <p>[特定の区域での感染拡大時]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5人以上の会食回避 ※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急事態措置：1万人</li> <li>重点措置：2万人</li> <li>その他：収容定員まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業時間短縮、5人以上の会食回避 ※</li> <li>大規模集客施設における入場整理等</li> </ul> <p>[特定の区域での感染拡大時]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>営業時間短縮、5人以上の会食回避 ※</li> <li>酒類やカラオケ設備提供の制限 ※</li> <li>大規模集客施設における入場整理等</li> <li>出勤者数の削減目標設定による人流抑制</li> <li>高齢者施設や病院等での直接面会禁止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能な限り通常登校</li> <li>部活動は一部制限を検討</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染リスクの高い場所への外出自粛 ※</li> <li>県外移動は自粛 ※</li> <li>5人以上の会食回避 ※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの中止・延期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業や施設の使用停止</li> <li>出勤者数の大幅削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校単位もしくは全県で分散登校等（オンライン学習活用）を検討</li> <li>部活動は休止を検討</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中を含めた外出自粛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの中止・延期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業や施設の使用停止</li> <li>出勤者数の大幅削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は休止を検討</li> </ul>

注1 一般医療の状況や国の基本的対処方針に基づき、部分的に上位レベルの要請を行う場合がある  
 注2 各警戒レベルにおいて想定される要請内容の例示であり、実際の要請内容と異なる場合がある  
 ※ワクチン・検査パッケージの適用により、実際の要請内容が緩和される場合がある

（出所）群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」

### ■施設等の休館状況及びイベント等への影響（令和4年4月1日～令和5年3月31日）なし

※群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の警戒レベルの段階に応じて、施設の利用制限やイベント等は規模を縮小して行いました。

# 評価結果の概要

## (施策の重点目標及び主な事業)

### □ | 学校教育分野

「県都前橋 教育のまち」の実現に向け、教育振興基本計画における目指すべき考え方を基にして、「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に活動する子供」を育てる教育を推進します。

具体的には、義務教育及び高校教育（市立前橋高校）については、「学校教育充実指針」の2つの柱「学校力を高める学校経営」「魅力あふれる教育活動」に基づき、具体的施策を進めます。

幼児教育（市立幼稚園を含む幼児）については、「保育の充実を目指す市立幼稚園の経営」、「市全体でつながる幼児教育の推進」の2つの柱に基づいた教育活動を進めます。

また、全児童生徒にも共通する特別支援教育について、そして、教育に携わる教職員に対する研修についても具体的施策を定めました。

### <施策を進める上での目指す方向性（第2期前橋市教育振興基本計画より）>

#### ◇学校力を高める学校経営 ◇魅力あふれる教育活動

(一) 義務教育

個を伸ばす	自分のよさや可能性を見だし、個性や感性を伸ばすことにより、学ぶことの楽しさや意義を実感し、主体的に学ぶ子供を育てます。
認め合う	互いの個性を認め合うとともに、自他の考えを尊重することにより、他者と学び合える子供を育てます。
創りだす	学んだことや体験したことを活かして新たな価値や意味を生み出すとともに、多様な人と協働してよりよい考えや方法を見いだすことを通して、意欲的に課題解決に取り組む子供を育てます。
未来へ	夢や希望を持ち、自分自身や社会全体の将来像を思い描くことにより、学んだことを進んで社会の中で活かそうとする子供を育てます。

#### 【主な事業】

- ・コミュニティ・スクール制度の導入推進【学務管理課】
- ・まえばし学校教育充実指針の推進【学校教育課】
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の推進【学校教育課】

◇学校力を高める学校経営 ◇魅力あふれる教育活動

(2) 高校教育

個を伸ばす	個々の様々な可能性を引き出し、伸ばすことにより、主体的に学ぶ生徒を育てます。
認め合う	仲間と協力し切磋琢磨し合うことで、知力と体力の伸長を図り、人間力を備えた生徒を育てます。
創りだす	社会情勢の変動に主体的に対応できる柔軟な思考力や判断力、他者と協働する力を育てることにより、課題の解決に向けた意欲の高い生徒を育てます。
未来へ	より高い目標を持って夢を抱くことにより、将来、地域社会を支え貢献できる生徒を育てます。

【主な事業】

- ・教職員研修の充実
- ・学校公開事業の充実
- ・進路指導計画「さ霧晴れて」を基に、体系的な学習指導・進路指導の実践
- ・探究学習計画「めぶく」を基に、進路探究型の学び指導（キャリア教育・主権者教育）の実践
- ・部活動指導の充実

◇保育の充実を目指す市立幼稚園の経営 ◇市全体でつながる幼児教育の推進

(3) 幼児教育

個を伸ばす	安定した気持ちで興味・関心を持って身近な環境と関わることにより、自分のよさを感じながら主体的に遊ぶ幼児を家庭と連携しながら育てます。
認め合う	身近な人と親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わうことにより、人への愛情や信頼感を持つ幼児を育成します。
創りだす	友達と協同的な遊びを充実させることにより、新たな遊びを作り出したり生活を豊かにする工夫をしたりする幼児を育成します。
未来へ	小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期にふさわしい生活を通して、人や自然と関わる楽しさや夢やあこがれなどを感じる幼児を育てます。

【主な事業】

- ・幼稚園経営（市立幼稚園保育研究会）の充実
- ・教職員指導力向上支援（幼児教育アドバイザー派遣）事業
- ・幼児教育に関する研修事業
- ・保幼小連携事業
- ・幼児の就学相談事業
- ・通級教室「幼児教室」事業

(4) 特別支援教育

◇特別支援教育及び教育相談機能の充実

個を伸ばす	一人一人の子供の個性や特性に応じた学びを工夫することにより、学ぶ喜びを感じる子供を保護者と連携しながら育成します。
認め合う	身近な人と親しみ、活動や場の共有による日常的なふれ合いを通して、人と共に生活する楽しさを感じる子供を育てます。
創りだす	障害のある子供とない子供が交流する仕組みを構築することを通して、様々な人が共に活動する教育を推進します。
未来へ	障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合うことを通して、共生する社会を目指します。

【主な事業】

- ・特別支援教育に関わる会計年度任用職員の任用・配置・研修
- ・プラザ相談室の運営
- ・教育相談研修の実施
- ・前橋市教育支援委員会の運営
- ・特別支援教育巡回相談の運営
- ・教職員向け研修会や学校訪問(計画訪問・要請訪問)の実施

(5) 教職員育成

◇教職員研修、実践的研究機能の充実

個を伸ばす	確かな幼児・児童・生徒理解に基づき、一人一人の個性を認め、よさを伸ばせる教員を育成します。 様々な研修や研究の機会を作り、参加型の研修を推進するとともに、学校訪問や幼児教育アドバイザーの派遣などを推進することにより、主体的に学ぶ教員を育成します。
認め合う	学校訪問や研修を通して、よりよい人間関係作りや社会性を育む指導ができる教員を育成します。 教職員同士がそれぞれのよさを活かして協議したり、保幼小中連携、障害児者との交流などをしたりすることにより、様々なつながりを活かせる教員を育成します。
創りだす	「主体的・対話的で深い学び」の指導の工夫をし、新たな教材開発や高め合える学級作りができる教員を育成します。 外部の専門家や様々なスタッフ、地域の人材などと協働することにより、互いのよさを活かしたチーム学校を推進します。
未来へ	若手教員、中堅教員の育成を行うことにより、将来の理想的な教員体制を目指します。

【主な事業】

- ・指定研修: 在職年数、キャリア段階に応じた節目研修、校内分掌による職務研修、学校運営に関わる経営研修、ICT活用や人権教育などのテーマ別推進研修など
- ・希望研修: 文部科学省やその分野で最先端の専門性の高い講師による研修
- ・出前研修: 学校のニーズに合わせた指導・助言や校内研修支援

## 学識経験者意見

評価については、事業指標の実績値が目標値に達しているかどうかを一つの判断材料としていますが、それ以外にも、実績欄で報告された内容や、参考資料から読み取れる内容も含めて、総合的に評価を行うこととしました。数値の比較だけでは、その差が統計的にどれだけ意味のある差なのかが分からないことと、また施策によっては妥当性の高い事業指標が無い、あっても測定が難しく、代替指標を用いているものもあるためです。実績値以外に何を評価に加味したかについては、評価理由欄に示されています。

その結果、評価についてみると、具体的施策別17のうち13施策が「A」（昨年度は9施策）、4施策が「B」となりました。昨年度は9施策が「A」、8施策が「B」であり、「A」施策が増加したことが分かります。「A」は、目標に対し達成度が同程度又はやや高いことを表します。

総じて、いずれの取組も工夫を重ねて事業を実施していることが読み取れます。いわゆるコロナ禍では多くの事業が縮小されたり、中止されたりしましたが、今年度はほぼコロナ以前の状態に戻ったようですし、コロナ禍で導入を余儀なくされた面もあるICTについても、現在では授業や、業務改善に有効に活用されるようになったことも見取れました。

達成度がやや低いとされる「B」評価の施策については、いずれも、今年度中の取組が不十分であったというよりもむしろ、その施策の最終的な目標を考えたときに、今後取り組むべき、または解決すべき課題が残されているという意味で「A」と区別しています。

義務教育で「B」評価であったのは、「(1)学校力を高める学校経営」のうち「5.安全・安心な学校づくりの徹底」、「(2)魅力あふれる教育活動」のうち「3.健康増進・体力の向上」、「4.自立性・社会性の育成」、そして「5.個別最適な学びと協働的な学びの推進」でした。これらは、前年度も「B」評価であったものです。

「5.安全・安心な学校づくりの徹底」では、指標値は前年を僅かに上回りましたが、目標の100%には届きませんでした。「身を守る方法を理解している」が指標ですが、理解していない児童生徒が一人でもいれば、大きな事故に繋がりがねません。現在でもさまざまな取組が行われ、内容は充実しているのですが、児童生徒全員が自ら状況を判断し、危険を予測し回避できるように、引き続き指導の徹底が求められています。

「3.健康増進・体力の向上」では、依然として体力テストの結果が低下傾向を示しています。原因についてはいわゆるコロナ禍の影響も考えられ、分析を待つ必要がありますが、体力向上に向けた取組には、力を入れていく必要があります。

「4. 自立性・社会性の育成」は、キャリア教育に関するものですが、キャリア・パスポートの活用は依然として課題です。本市では、キャリア教育推進協議会が研修会等の充実した取組を行っていますので、パスポートの活用についてもこの協議会を中心として、取組を進めて行ければと思います。

「5. 個別最適な学びと協働的な学びの推進」では、活用実態が低い水準にとどまっており、前年度から改善されていません。機器やアプリに慣れるまである程度の時間が必要だとは思いますが、すでにICTを使った授業はかなり行われていることを考えると、今後も講座の開催や授業での活用例の公開など、苦手感を持つ教師への支援も必要と思われる。

教職員育成では、大学等からの助言や講義も取り入れられ、質の向上も意識されていて「A」評価となりました。中教審答申にも「教職の高度化に向けた大学と教育委員会との連携体制をより一層実効あるものとする取組を推進することが重要である」とあるように、今後も大学等と連携を取りながら研修、研究の質を向上させることが望まれます。教育委員会と大学が連携し共同で研修プログラムを展開するなど、新しい枠組みについても検討の余地があると思います。

特別支援教育では、「(1) 特別支援教育及び教育相談機能の充実」は前年度「B」だったものが本年度は「A」評価となりました。状況調査の結果は良好であり、着実に実績を上げていることも読み取れますが、一方では依然として支援学級の増加など課題も抱えています。「A」評価であっても、相談機能の充実についてなお一層力を入れる必要があるように思います。

幼児教育では、施策「(1) 保育の充実を目指す市立幼稚園の経営」では、評価指標はほぼ満たしており「A」評価となりました。ただしこの取組が充実しているのは、幼児教育アドバイザーの精力的な活動によって支えられているところが大きいというのが実情です。そこで、今後もアドバイザーの先生方に活躍してもらえよう、支援していくことが課題となっています。

高校教育では、「めぶく」の取組が充実しており、顕著な成果を挙げていると思います。特に「まえばしハニープロジェクト」とコラボ企画で絵本を作成、幼児に読み聞かせをするなど、地域の教育力を積極的に活用している点は特に高く評価できます。生徒自らが探究課題を設定し、探究過程を意識しながら主体的に学びを進めていて、新学習指導要領の趣旨を十分に捉えたものとなっていて、強みとなっていると思います。

## □ 2 青少年教育分野

目指す青少年像を「自ら進んで行動する青少年」「互いのよさを認め合う青少年」「地域をよりよくしようとする青少年」「地域を誇りに思う青少年」とし、家庭・地域、学校の連携のもと前橋市青少年健全育成計画「いきいき前橋っ子 はぐくみプラン」の活用により、人間性豊かな青少年を育成します。また、地域とともに青少年を育成する地域健全育成活動、いじめ・不登校などへの対応を行う学校の生徒指導支援、学びと遊びの交流拠点としての児童文化センター運営の各分野において進める具体的施策を定めます。

<施策を進める上での目指す方向性(第2期前橋市教育振興基本計画より)>

### ◇地域健全育成活動の充実 ◇国際理解教育活動の充実

(1) 地域健全育成

個を伸ばす	「子供をお客さんにしない」を合言葉として、自ら考え進んで活動する主体的な青少年を育成します。
認め合う	地域の様々な活動の中で、異世代、異年齢の人や様々な思いの人と交流し認め合うことを通して、豊かな人間性を持つ青少年を育成します。
創り出す	普段の生活で関わる機会のない地域の様々な人たちと関わりを持ち、役立つ場を作ることにより、地域をよりよくしようと考え、行動する青少年を育成します。
未来へ	地域の中で主体的に活動することを通して、生まれ育った地域を誇りに思える青少年を育成します。

#### 【主な事業】

- ・はたちのつどいの開催【生涯学習課】
- ・関連団体と連携した青少年の健全育成【生涯学習課】
- ・「少年の主張」の開催【生涯学習課】
- ・青少年自然体験教育施設の管理【生涯学習課】
- ・遊び場事業の提供(放課後子供教室)【学務管理課】
- ・地域寺子屋事業の充実【学務管理課】
- ・国際理解教育活動の推進【学務管理課】

(2) 青少年支援センター

### ◇学校の健全育成活動と、子供をめぐる問題解決への支援の充実

個を伸ばす	自分の生活や行動を振り返る活動を通して、自分のよさに気づき、向上心を持って活動に取り組める子供を育成します。
認め合う	子供同士の絆づくりを通して、他者のよさに気づき、認め合いながら活動に取り組める子供を育成します。

創りだす	いじめ防止に向けた話し合い活動や小中学校の交流活動を通して、それぞれの考え方を認め合いながら、よりよい解決策を考え、共に活動に取り組める子供を育成します。
未来へ	これからのネット社会においても、様々な立場の大人がスクラムを組み、子供たちの知識・経験・成長に合ったインターネットを利用する環境を整えていく活動を通して、メディアを主体的かつ適切に活用できる子供を育成します。

**【主な事業】**

- ・関係機関と連携した補導活動や少年サポート活動の推進
- ・スクールアシスタントやオープンドアサポーターの活用及び、教育支援教室の拡充による不登校対策の充実
- ・専門家による支援体制の整備やネットパトロールによるいじめ対策の充実、いじめ基本方針の見直し
- ・家庭や地域と連携した「まえばしネットスクラム」の推進

◇交通安全・天文・環境教育の充実 ◇自然体験活動の充実

◇科学・文化芸術教育活動の充実

◇「学び」と「遊び」の充実と多世代交流の推進

個を伸ばす	子供たちが自ら考え、工夫し、表現する活動を重視した「学び」と「遊び」の活動を展開することにより、「主体的な学び」の実現を図ります。
認め合う	地域も学校も年齢も異なる子供たちの中で様々な活動を行うことにより、共に学ぶよさを感じ、互いに思いやることの大切さ、公共の場での心構えなどの社会性を育みます。
創りだす	様々な知識や技能、思いを持った人々と交流し、より専門性の高い活動に主体的に取り組むことを通して、個性や能力、創造性のさらなる伸長と、人と高め合う力を育成します。
未来へ	前橋市内の各学校・園と連携を図りながら、前橋の自然環境を守ったり、地域の文化を大切にしたりする活動を通して、持続可能な社会の実現に向けた意欲と実践力を兼ね備えた子供を育成します。

**【主な事業】**

- ・市内小学校4、6年生等を対象とした自転車教室の実施
- ・市内幼稚園、保育所(園)、特別支援学校等を対象とした歩行教室の実施
- ・プラネタリウムを活用したり、実際に天体を観察したりする天文教室の実施
- ・市内小学校5年生を対象とした環境教室の実施
- ・自然体験活動指導協力者の派遣
- ・教員を対象とした自然体験活動研修の開催
- ・科学・文化芸術等に関するクラブ活動(合唱団、発明クラブ、演劇クラブ、宇宙クラブ、ジュニアオーケストラ、環境冒険隊)の運営
- ・夏季教室、わくわく教室の開催
- ・わくわくチャレンジコーナーなどの体験活動イベントの開催

## 学識経験者意見

青少年育成分野では、7つの項目についてA評価が5つ、B評価が2つとなり、全体として素晴らしい結果になりました。

(1) 地域健全育成については、コロナ禍の影響が残り、計画通りに進められなかった行事があることから、地域健全育成活動の充実がB評価になりました。コロナ禍により行事の中止や書面開催が続いており、これまでのノウハウの継承が難しくなっていることが大きな課題となっています。一方で、国際理解教育活動ではコロナ禍の苦境をICTの活用によってオンラインによる国際交流活動を継続し、海外の生徒と直接交流できる機会を充実させることができました。

(2) 青少年支援センターは、急速に変化する社会環境の影響を受けて、支援が必要な問題が多様化、複雑化、深刻化していく中、大変素晴らしい取り組みができています。ただし、事業指標の目標に実績値が達成していない項目があるため、B評価となりました。不登校児童生徒の割合(出現率)は、全国と同様に増加傾向にあるものの、移動教育支援教室「かけはし」やオープンアサポーターという前橋市独自の支援により、高い成果を上げることができています。近年課題となっているヤングケアラーについても、実態を把握する調査の開始や、福祉部子育て支援課(こども未来部こども支援課)と連携して講習会を実施するなど、積極的に取り組むことができました。一方で、全国的な課題ではありますが、問題に対応するための支援の充実を図るだけでは、目の前の課題対応に追われてしまい、問題の本質が捉えにくくなる可能性があります。問題として把握される前の段階で対応が取れるよう、子どもの居場所の充実、情報共有のための関係部署の連携体制の構築など、長期的な視点で問題を未然に防止するための方法についても検討を進めていく必要があります。

(3) 児童文化センターは4項目ですべてA評価となりました。これは、事業指標の目標達成のために、問題を改善するためのアクションがしっかりとされている結果であり、とても高く評価することができます。児童文化センターは交通安全、天文教室、環境教育における学校教育との連携、社会教育としての自然体験活動、科学文化芸術活動の充実と多岐にわたっていますが、評価の良い取り組みであっても改善点を見出すことを継続し、効果的な活動を実現しています。

現代的課題として、子どもの主体性育成、および自然から体験的に学ぶことを通して培われる直観を伴う生きた知識とそれを活用した推論能力の育成を挙げるすることができます。児童文化センターの活動は、このどちらの能力にも注力してプログラムの開発、運用を進めています。今後も子どもを活動の中心に置き、さらなる改善に期待したいです。

また、児童文化センターでは、多世代交流の推進を施策の柱として、市民力の向上と多世代交流の推進に取り組んでいます。コロナ禍であっても前年度(令和3年度)の実績を大きく上回るボランティア活動が実施されており、高く評価できます。これらの実績を児童文化センターの取組だけでなく、他の青少年育成や生涯教育の取組にも波及させていくことを期待します。

## □ 3 社会教育分野

社会教育については、生涯学習、図書館、文化財のそれぞれの分野において、以下のような目指す方向性をもって取組を進めます。

### <施策を進める上での目指す方向性(第2期前橋市教育振興基本計画より)>

- ◇「主体的な学び」の実現につながる学習機会の提供
- ◇公民館・コミュニティセンターの充実
- ◇地域の担い手の育成と活用

(1)生涯学習(公民館・コミュニティセンター)

個を伸ばす	地域課題や市民ニーズに対応した多様で魅力ある「学びの場」の提供により、「主体的な学び」の実現を図ります。
認め合う	お互いの人権や個性を尊重しながら、支え合う心豊かなコミュニティを形成する仕組みを通して、家庭や地域の様々な人との関わりの中で社会性を高める支援をします。
創りだす	個の学びやその学習成果を基に、地域の多様な主体が連携・協働し、交流することを通して、生涯活躍できる力を地域とともに育みます。
未来へ	ふるさとを愛し未来を拓く人材を地域で育み、それぞれの個性や特技を活かし融合させることにより、新たな価値を創りだす地域の担い手づくりを支援します。

#### 【主な事業】

- ・多様な学びの主体と連携した社会教育講座の開催
- ・中学・高校・大学生講師(協力者)によるティーチャー講座の開催
- ・公民館・コミュニティセンターにおける社会教育事業の充実
- ・公民館・コミュニティセンター職員研修の充実
- ・出前講座における市民講師の活用

#### ◇知的活動を支援する図書館の充実

(2)図書館

個を伸ばす	個人の興味、関心を満たす、あらゆる資料や情報の提供を積極的に進めることにより、市民一人一人の知的欲求に応えます。
認め合う	赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる市民が利用し交流できる環境を整えることにより、認め合い、学び合う活動の場を提供します。
創りだす	学びの成果を共有できる場を提供することで、ボランティアや地域の活動などに主体的に取り組む人づくりの支援をします。
未来へ	郷土資料などの活用を促進し、郷土を愛する心を育むことにより、次世代につなげるための文化活動を推進します。

【主な事業】

- ・図書資料整備事業及びサービスの充実
- ・多彩な図書館行事を通じた読書普及活動
- ・子ども読書活動推進計画に基づいた各種企画による子ども読書活動の推進
- ・図書館運営への市民参加の促進

◇文化財等の保護と活用

個を伸ばす	専門職員を確保し、市民に文化財に関する知識・能力を習得する場を提供することにより、市民の主体的な学びの実現を図ります。日常的に文化財や、伝統文化に親しむことができる環境を整えることにより、興味や関心を持たせ、探究心、想像力を高め、個の伸長を図ります。
認め合う	文化遺産や伝統文化を地域の中で世代を超えて継承するための環境を整えることにより、文化財を通じた人々のつながりを深めます。
創りだす	市民が習得した知識等を地域に還元する体制を整えることにより、ボランティアなどで活躍できる生きがいを高めます。地域の文化財・伝統文化・行事・芸能などを継承していくことの意義を学ぶことにより、皆で支え合い、負担し合える環境づくりを図ります。
未来へ	地域に愛着を持てるような事業や新たな文化の創造などへの取組を進めることにより、地域を愛し未来を見つめる人づくりを進めます。

【主な事業】

- ・総社古墳群範囲内容確認調査(7か年計画の6年目)
- ・上野国府等範囲内容確認調査(第3期5か年計画の2年目)
- ・指定文化財阿久沢家住宅、旧関根家住宅の環境整備
- ・文化財普及啓発(前橋高崎連携文化財展、新出土文化財展、粕川歴史民俗資料館企画展等)
- ・文化財施設の管理運営

## 学識経験者意見

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けつつも、ウィズコロナ時代ということが意識され、対面と遠隔で受講できるハイブリッドな講座を用意していただいたり、前年度から引き続き動画配信を実施して下さったり、遠隔の会議システムを利用するなど、生涯学習・図書館・文化財のそれぞれで、これまでのコロナ禍で得た IT 技術を駆使しつつ、市民のニーズを考え、工夫した取組が実践されており、大変評価することができます。

### (1) 生涯学習（公民館・コミュニティセンター）

「主体的な学び」の実現につながる学習機会の提供・公民館・コミュニティセンターの充実・地域で活躍する人材の育成と活用、という3つの柱のもと、多くの事業が適切に実施されました。公民館やコミュニティセンターは、地域の市民に知を提供する核となる機関です。新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、多くの講座が工夫のもと実施されたことについては、本当に敬服いたします。また同じような状況下において、市民が講師になるような講座も企画され、実施されたことも、評価したいと思います。

とはいえ、市民が講師となる講座や企画はもっと増えてもよいと思われます。人材の育成や発掘が必要だとは思いますが、アフターコロナということを見据えて、改めて市民や、地域の中学生・高校生・大学生を巻き込めるような講座や企画を期待したいところです。

### (2) 図書館

知的活動を支援する図書館の充実という柱のもと、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、多くの事業が精力的に実施されたことをまずは評価したいと思います。特に読書活動普及行事の参加者数の増加は、市民のみなさんがコロナ禍においてこのような行事を待ち望んでいたことの証明でもあり、この市民のニーズに適切に応えたということで、非常に評価できます。図書館は地域の知の拠点です。本館のコレクション展や企画展の実施、分館での読み聞かせ会の実施など、各館が持ちうる素材や人材を生かした事業は、市民のみなさんが求めるものと考えられ、地域性も発揮される事業ともなり、大変評価できます。

図書館でも市民参加の促進という面は、もっと増えてもよいように思います。令和4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったと思いますし、そのような中でも、ボランティア層の広がりが見えるなど、評価できる点も多かったのですが、今後は夏休みの図書館キッズ、

サマーフレンズ、また図書館の運営そのものにも関わる図書館サポーターなど、市民ボランティアの増強を期待したいです。また、「どこでも借りられてどこでも返せる図書館」は多くの分館を持つ前橋市の特徴であり、市民の利便性の高い事業でもあるので、人員・車両などについてより一層余裕を持った運用を検討して欲しいです。

### (3) 文化財

文化財の保護と活用という柱のもと、まずは史跡の維持という、活用にとっては最も重要なことをしっかりやっていただいた点を高く評価したいと思います。そのうえで、総社古墳群の発掘調査や調査報告書の作成、国府跡の発掘調査など新たな成果も多く、非常に評価できるでしょう。その成果については、新出土文化財展などをはじめとして、展示というかたちでも、市民のみなさんに公開されており、文化財への理解が深まる機会となっています。新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、工夫して学びの場の構築や文化財・伝統芸能に関するイベントを開催していただき、この点も評価したいと思います。

また、ようやく文化財専門職の正規職員の採用が実現したことも大変評価できることです。

一方、やはり新型コロナウイルス感染症の影響を受けたこともありますが、市民ボランティアについては、さらなる拡充を期待したいです。古墳の語り部や前橋観光ボランティア会、総社歴史資料館説明員の会の活動は、アフターコロナで需要が高まることが予想されます。ボランティア人材の確保・養成などに力を入れていただき、市民ボランティアのますますの活躍を希望します。それとともに、若い世代を文化財ボランティアに巻き込んでいく仕組みづくりを検討していただけるとありがたいと思います。まだまだ潜在的な人材は発掘可能だと思われるので、ご尽力いただきたいです。また、文化財専門職の採用については、引き続きお願いしたいところです。

## □ 4 教育環境整備分野

教育環境整備として、環境に配慮した高機能・多機能な施設づくりとともに、安全で安心、健康的で快適な施設づくりを目指します。また、防災の拠点として、安全性の確保や防災機能の強化を図り、災害に強い施設整備を進めます。

学校給食分野についても、栄養バランスの取れたおいしい給食献立を作成するとともに、安全で安心な給食を子供たちに提供します。加えて、地産地消の取組を進め、郷土食を取り入れたメニューの開発などを行いながら、給食を通じた郷土の理解や食育に力を入れていきます。

<施策を進める上での目指す方向性(第2期前橋市教育振興基本計画より)>

### ◇教育施設の整備

個を伸ばす	教育施設の整備に当たっては、所在する地域の歴史・文化・伝統などの特色を活かした整備を目指します。
認め合う	子供たちが交流しやすく、学校と家庭や地域とが連携しやすい教育施設の整備を推進することにより、地域とつながる教育環境づくりを目指します。
創りだす	「教育のまち」を支える施設環境の改善・充実を図ることにより、子供たちが安全かつ快適に過ごすことのできる教育環境の構築を目指します。
未来へ	「前橋市教育施設長寿命化計画」に基づき、対処療法的な維持管理から予防保全的な維持管理へと転換を図ることにより、施設整備にかかるコストの抑制を目指します。 学校施設への防災関連設備の整備を行うことにより、地域の防災拠点でもある学校施設の防災機能を強化します。

(一) 教育施設の整備

#### 【主な事業】

- 施設維持管理事業
  - ・屋上防水工事 元総社小学校 以下4校
  - ・受水槽改修工事 時沢小
- 校舎等大規模改修事業
  - ・校舎長寿命化改良工事 桂萱東小学校
  - ・トイレ大規模改造工事 桂萱小学校 以下8校
  - ・空調設備設置工事 永明小学校 以下6校
  - ・外壁落下防止工事 天川小学校 以下4校
  - ・体育館照明耐震化工事 月田小、原小
  - ・受変電設備更新工事 駒形小学校以下4校
  - ・浄化槽改良工事 上川淵小学校
  - ・校舎等LED化改修工事 細井小学校以下7校
  - ・障害児対策工事 中川小学校以下12校
  - ・芝生化事業 石井小学校、細井小学校
- 図書館新本館基本構想の公表と基本計画(案)の作成

◇子供たちの健やかな成長を育む学校給食の充実

(2) 学校給食

個を伸ばす	多様な食材を取り入れた学校給食を通じて、子供たちが様々な食材や調理と出会える環境を推進します。
認め合う	食物アレルギーや体質などを正しく理解し、同じ献立が食べられない仲間のことを分かり合える子供を育てます。
創りだす	子供たちや保護者、関係者の声を聞きながら、献立の研究や調理の工夫を行うことにより、学校給食がさらに美味しく、給食の時間が楽しくなるような、新しいメニューを創出します。
未来へ	地元の新鮮で安全な食材を積極的に使うとともに、郷土食の提供を行うことにより、子供たちがより身近に地域の自然、食文化について理解し、生産者や料理を作ってくれる人への感謝の気持ちが持てるよう、学校給食を要とした食育の充実を図ります。

【主な事業】

- ・給食物資の地産地消の推進
- ・食育指導（校内放送、リモート講義、資料提供、授業との連携）
- ・献立会議（WEB 開催、物資選定）
- ・学校給食運営委員会の運営
- ・共同調理場の民間委託
- ・食材等の検査（細菌、残留農薬、放射性物質）

## 学 識 経 験 者 意 見

教育施設整備では、1. 学校教育施設の整備、2. 青少年教育施設の管理と整備、3. 社会教育施設等の整備、4. 文化財施設の整備について取り組み、令和4年度の実績は事業指標の目標を概ね達成していることから、A評価としました。特に、校舎等学校教育施設の整備では、安全で安心、健康的で快適な施設づくりを教育施設長寿命化計画に則り整備を進めつつ、各学校から出される要望にも対応することができたことは高く評価できます。

また、防災の拠点として、災害に強い施設整備にも取り組んでおり、学校だけではなく、地域の防災拠点となる公民館の整備も計画通りに進められたことは評価できます。公民館の整備が着実に進むことで、地域住民の日常の利用が促進され、住民同士の交流が促進されることは、防災の観点からも重要であるため、計画通りに進められたことは評価できます。

一方で、教育施設の整備には多額の費用が必要となります。そのため、長期的な計画が最も重要となりますので、今後の児童生徒数や利用者数の推移を見据えながら、整備計画のPDCAサイクルを回していくことが大切です。

図書館の新本館計画基本構想が公表され、市民の知的関心を高め、市民同士の交流を促進する基本方針が示されたことで、新たな教育文化空間の創出への市民の期待を高めることができていると思います。前橋市の重要な文化財保護についても、DXに対応した保護と活用の研究が進められています。

全体として、限られた予算を有効に活用し、維持管理だけでなく新しい教育文化空間をバランスよく創出していこうとする点において、教育施設整備については高く評価できると判断します。

学校給食については、安心・安全な学校給食の安定供給、食育の充実について適切に取り組みました。一方で、野菜の地産地消率が目標値に届かなかったため、総合評価はB評価となりました。

給食については、SDGsの観点からも食べ残しの量(残さ量)の減少や余剰食材の活用について、引き続き改善に取り組んでいく必要があります。また、質の高い給食の安定供給の観点から、共同調理場の施設設備の老朽化、給食費の公費負担問題について議論を進める必要があります。今後の進展に期待します。

# 具体的施策別評価 一覽

## 具体的施策別評価 一覧

□   学校教育分野		施策の柱	施策の目標	所属	評価	頁
義務教育	1	学校力を高める学校経営	1.一人一人がチームの一員として参画する学校づくり	学校教育課	A	31
			2.学校間の連携と家庭・地域の教育力を生かした教育の推進	学務管理課 (学校教育課)	A	32
			3.多様なニーズに対応する教育の推進	教育支援課 (総合教育プラザ)	A	33
			4.教職員の資質・能力の向上	学校教育課	A	34
			5.安全・安心な学校づくりの徹底	学校教育課	B	35
			6.校務の効率化	学校教育課 (総務課)	A	36
	2	魅力あふれる教育活動	1.学び続ける力の育成	学校教育課	A	37
			2.豊かな人間性の育成	学校教育課 (総合教育プラザ)	A	38
			3.健康増進・体力の向上	学校教育課 総務課	B	40
			4.自立性・社会性の育成	学校教育課	B	42
5.個別最適な学びと協働的な学びの推進			学校教育課 (総務課)	B	43	
高校教育	1	学校力を高める学校経営	1.課題の解決に向けて機能する学校運営	市立前橋高校	A	44
			2.教職員の資質・能力の向上を通じた指導力の育成			
			3.生徒指導の充実と良き校風の樹立			
			4.地域とつながる学校づくり			
2	魅力あふれる教育活動	1.特色あるカリキュラムと進路指導の充実	市立前橋高校	A	46	
		2.部活動の指導の充実				
幼稚園教育	1	保育の充実を目指す市立幼稚園の経営	1.園経営の充実に向けた様々な体制づくり	教育支援課 (総合教育プラザ)	A	47
			2.魅力あふれる教育活動の推進			
2	市全体でつながる幼児教育の推進	1.保幼小連携の推進	教育支援課 (総合教育プラザ)	A	49	
		2.就学等の支援				
特別支援	1	特別支援教育及び教育相談機能の充実	1.特別支援教育の充実 2.教育相談機能の充実	教育支援課 (総合教育プラザ)	A	51
教職員育成	1	教職員研修、実践的研究機能の充実	1.教職員研修の充実 2.実践的研究の推進	学校教育課 (総合教育プラザ)	A	53

□ 2 青少年教育分野

施策の柱		施策の目標	所属	評価	頁	
地域健全育成	1	地域健全育成活動の充実	1.地域の人たちによる体験・交流活動を通じた地域健全育成活動の充実 2.放課後の子供の居場所の充実 3.地域寺子屋事業（追加評価項目）	生涯学習課 学務管理課 （青少年課） （学校教育課）	B	54
	2	国際理解教育活動の充実	1.国際理解教育活動の充実	学務管理課 （青少年課）	A	56
青少年センター	1	学校の健全育成活動と、子供をめぐる問題解決への支援の充実	1.学校支援体制の充実と問題行動の防止 2.子供の被害防止活動の充実 3.不登校対策の充実 4.いじめ対策の充実	教育支援課 （青少年課）	B	57
児童文化センター	1	交通安全・天文・環境教育の充実	1.交通安全教室の充実 2.天文教室の充実 3.環境教室の充実	教育支援課 （青少年課）	A	59
	2	自然体験活動の充実	1.自然体験活動の推進 2.里山学校（追加評価項目）	教育支援課 生涯学習課 市民協働課 文化財保護課	A	61
	3	科学・文化芸術教育活動の充実	1.クラブ活動の充実 2.多様な科学・文化芸術に関する教室の充実 3.プラネタリウム番組の制作と投影 4.施設・設備を活用した企画イベントの充実	教育支援課 （青少年課）	A	62
	4	「学び」と「遊び」の充実と多世代交流の推進	1.各種イベントや体験的な事業の推進 2.交通安全に関わる体験の充実 3.市民力の活用と多世代の交流	教育支援課 （青少年課）	A	64

### □ 3 社会教育分野

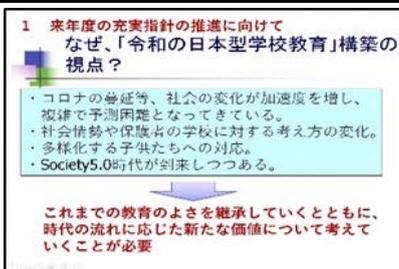
施策の柱		施策の目標	所属	評価	頁
生涯学習	1 「主体的な学び」の実現につながる学習機会の提供	1.子育て、親子支援の充実	生涯学習課	A	66
		2.青少年体験・チャレンジ活動の充実			
		3.生涯学習奨励員活動支援の充実			
		4.自主学習グループ活動支援の充実			
		5.学び合い、人権、地域ふれあいの充実			
	2 公民館・コミュニティセンターの充実	1.公民館における社会教育事業の充実	生涯学習課	B	68
	2.コミュニティセンターにおける社会教育事業の充実				
	3.職員研修の充実				
3 地域で活躍する人材の育成と活用	1.学びの成果の地域還元	生涯学習課	A	70	
	2.地域の人材育成と活用				
	3.青少年の育成推進				
図書館	1 知的活動を支援する図書館の充実	1.暮らしを支えるサービスの充実	図書館	A	71
		2.文化事業の推進		A	72
		3.子ども読書活動の推進		A	73
		4.図書館運営への市民参加の促進		A	74
文化財	1 文化財等の保護と活用	1.文化財等に親しみ、郷土への愛着の心の未来への継承	文化財保護課	A	75
		2.未来へ繋げる人づくり、学びの場の構築と文化財の普及啓発		A	76
		3.郷土の魅力の発見と新たな創出		A	77
		4.市民ボランティアとの連携、円滑な協力体制づくり		A	78
		5.郷土の伝統文化・伝統芸能の継承		A	79

### □ 4 教育環境整備分野

施策の柱		施策の目標	所属	評価	頁
教育施設整備	1 教育施設の整備	1.学校教育施設の整備	教育施設課	A	80
		2.青少年教育施設の管理と整備	生涯学習課 (青少年課)		
		3.社会教育施設等の整備	生涯学習課 図書館		
		4.文化財施設の整備	文化財保護課		
学校給食	2 子供たちの健やかな成長を育む学校給食の充実	1.学校給食を要とした食育の充実	総務課 学校教育課	B	84
	2.安全・安心でおいしい学校給食の安定供給				
	3.共同調理場の運営方法の適正化(民間委託)				

# 具体的施策別評価

(具体的施策評価シート)

分野		施策の柱		
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営		
施策の目標			評価	
1. 一人一人がチームの一員として参画する学校づくり				
担当課	学校教育課		A	
重要施策				
<p>・「チーム学校としての協働的な取組例」や「校務分掌における一人一人の役割の明確化」など、学校教育充実指針推進教諭が円滑に推進できるようにするための情報共有の場としての推進部会を開催する。</p> <p>・カリキュラム・マネジメントの充実を図るために、学校評価システムに基づいた活用上の支援や情報提供を行う。</p>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
学校評価 「充実指針を生かした学校課題の解決に向けた取組」についての教師の回答（4段階評価の上位2位の割合）		91%	95%	91.9%
実績	<p>●推進部会の開催（2回・オンライン会議による開催） →全体での研修や情報交換を実施。 （第1回）充実指針の趣旨や推進教諭の役割等を確認。各学校で実際に行われている推進上の具体的な方策について情報交換を実施。 （第2回）次年度の充実指針の推進に向け「令和の日本型学校教育の構築の視点から」個別最適な学びと、協働的な学びの実現等について研修。年間の推進上の工夫点及び成果や課題について班別による情報交換を行い、改善策について協議を実施。</p> <p>●学校評価アンケートの実施 →令和3年度から一人一台タブレットが導入されたことにより、紙面実施からタブレットで実施する方法に変更。実施、集計、分析がより効率的に行えるようになった。アンケートは、Google フォームで作成。アンケート結果は、自校での分析の依頼とともに報告を受け、本市の全体的な傾向について分析、各学校へ通知するとともに研修会や紀要で周知。担当者へのサポートについても、研修の実施やGoogleドライブに各資料を保存し、いつでも確認ができる環境を整えた。</p>		<p>(第2回) 推進部会資料</p>  <p>これまでの教育のよさを継承していくとともに、時代の流れに応じた新たな価値について考えていくことが必要</p> <p>教職員に学校評価アンケートのURLを配付する 学校評価担当者の作業</p>  <p>学校評価アンケートマニュアル</p>	
	評価理由	各学校において、推進教諭を中心として、学校課題の解決に向けた取組の推進がおおむね図られているため、A評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<p>●推進教諭の経験等の差による取組の学校間格差、組織的・計画的な推進が課題。各学校の推進教諭が役割を十分に自覚したうえで、コーディネーターとしての取組を適切に推進できるよう、計2回の推進部会場で意見交換や交流の時間を十分に確保する。また、校長会議や計画訪問等の機会を活用して、実践事例や具体的な取組方についての共有・周知を図っていく。</p> <p>●充実指針推進上の課題について推進部会で情報共有を図る。改善策について協議を行い、各学校の取組を推進できるように工夫していく。</p> <p>●各学校において学校評価の結果を効果的に生かし、組織的・継続的にカリキュラムマネジメントの充実が図れるよう、継続して教務主任研修等の機会を通じて、さらに周知していく。</p> <p>●第3期教育振興基本計画を踏まえつつ、これまでの教育に「令和の日本型学校教育」の視点から新たな価値を加え、より一層学校現場の取組の実態に応じるべく大幅改訂した令和5年度版「まえばし学校教育充実指針」を、教育の主体である一人一人の教職員や学校が、様々な教育活動の場面で参考とし拠り所となれるよう周知する。</p>			

学識経験者意見
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進教諭のコーディネーターとしての技量を高めるため、推進部会を2回行い、特に第2回部会では班別協議を持っていることが特徴です。先生方同士が交流、対話することで、それぞれの学校の成果や課題について情報交換するだけでなく、企画力やコーディネイト力についての気づきや学びを得る場にもなりました。</li> <li>・学校評価については、Googleフォームが導入され、効率的にデータ収集ができるようになりました。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き、推進部会において意見交換や交流の機会を十分に持つことが望まれます。</li> <li>・指針が改訂され令和5年度版となりますが、改訂のポイントや改訂をふまえた教育活動のあり方などを、教職員に分かりやすく具体的に示し、共通理解をはかることが大切だと思います。</li> </ul>

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営			
施策の目標				評価	
2. 学校間の連携と家族・地域の教育力を生かした教育の推進				A	
担当課	学務管理課（令和4年度：学校教育課）				
重要施策					
・保護者や地域住民の学校運営への参画と学校支援を一体的に実施する学校支援協議会〔前橋版コミュニティスクール〕の推進に向けた情報提供及び学校訪問による支援を行う。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
学校評価 （保護者や地域住民との協働による学校運営の仕組みづくりの推進に関する保護者の回答4段階評価で上位2位以上の割合）		77%	80%	78.5%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前橋版コミュニティ・スクール導入校を国版コミュニティ・スクールに移行することを決定 →小学校5校、中学校2校を国版コミュニティ・スクールに移行するために、校長会議や公民館長会議で国版コミュニティ・スクールへの移行に関する説明を行った。また、「学校運営協議会の設置等に関する規則」を制定し、審議会開催手順の確認・周知を行う等、次年度に向けた体制整備を行った</li> <li>●コミュニティ・スクール研修会の開催 →各学校の代表者が参集し、中部教育事務所の社会教育主事を講師として「コミュニティ・スクールと地域とともにある学校づくり」と題して研修会を開催した。次年度に国版コミュニティ・スクールに移行予定の学校では、学校だよりを通じて学校支援協議会の様子を周知した。また、学校支援協議会の委員を通じて地域住民や保護者の人材を紹介してもらい、職業講話の講師になってもらう等、委員が積極的に地域とのつながりづくりの役割を果たした。</li> </ul>		 <p>学校支援協議会</p>		
	評価理由	国版コミュニティ・スクールの導入に向けての体制整備を行うことはできた			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係課との協議を継続し、連携を図りながら、国版コミュニティ・スクールへの円滑な移行を進める。</li> <li>●国版コミュニティ・スクール導入校及び該当公民館・コミュニティセンターへの支援を継続し、状況の正確な把握を行い、よりよい体制の整備に努める。</li> <li>●令和5年度導入校の成果と課題の分析及び次年度に向けての情報発信を行っていく。 （令和6年度には各公民館・コミュニティセンターの区域内に1校ずつ、計15校に導入予定である。15校については、公民館職員が学校評議員になっている学校の中から選定する。それ以外の学校及びコミュニティセンターが担当となる学校については、関係課との情報交換や、校長・公民館長・コミュニティセンター所長・地域担当専門員の意向を踏まえて選定を行う。令和7年度には、全校導入予定となっている。）</li> </ul>				

#### 学識経験者意見

##### 【評価できる点】

・コミュニティ・スクール導入に向けて、体制の整備が進められています。  
 ・前橋版コミュニティ・スクールの導入校増加には至らなかったものの、「地域とつながる学校づくり」を積極的に進めようとしていることは見て取れます。学校評価における保護者の回答もおおむね肯定的で、一定の理解が得られていることが伺われます。また、学校関係者を対象に研修会を行っていること、学校だよりを通して学校支援協議会の様子を周知していること、そして委員が積極的に地域との繋がりを作っていることも評価できます。

##### 【改善・対応が必要な点】

・地域との繋がりを広げ持続させていくには、広く保護者や地域の人々にコミュニティ・スクールの意義を知ってもらい、地域との協働活動についての具体的なイメージを持ってもらうことが大切だと思います。今後も学校だよりや、様々な機会をとらえて周知していくことが望まれます。

分野		施策の柱		
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営		
施策の目標			評価	
3. 多様なニーズに対応する教育の推進			A	
担当課	教育支援課（令和4年度：総合教育プラザ）			
重要施策				
・障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指した指導を推進するために、校内委員会による組織的な取組を進めるとともに、個別の教育支援計画等に基づいた指導・支援の充実や会計年度任用職員の効果的な活用を図る。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
配置した学習サポーターの成果調査「効果的な活用のための評価項目に対する評価」（5段階評価で上位1位の割合）		52%	60%	61%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援教育に係る会計年度任用職員（学習サポーターや特別支援学級介助員）を学校の要望、対象となる児童生徒の状況を精査して配置。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→学習サポーター：72人（対前年5人増）</li> <li>→特別支援学級介助員：71人（対前年5人増）</li> </ul> </li> <li>●学習サポーター等の研修を学期毎に実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→資質を高めるための研修（関わり方の基本）</li> </ul> </li> <li>●教員に対する研修会を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→校内研修講師や要請訪問助言等37回実施（対前年7回増）</li> <li>→担当指導主事等が学校に訪問して助言</li> </ul> </li> <li>●外部講師を招聘した講演会を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→特別支援学校の研修会を含めて3回実施</li> </ul> </li> </ul>		 <p>特別支援学級介助員の支援の様子</p>	
	評価理由	調査結果において目標値に達しており、調査の記述内容から学習サポーター等の活用は十分に図られていることが分かり、資質を高めるための研修の成果が見て取れるから。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援学級数や特別支援学級在籍児童生徒数の急激な増加に伴う対応が課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中で特別支援学級へ転籍する児童生徒も多数</li> <li>・多くの学校から介助員の配置要望があるが、全てに対応することは困難。</li> </ul> </li> <li>→人的配置が対応できない部分は校内体制の整備や対応の仕方の工夫に向けて、学校訪問による管理職や担任等へ学校の実態に応じた具体的な助言を実施。</li> <li>→令和4年度から指導主事が1名増員となったことで、指導主事2名で業務を分担し、1名が前橋特別支援学校の専門アドバイザーとともに、特別支援学級の担任へのきめ細かな指導助言を実施。</li> <li>→特別支援学級介助員の増員を継続要望</li> <li>●学習サポーター等の資質向上に資する研修会の継続実施</li> <li>●教職員の専門性の向上を図るため、特別支援教育室や特別支援学校での研修会を継続実施</li> <li>●巡回相談の相談員や特別支援教育室の指導主事等が学校を訪問し、具体的な相談や助言を継続実施</li> <li>→不安の解消と専門性の向上とともに、校内の支援体制の整備を図る。</li> </ul>			

学識経験者意見
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的配置ができていない部分について、指導助言など可能な対応に手を尽くしていることは評価できます。学校訪問による指導では、一人一人の子どもの様子を観察した上で個別の指導をしていて、きめ細かな指導ができています。</li> <li>・学習サポーターには、子どもとの具体的な関わり方などについて班別研修も含めた提案型の研修が行われており、資質向上に繋がっています。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介助員等の配置要望には、応えられていないのが現状です。児童生徒にとって十分な支援が受けられないことが懸念されます。また、担任等に大きな負担を強いているケースもあるかと思えます。教職員の努力では限界があると考えられ、なお増員が求められていると言えるでしょう。同時に、専門性を高めるための研修会や、校内での支援体制の整備を、今後もいっそう進めていくことも求められます。</li> <li>・校内での支援体制を機能させるには、対象児童生徒についてケース会議だけでなく全ての教職員で共通理解を図り、校内全体で協力し合う風土づくりが大切です。このあたりは学校によって実態が異なり、一律の取組は難しいと思います。今後も引き続き、指導主事等が積極的に学校に関わり、きめ細かな指導助言をすることが欠かせません。</li> </ul>

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営			
施策の目標				評価	
4. 教職員の資質・能力の向上				A	
担当課	学校教育課				
重要施策					
・計画訪問や要請訪問における充実指針や教科等の努力点を踏まえた具体的な取組についての指導・助言を行う。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
学校訪問の評価 学校訪問報告書の「指導・助言は役に立った」と回答した学校の割合（5段階評価で上位1位の割合）		99%	97%	100%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●24回行った計画訪問に加え、積極的な要請訪問の呼びかけを行った結果、各学校から86回の要請があり、各学校の教育課題を踏まえた具体的な指導を実施した。</li> <li>●授業参観を通じた研究会や指導・講評では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「各教科等の指導の努力点」「まえばし学校教育充実指針」「指導と評価の一体化」などを踏まえ、実例紹介なども含めた指導・助言を実施した。</li> <li>●学校訪問で見られた優れた授業実践は、校長会議や教頭会議で紹介し共有。また、管理職が教員へ指導・助言する際に生かせるようわかりやすい資料を作成した。</li> <li>●年度当初に、充実指針や努力点との関連を記載する学級・教科経営案様式を校務支援システムに掲載。各種経営案と自己申告書の記載内容の整合を図る旨を記載し、関連させて取り組めるようにした。</li> </ul>				
	評価理由	学校訪問報告書で100%「指導・助言は役に立った」の回答があり、各学校において、児童生徒が主体となる授業や問題解決的な授業づくりに向けた授業改善がおおむね図られているため。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業改善の視点として、単元を通して育成したい資質・能力の明確化を図ることを意識づけるとともに、その実現に向けて、引き続き、各教科等の見方・考え方を働かせた授業づくりの推進と子供たちが学びを深めた姿を具体化して授業実践に取組むよう指導助言をしていく。</li> <li>●令和4年度に改訂・デジタル化を行った「まえばし学校教育充実指針」について、より具体的な活用場面や効果的な実践事例等の積極的な紹介を行い、学校を中心に家庭や地域も含めた教育活動の活発化を図れるよう指導助言をしていく。</li> <li>●指定校として、昨年度同様、学力向上（小学校3校）、体力向上（小学校1校）、ICT活用（小学校1校、中学校1校）の指定に加え、教科を指定せず全ての教科における「総合的な学力向上」の実現を目指す指定校、各教科を横断した学びを活用した「総合的な学習の時間」の指定校を、中学校各1校ずつに加え、指定校からの要請に応じた訪問を通し教師の指導力向上や今日的な教育課題の解決を図るための取組への指導・助言を行う。また、研修会や校務支援システムで研究成果を紹介し市内の学校の授業改善に向けた取組に役立つよう努める。</li> <li>●計画訪問に加えて学校からの主体的な要請を引き続き積極的に呼びかけ、児童生徒理解に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践力を目指し、教職員の資質・能力の向上を図る。</li> <li>●各種経営案や自己申告書の作成に当たっては充実指針や努力点を十分に踏まえること。また、その点に留意しながら実践を進めていくことについて、引き続き、教務主任会や研修等の場で説明し促していく。</li> </ul>				

#### 学識経験者意見

##### 【評価できる点】

・精力的に学校訪問、指導助言がなされています。積極的な要請訪問を呼び掛けていること、また優れた授業実践を学校間で共有していることも評価できます。新指導要領ではとりわけ幅広い視点での授業改善が求められており、現場の教師にとって課題も多いと思います。以前から本市では、指導助言にあたって授業や教師の良い点、強みや魅力といった肯定的な側面を積極的に取り上げていると聞いています。そのように教師の意欲を喚起しながら指導を行っている点も評価できます。

##### 【改善・対応が必要な点】

・今後も引き続き、教師にとって伴走者となるような指導助言を進めていければと思います。

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営			
施策の目標				評価	
5. 安全・安心な学校づくりの徹底				B	
担当課	学校教育課				
重要施策					
・学校安全計画や学校保健計画等の見直し・改善などに関わる資料や情報の提供を行う。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
学校評価 「交通事故や火災・地震・不審者などの危険から身を守る方法を理解している」と回答した児童生徒の割合（4段階評価で上位2位以上の割合）		95%	100%	95.6%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各学校へ定期的に学校安全総合点検の実施を指導 →施設設備の組織的な安全管理の徹底を図った。</li> <li>●防災危機管理課と連携した体験・学習の実施 →避難訓練における地震体験車を活用した防災啓発18校 →避難所設営や備蓄物など体験的・総合的に学ぶ学習10校 →参集やりもートによる防災講話4校</li> <li>●交通安全教室の実施（協力：交通政策課） →計画に基づき、小学校22校、中学校7校で実施</li> <li>●通学路の合同点検の実施 →危険箇所を把握し、危険度が高い場所を優先的に学校・保護者や地域の代表・警察・道路管理者・教育委員会で点検。区画線の引き直しなど具体的な対策を進め、効果を振り返った。</li> </ul>		 <p>避難所の資機材体験</p>		
	評価理由	各学校では児童生徒に対して、計画的な安全指導や安全教育が継続して行われていたが、目標の数値に至らなかったため、B評価とした。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が自ら状況を判断し、危険を予測し、回避できるよう指導するために、引き続き実践型の安全教室・避難訓練や家庭・地域と連携した安全教育の事例を収集し、情報提供することで各校の取組に生かせるようにする。</li> <li>●通学路の安全確保に向け、学校・保護者や地域、関係諸機関との連携を図る。各関係諸機関は通学路の合同点検を今後も継続して実施し、対策後の効果についても振り返りを行う。</li> <li>●親と子の交通安全教室や自転車交通安全教室等、関係課と連携した取組を今後も推進し、安全教育の内容を、一人一人が自分事として捉え、日々の生活に生かせるように教室実施後の帰りの会等で振り返りを行う。</li> <li>●防災学習、避難所開設の防災訓練等、防災危機管理課と連携した取組を今後も推進する。関係各所と計画的に安全教室や避難訓練を行い、児童生徒の安全への意識の高揚を図る。また、実施後の振り返りの場を充実させ、実施後の子供たちの感想等を学級や学年、学校通信等で紹介し、教職員や児童生徒の防災意識の向上を図る。</li> </ul>				
学識経験者意見					
<p>【評価できる点】</p> <p>・児童生徒自らが危険回避できるよう、実践型の訓練や安全指導が行われていることは高く評価できます。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・目標が100%とされているのは、危険回避は全児童生徒にとって重要な課題であるからです。理解していない児童生徒が一人でもいれば、大きな事故に繋がりがかねません。この数値は学校評価のものですが、実績が100%に届かない理由には、「身を守る方法を理解している」ことの捉え方にばらつきがあることも考えられます。そこで、訓練や指導のさいには、事後指導も丁寧に行うことが必要だと思います。「何をどの程度理解する必要があるのか」「理解できているかどうか」、そして「自ら状況を判断し危険を回避できるか」など今一度振り返らせて、児童生徒へ意識付けを行なうことが大切でしょう。そのうえでワークシートなどを書かせ、理解が十分でない児童生徒には個別に指導することも考えられるでしょう。児童生徒全員が自ら状況を判断し、危険を予測し回避できるように、引き続き指導の徹底が求められるかと思えます。</p>					

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営			
施策の目標				評価	
6. 校務の効率化				A	
担当課	学校教育課 (令和4年度: 総務課)				
重要施策					
・ G I G Aスクール構想により整備された1人1台端末を最大限に活用し、従来紙で配付していた学習プリントや学校通信、学校評価アンケートについて、極力、データにて配付・回収する習慣の定着を図ることで、より一層の校務の効率化を図る。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
GIGAスクール構想で整備された1人1台端末の活用により配布物の配付や各種調査などの校務の負担軽減に繋がったかについて、全教職員を対象に4段階で調査 4.とても思う 3.そう思う 2.あまり思わない 1.全く思わない有効回答のうち、上記4段階評価で上位2位以上の割合		83%	85%	88.0%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度末に児童生徒1人1台の整備を完了した学習者用端末の活用 →令和3年度途中からはじめた配布物の配付や各種調査などの配付・回収という活用方法を令和4年度も継続して実施。</li> <li>●保護者へのお便りやチラシ等を端末にデータ配付 →令和3年7月から活用を実施し、令和4年度も継続。教職員の印刷・配付に係る校務の負担軽減に寄与。</li> <li>●学校評価アンケートを端末にデータ配付 →令和4年度も10月以降に実施。印刷・配付や集計に係る校務の負担軽減に寄与。</li> <li>●全教職員対象のアンケート結果 →本施策に対する上位2位以上の割合 8月実施時 86% 2月実施時 88%</li> </ul>				
	評価理由	令和4年度の目標であった数値を更新することができたため、A評価とした。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も1人1台端末を活用し、学校通信や学級通信、学校評価アンケートをデータ配付することで校務の負担軽減に繋がるよう取り組んでいく。</li> <li>●教育情報システム利活用推進委員会の校務支援部会で実施した全教員対象の利活用アンケートの結果から、学校現場の意見を十分に取り入れながら、1人1台端末を最大限に活用し、校務の効率化を図る取組を推進していく。</li> <li>●コロナ禍が落ち着いたところから、他所属や他団体からのチラシ等のデータ配信希望が増加傾向となり、情報の軽重の付け方や情報発信の工夫が課題である。</li> </ul>				
学識経験者意見					
<p>【評価できる点】 様々な業務改善が行われており、実際に負担軽減に繋がっている点は高く評価できると思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】 今後も端末の利用機会は増えるでしょうし、データの配信も増えて行くと思います。現在は効率的であっても、今後は変える必要が出てくる可能性もあります。例えばチラシ配信も、少数なら一斉配信で済みますが、大量となるとリスト形式にまとめた方が便利でしょう。このように、利活用については常に実態を捉える必要があると思います。今後も利活用アンケートなど、現場の意見を継続的に取り入れることが望まれます。</p>					

分野		施策の柱	
学校教育分野	義務教育	(2) 魅力あふれる教育活動	
施策の目標			評価
1. 学び続ける力の育成			A
担当課	学校教育課		
重要施策			
<p>・「教育課程編成・実施の手引き」「『指導と評価の一体化』のための学習評価のポイント」に基づく授業づくりや学習評価についての助言及び指定校や教科別研究会の取組についての支援を行う。</p> <p>・基礎学力の定着を把握するための学力検査の実施と指導充実・改善のための分析シート及び指導資料を作成する。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
学校評価「学習のめあてをもち、進んで取り組み、考えを伝え合いながら、学びを深めることができている」と回答した児童生徒の割合（4段階評価で上位2位以上の割合）		85%	85%
学校評価「授業で学習した内容を理解している」と回答した児童生徒の割合（4段階評価で上位2位以上の割合）		89%	92%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点から、教師の子供たちに対する働きかけや問いかけの工夫などを各教科等指導の努力点に明記。努力点を踏まえた効果的な取組について教頭会議や教科別研究会の授業公開、学校訪問における指導助言等で支援。</li> <li>●標準学力検査CRTを実施。結果分析シートを作成し、各学校の成果と課題を踏まえた指導の充実・改善に向けた取組を明確化。また、各学校の効果的な取組の確認や授業研究会での助言により課題解決のための授業改善を支援。</li> </ul> <p>→令和4年度の調査結果では、本市の平均得点率は国語、算数・数学ともに小中学校全ての学年において全国を上回った。</p>		 <p>児童生徒が主体となる授業</p>
	評価理由	目標に対し達成度が同程度であるが、各学校において、児童生徒が主体となる授業や問題解決的な授業づくりがおおむね図られているため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた児童生徒が主体となる授業や問題解決的な授業の推進、言語活動の充実等について、各種指導資料や具体的な指導事例の紹介、授業づくりについての助言を行うなど、引き続き学校訪問等で指導していく。</li> <li>●学力検査、学校評価アンケートにおける児童生徒や保護者の評価結果等から、各学校の成果と課題を踏まえた指導の充実・改善に向けた取組を明確にできるよう今後も情報提供を行う。</li> <li>●学習に困難さを感じている児童生徒に対しても、個に応じたきめ細かな対応を意識した授業改善を図っていくよう、個別最適な学びと協働的な学びの両立に向け、計画訪問や要請訪問で指導助言を行っていく。</li> </ul>		

学識経験者意見	
<p>【評価できる点】</p> <p>・指標の一つは「学習のめあてをもち、進んで取り組み、考えを伝え合いながら、学びを深めることができている」です。教師なら指導要領が思い浮かびますが、児童生徒にとっては動詞がいくつも並んでいて、何を聞かれているのか分かりにくいのではないのでしょうか。それでも8割の児童生徒が肯定的に回答しているのは、日ごろから教師が授業で「めあて」を明確に示し、これらの言葉を繰り返しながら指導を行っていることが反映されているのだと思います。</p> <p>・CRTの成績も全国を上回り、学力向上にも繋がっています。授業改善の成果が表れていると言えます。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・「授業が理解できている」との回答が9割ですが、残り1割の児童生徒が気になります。その中に授業を理解することに困難さを感じている児童生徒が含まれているなら、例え少数であっても無視できません。今後とも、個に応じたきめ細かな対応が必要でしょう。</p>	

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(2) 魅力あふれる教育活動			
施策の目標				評価	
2. 豊かな人間性の育成				A	
担当課	学校教育課 (令和4年度: 学校教育課・総合教育プラザ)				
重要施策					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考え、議論する道徳」の授業づくりについての指導・助言や研修会を実施する。</li> <li>・主任会や計画訪問における実践事例の紹介及びあたたかな人間関係を築くための考え方や具体的な指導の在り方についての指導・助言を行う。</li> <li>・人権教育研修、人権教育授業研修等において、同和問題等の重要課題の理解をはじめ、各校における人権教育の推進を図る。</li> </ul>					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
学校評価 「道徳の授業などで、自分自身を見つめ直し、よりよい生き方について考えている」と回答した児童生徒の割合(4段階評価で上位2位以上の割合)		89%	90%	88.5%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小・中合同道徳主任研修会の開催(10月に開催) 講師: 群馬大学 益田 裕充 教授</li> <li>●教科別研究校を中心に訪問 →道徳科の授業づくりの講義や指導案検討、授業参観、授業研究会での指導講評などを実施。</li> <li>●テーマ別研修『考え、議論する道徳』の授業づくり研修 実施 参加者: 中学校の教諭39名 講師: 群馬大学 久保信行教授</li> <li>●「小・中学校初任者研修」、「中堅教諭等資質向上研修」「小・中学校6年経験者交流会(希望研修を含む)」等の実施 →同和問題や子供に関する人権問題、ジェンダー平等やセクシャルマイノリティについての理解を深めた。 →参加者から、「常時指導の大切さ」や「自身の人権感覚を磨いていくことの必要性」等に気付いたとの感想が寄せられた。</li> <li>●人権教育研修及び人権教育授業研修の実施 →複数年かけて多くの教諭に広げられるように過去に受講していない教諭を対象として実施(人権教育研修)。 →縮小した授業公開と紙面開催で実施(人権教育授業研修)。 →元総社中での研究授業及び人権教育の情報を共有。各校・園の人権教育の取組は、アンケートで集約したものを情報提供。</li> <li>●人権教育に関わるDVD等教育資料の情報提供 →「人権教材」はのチラシを校長会議にて毎月配付。市内幼・小・中・高等学校、特別支援学校へ周知。</li> <li>●法定研修(初任者及び12年目の教員対象)、節目研修、分掌の担当に向けた指定研修、希望研修などを設置 →それぞれの狙いに即した講師、内容を選定して実施。</li> </ul>		 <p>教科別研究校での授業</p>		
	 <p>元総社中 人権教育授業研修(道徳授業)</p>				
評価理由	目標に対し達成度が同程度であるが、各学校において道徳主任や道徳教育推進教師を中心として、学校全体で道徳教育の推進がおおむね図られているため、A評価とした。				

今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主任会や計画訪問、要請訪問の際に、市教委発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価のポイント」や、県教委発行の「はじめよう！道徳科」「深めよう！道徳科」などの活用を促し、「考え、議論する道徳」への授業改善を推進するとともに、各校のニーズにあった情報提供や指導・助言を行い、各校の道徳教育の充実を図っていく。</li> <li>●道徳教育指定校の研究内容や、計画訪問、教科別研究公開授業などで見られた優れた授業実践は、校長会議、教頭会議や校務支援システムなどで紹介し、市内全体に周知していく。</li> <li>●教師としての人権意識を高められるように、人権の重要課題に対する指針や取組例、今日的な課題や法令の改正などについて、研修の場や主任会の場を活用して各学校へ広めていく。</li> <li>●引き続き、家庭・地域・児童文化センター等と連携し、身近な自然や地域を活用しながら探究的な学習を進め、自ら環境を守っていききたいという態度を育てていく。</li> <li>●学校における人権教育の活性化を図るため、人権教育主任会や各研修等の機会に、重要課題に対する具体的な取組例や人権教育に関する資料などをより効果的に活用できる方法を紹介していく必要がある。</li> </ul>
-------------	--

学識経験者意見
---------

<p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会、学校訪問での指導講評などが着実にされており、大学から講師を呼ぶなど研修の質向上も意識されています。特に人権教育研修や人権教育授業研修では、多くの教諭が受講できるように複数年かけて実施されているなど工夫もなされています。</li> <li>・指標にある「自分自身を見つめ直し、よりよい生き方について考えている」という問いは、簡単ではないように思いますが、それでも9割が肯定的に回答しているという結果は、道徳の授業を始めとして、こうしたテーマで日頃から考えさせたり、議論させたりしていることの現れと見ることもできるでしょう。</li> </ul> <p><b>【改善・対応が必要な点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日的な課題については、今までにない対応が必要となることも考えられることから、常に最新の事情を理解しておくことが求められます。今後も継続的に多くの教職員が研修を受け、意識を高めていくことが期待されます。</li> </ul>
--

分野		施策の柱		
学校教育分野	義務教育	(2) 魅力あふれる教育活動		
施策の目標			評価	
3. 健康増進・体力の向上			B	
担当課	学校教育課・総務課			
重要施策				
<p>・新体カテストの結果分析から本市や各校の課題を明らかにし、課題解決に向けて協議や情報交換をしたり、指定校や先進校の取組や授業実践を共有したりする体育主任会・研修会を開催する。[学校教育課]</p> <p>・健康教育に関する研修会や学校保健会事業等を通して、児童生徒の望ましい生活習慣の定着に向けた指導の充実を図るとともに、保健主事部会や養護教諭部会で、家庭と連携した取組の在り方について情報交換し、健康課題の解決に向けた計画的・組織的な体制づくりを進める。[総務課]</p>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
①H23実施の新体カテスト（前橋市）の平均値を上回る種目の割合		①59%	①75%	①57.3%
② 学校評価【変更可能性有】 「進んで運動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合（4段階評価の上位2位以上の割合）[学校教育課]		②82%	②87%	②83.6%
学校評価「『早寝・早起き・朝ごはん』など、規則正しい生活に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合（4段階評価の上位2位以上の割合）[総務課]		77%	80%	77.3%
実績	<p>●体力テストを踏まえた体力向上策の検討依頼 →結果から分かった本市の児童生徒の体力の現状や課題を校長会や体育主任会において伝達。</p> <p>●体力向上実施プランの作成 →本市独自の「体力向上ステップアップシート」をもとに、児童生徒の実態を踏まえたプランを各校で作成。効果的な体力向上に努めた。</p> <p>●望ましい生活習慣の定着に向けた指導の推進 →肥満傾向のある児童生徒及びその保護者を対象としたリモートによる健康教室や、保護者等に対する個別の食事指導を実施。</p> <p>→健康教室（実施回数9回 参加人数14人） 食事指導（実施校数7校、参加者数（保護者44人、児童21人））</p>			
	 <p>体育の授業</p>		 <p>リモートによる健康教室</p>	
評価理由	<p>新体カテストの結果が、小中学校、男女ともに低下傾向となり、「上体お越し」「反復横跳び」「20mシャトルラン」で低下がみられたため。</p> <p>食事指導の実施校は1校増加、参加者数も保護者・児童ともに増加したが、健康教室の参加児童数が令和3年度より6名減少し、規則正しい生活に取り組んでいると回答した児童生徒の割合も目標値に達しなかったため。</p>			
今後の課題及び取組方針	<p>●体を動かすことの楽しさや充実感を味わわせる指導や教材の工夫を図る研修会を今後も継続させていく。また、「体力向上ステップアップシート」も引き続き活用し、各校の実情に応じた、より具体的な体力向上実践プランの作成により、運動好きな子供の育成を図っていく。</p> <p>●体育主任会では、体力向上に向けた取組を充実させるよう情報交換を行う。また、体育実技研修会では、引き続き、楽しく安全な授業づくりや教材の工夫を豊富に盛り込んだ研修を実施していく。</p> <p>●食に関する指導情報交換会の実施とともに、今年度も効果が見られた授業実践の集約・共有を継続していく。また、学校が食に関する指導が効果的であったと実感できるような授業を充実していく。</p> <p>●市教委担当者と家庭科や栄養教諭、養護教諭の教科等指導員を中心に、栄養教諭等や給食主任会役員と連携して、望ましい生活習慣の定着に向けた指導方法や指導計画を工夫していく。</p> <p>●会場まで遠い地域の児童や、保護者の仕事の関係などで参加をあきらめていた児童の参加を後押しできることから、リモート形式での健康教室を継続していくとともに、実施方法・内容の充実を図っていく。</p>			

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

- ・新体力テストの結果については、校長会や体育主任会で現状や課題が共有され、体力向上策の検討が進められています。「体力向上ステップアップシート」も活用されており、児童生徒の実態に合わせた指導が行われています。
- ・健康教室や食事指導も着実に行われ、リモート形式も活用されています。

### 【改善・対応が必要な点】

- ・新体力テストの結果は低下傾向です。依然としてコロナ禍の影響も考えられ、分析が必要ですが、身体を動かすことの楽しさや充実感を味合わせる指導や教材の工夫は、大切なことと思います。引き続き「体力向上ステップアップシート」の活用など、体力向上の取組を進めて行ければと思います。
- ・健康教室や食事指導も、対象数こそ少ないものの欠かせない取組と思います。今後も継続して内容の充実をはかって行ければと思います。

分野		施策の柱		
学校教育分野	義務教育	(2) 魅力あふれる教育活動		
施策の目標				評価
4. 自立性・社会性の育成				B
担当課	学校教育課			
重要施策				
・発達の段階に応じた取組を支援するキャリア教育推進協議会や各学校のキャリア教育の理解と推進を図る研修会を開催する。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
学校評価 「自分の将来や進路に向けて必要なことを考えたり、調べたりしている」と回答した児童生徒の割合（4段階評価で上位2位以上の割合）		77%	82%	77.2%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まえばしキャリア教育推進協議会研修会の実施 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで実施) 対象：幼・小・中・高等学校のキャリア教育担当教諭 講師：前橋国際大学 奥田雄一郎教授 内容：キャリア教育について講演を聞いた後、各学校（園）が作成した全体計画を基に情報交換を実施。</li> <li>●職場体験活動の実施 実施校 13校</li> <li>●社会人講話の実施 実施校 13校</li> </ul>		 <p>職場体験学習</p>	
	評価理由	コロナ禍であったが、令和3年度の経験を踏まえて各学校（園）で、感染予防を行いながらキャリア教育を実施したが、令和3年度の実績と同等であったため。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育推進協議会の開催の時期を検討し、協議会で得たことや各学校（園）で情報共有したことを、年度内に各学校（園）で生かせるようにする。</li> <li>●令和5年度のキャリア教育推進協議会で前橋国際大学の奥田雄一郎教授を講師としてキャリア・パスポートに関する研修を行い、キャリア・パスポートについての活用が図られるように努める。また、児童生徒の成長にとって日常的に有益な活用ができるよう、自らの学習活動をその都度振り返らせるなど、内容や扱い方を工夫していく。</li> </ul>			

学識経験者意見
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験活動や社会人講話をはじめ、各学校で地域と連携したキャリア教育が進められています。生徒の感想や事業所からの声を見ると、内容も充実していることが伺われます。</li> <li>・キャリア教育推進協議会では、例年、奥田先生に講師をお願いしており、充実した研修となっています。各学校の全体計画をもとに情報交換が行われている点も、評価できると思います。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・パスポートについては、どう活用するかが考えどころです。児童生徒が日常的に手に取り、振り返りに使えるよう、内容や扱い方を工夫する必要があると思います。</li> </ul>

分野		施策の柱			
学校教育分野	義務教育	(2) 魅力あふれる教育活動			
施策の目標				評価	
5. 個別最適な学びと協働的な学びの推進				B	
担当課	学校教育課（令和4年度：総務課）				
重要施策					
・GIGAスクール構想により子供たち1人1人に配付された端末を最大限に活用し、すべての子供へ学びの保障ができるよう、端末や学習用ソフトウェアの安定運用を図っていくとともに、必要な場合には端末の再配置やアカウントの追加等、柔軟に対応していく。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
GIGAスクール構想で整備された1人1台端末と学習用ソフトウェアを、個別最適な学びと協働的な学びでの活用が図れたかについて、全教職員を対象に5段階で調査 5.ほぼ毎日 4.週に3~4回 3.週に1~2回 2.ほぼ使わない 1.使っていない 有効回答のうち、上記5段階評価で上位3位以上の割合		49%	55%	45.0%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度末に児童生徒1人1台の整備を完了した学習者用端末の活用を促進</li> <li>●「個別最適な学び」及び「協働的な学び」のためのソフトウェアの活用</li> <li>●「個別最適な学び」ドリル学習ソフト</li> <li>●「協働的な学び」自分と他の人の考えを比較できるソフト</li> <li>●活用促進に向けた取組の実施 →授業でソフトウェアを活用するための講座を総合教育プラザが実施し、動画を公開。また、授業での活用の様子を学校教育課が公開。</li> <li>●全教職員対象のアンケート結果 →本施策に対する上位3位以上の割合 8月実施時 50%      2月実施時 45%</li> </ul>		 <p>1人1台端末を活用した協働的な学び</p>		
	評価理由	令和3年度の実績値を年度途中では上回ったが、年度末では下回り、令和4年度の目標値も達成できなかったため。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別最適な学びや協働的な学びで活用できるソフトウェアの活用研修をソフトウェア導入業者等の協力を得ながら総合教育プラザやGIGAスクール運営支援センターを活用して多くの教職員に受講・体験してもらうなど、授業での活用促進を図る。</li> <li>●教育情報システム利活用推進委員会の授業支援部会での重点として、ICTを活用した授業改善の実践事例の収集・共有を取り上げ、「まえばしGIGAスクールサイト」に実践事例を掲載した。今後もより多くの好事例を収集・掲載するとともに、周知活動を充実させる。</li> <li>●教育情報システム利活用推進委員会の授業支援部会を通して、個別最適な学びや協働的な学びが推進されるよう、学校現場の意見を十分取り入れながら、1人1台端末を活用し、全ての子供へ学びの保障ができるよう取り組んでいく。</li> </ul>				
学識経験者意見					
<p>【評価できる点】</p> <p>・プラザでは講座を行ったり動画を公開したりしており、学校教育課では授業での活用の様子を公開するなど、活用促進に向けた積極的な取組がみられます。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・実績値が低い水準にとどまっており、昨年度から改善されていません。機器やアプリに慣れるまである程度の時間が必要だとは思いますが、すでにICTを使った授業はかなり行われています。使いこなせる教師がいる一方で、ほとんど使えていない教師もいるということであり、今後も講座を開いたり、授業での活用例を公開したりすることをはじめ、苦手で使えていない教師への支援も必要と思われます。もっとも、事業指標を見ると、「1人1台端末と学習用ソフトウェアを、個別最適な学びと協働的な学びでの活用が図れたか」となっていて、そもそも個別最適な学びと協働的な学びが行えていることが前提となっているように読み取れます。機器やアプリの使い方だけでなく、そもそもの授業づくりについても取り組む必要がありそうです。</p>					

分野		施策の柱		
学校教育分野	高校教育	(1) 学校力を高める学校経営		
施策の目標			評価	
1. 課題の解決に向けて機能する学校運営 2. 教職員の資質・能力の向上を通じた指導力の育成 3. 生徒指導の充実と良き校風の樹立 4. 地域とつながる学校づくり			A	
担当課	市立前橋高校			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年や分掌において教職員相互の情報共有を徹底するとともに、各種委員会・研修を充実させることで、学校全体の組織力の向上を図る。</li> <li>生徒の実情に合った授業を実践し、教員相互の授業見学、授業点検、校内研修等を行うとともに、校外研修等にも積極的に参加するなどして、組織的な授業改善を図り、教員の指導力向上に努める。</li> <li>教職員全員で組織的な生徒指導を行うことで、校内外を問わず規律・節度を重んじた基本的な生活習慣を身に付けさせ、明るくたくましい生徒を育成する。</li> <li>地域の教育力を活用した学習活動・学校行事の推進、生徒の地域活動等への参加促進など、地域との交流を積極的に行う。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
学校評価アンケート(4段階評価) 全項目における生徒・保護者の上位2位の占める割合		92%	80%	82%
各種研修会・授業観察・職員研修の参加人数		446人	500人	470人
学校評価アンケート(4段階評価) による(規則正しい学校生活を送っている) 生徒・保護者の上位2位の占める割合		92%	90%	91%
授業公開、学校説明会、文化祭等学校公開への参加人数		174人	①1,800人 ②48,000件	①1,750人 ②241,697件
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題の解決に向けて機能する学校運営 →校内で定期的に行われる会議では、常に積極的な意見交換が行われている。本校教育の方向性について職員が組織的に対応する姿勢をもつことができた。</li> <li>●教職員の資質・能力の向上を通じた指導力の育成 →STEAM教育について理解を深め、本校の特色である前橋市と連携が進められている探究活動にサイエンスやテクノロジーの視点を加える考察を行った。</li> <li>●生徒指導の充実と良き校風の樹立 →自転車のヘルメットの全学年着用を義務化した。交通安全は、保護者への呼びかけを機会があるごとに実施。</li> <li>●地域とつながる学校づくり →地域の教育力を活用するため、部活動や進路・探究学習など学校の様子を令和3年度にリニューアルしたホームページなどを活用して積極的に発信。令和5年度入学者選抜試験の志願倍率で県内公立の平均を上回る倍率を維持できたと考える 令和5年度：前期2.03 後期1.14 令和4年度：前期2.04 後期1.12 県内平均：前期2.02 後期0.99 令和4年度：前期2.00 後期0.99 →探究学習のフィールドスタディや模擬議会などを通して生徒が具体的に考察する場面を多く設定。</li> </ul>		 <p>高校生模擬議会</p>	
	評価理由	事業指標については、コロナウイルスの影響により、目標に達しなかったものもあるが、部活動や進路・探究学習など学校の様子を積極的にホームページ等で発信し、その結果が本校への入学志願者増にもつながっていると考えられるため、A評価とした。		

今後の課題及び取組方針

- 将来構想検討委員会を中心に、本校の教育の魅力や特色について話し合い、地域の関係機関と連携することで新しい時代の高等学校の在り方を具体的に形成していく。特に令和6年度からの新しい入学者選抜の実施を通し、一人ひとりの個性や感性を大切にした多様な生徒を受け入れていく。
- 一人一台端末を土台としたICT教育を推進する中で、「協働した学び」のための活用方法や「個別最適な学び」の実現のための研修に取り組んでいく。
- 交通事故防止の観点から、引き続き、自転車通学者へのヘルメット着用について重点を置き、保護者にも理解を求める。また、マナーアップ運動や日々の指導において事故をなくすための取組を継続するとともに、地域の各種団体との連携を進める。
- 地域の重要な形成者としての自覚を高めるためにも、実際に社会の中で自らの役割を実感できるような機会を探究学習を中心に設定していく。

学識経験者意見

【評価できる点】

- ・運営面では、教職員相互の意見交換が積極的に行われており評価できます。また、教員相互の授業見学や研修等、指導力向上の取組も進んでいます。授業見学については、6月に公開授業期間を設けている他、年間を通じて見学可能であること、校内研修のテーマと関連させていることなど、充実したものとなっています。
- ・STEAM教育については、先進事例校についてのオンライン研修を行うなど意欲的な取組がみられます。
- ・地域の教育力を積極的に活用しています。特に本校では生徒の自己有用感を育む教育活動に取り組んでおり、「まえばしハニープロジェクト」とコラボ企画で絵本を作成、幼児に読み聞かせをするなど、特筆すべき取組も行われています。
- ・部活動や進路・探究学習など学校の様子を積極的にホームページ等で発信している点も評価できます。

【改善・対応が必要な点】

- ・自転車のヘルメット着用の指導や、交通安全指導については、特に本校では他校をリードするくらいの取組があっというように思います。これまでも力を入れているところですが、より一層の指導が求められます。
- ・学校評価については、全項目では目標を満たしているものの、「進路実現のために必要な学習時間が十分に確保できている生徒が75%以上である」など、いくつか評価が低い項目が見られます。これらについては、例えば必要な学習時間についてはスタディサブリを活用するなど、既に一定の対応は取られているものの、今後も必要な対応を重点的に行っていくことが望まれます。

分野		施策の柱	
学校教育分野	高校教育	(2) 魅力あふれる教育活動	
施策の目標			評価
1. 特色あるカリキュラムと進路指導の充実 2. 部活動の指導の充実			A
担当課	市立前橋高校		
重要施策			
<p>・地域活性化プロジェクト「めぶく」において、生徒が身近な社会の課題を探究する中で、興味ある学びを発見し、その学びを選択に生かす、進路探究型の学びを推進する。</p> <p>・部活動において、生徒が自発的・主体的に活動し、充実感・自己有用感を高めることにより、学校全体の活性化につなげる。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
学校評価アンケートによる学習活動において「特色ある教育活動（授業等）を行っている」と評価する生徒・保護者上位2位の占める割合		84%	80%
部活動入部率（80%台の維持）		83%	80%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主体的・対話的で深い学びの実践 1年生：企業訪問、前橋市中心商店街インタビュー 2年生：模擬市長選、模擬議会 3年生：自己の進路実現に向けて大学説明会、面接練習</li> <li>●部活動の指導の充実 →生徒が主体的に取り組む部活動を目指している。 部活動での活躍は自己有用感を高めることには効果的であり、培った力を進路実現に繋げることができた。</li> </ul>	 <p>前橋市中心商店街インタビュー</p>	
	評価理由	生徒の自己評価もよく、探究活動を進路実現に活用できている。部活動の活躍は本校の活性化につながっているため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の協力を幅広く求め、より生徒の進路希望や学習目的にあった学びの場を提供していく。</li> <li>●日常生活や普段の授業を通して、STEAM教育の視点も踏まえながら、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む力を育てていく。</li> <li>●それぞれの部活動の中で、競技の技を高めるとともに、自らを律する力や、周囲と協力する力を養っていく。</li> <li>●引き続き、部活動における社会教育との連携や民間活用を検討していく。また、施設を適切に維持管理し、学習と部活動を頑張りたいと思う生徒を支援するための環境を提供していく。</li> </ul>		
学識経験者意見			
<p>【評価できる点】</p> <p>・「めぶく」の活動は、生徒自らが探究課題を設定し主体的に学びを深めていると同時に、地域との絆を深め地域活性化にも繋がっているという点で、魅力のある学校づくりとして高く評価できると思います。本校の代表的取組の一つとっていいでしょう。また、学習の様子や成果を積極的に発信していることも、大切なことと思います。</p> <p>・部活動にも力を入れており、高い実績を挙げています。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・部活動入部率は、年によって多少の変動はあるものの、これまでも概ね8割程度で推移しており、低くはない水準だと思います。現状では、入部率の大幅な増加を目指すものではないとも思いますので、この指標については再考してもいいように思います。</p>			

分野		施策の柱		
学校教育分野	幼児教育	(1) 保育の充実を目指す市立幼稚園の経営		
施策の目標			評価	
1. 園経営の充実に向けた様々な体制づくり 2. 魅力あふれる教育活動の推進				
担当課	教育支援課 (令和4年度：総合教育プラザ)		A	
重要施策				
・市立幼稚園の実践力の向上と情報の発信に向けて、「幼児教育充実指針～めぶく～」を活用した園内研修の取組を推進し、「市立幼稚園保育研究会」の開催や「計画訪問」「園内研修訪問」を実施する。 ・幼児が興味や関心に基づき、自主的・自発的な遊びを通して、直接的・具体的な体験ができるように環境の構成や援助の在り方を工夫し、特別な支援を必要とする幼児をはじめ、幼児一人一人の発達の特性や心の動きに応じた保育の充実を図る。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
市立幼稚園保育研究会参加者による評価 (4段階評価の上位2位の割合)		97%	98%	95%
学校評価(保護者・教職員対象) 「幼稚園生活の充実」に関する項目4段階評価の上位2位		保護者 99.8% 教職員 99%	保護者 100% 教職員 100%	保護者 99.7% 教職員 98.2%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市立幼稚園の園内研修の推進 →各園の課題に応じた園内研修を推進し、群馬大学と連携して園内研修に関わった指導を継続実施</li> <li>●市立幼稚園保育研究会を実施 →園内研修で取り入れている「ポートフォリオ」をもとにした研修を、参加者に体験してもらう形式で開催</li> <li>●市立幼稚園からの要望に応じた幼児教育アドバイザーの訪問を実施 →特別な支援を必要とする幼児の理解、支援について指導助言 →園が必要と考える幼児に対しては、継続しての指導助言を実施</li> <li>●未就園の親子を対象にした集いの実施 →園の様子や保育を知ってもらう機会や参加者(保護者、子)同士の繋がり場を提供 →子育ての悩み相談・幼児教育アドバイザーの講話</li> </ul>		 <p>市立幼稚園保育研究会の様子</p>	
	評価理由	学校評価「幼稚園生活の充実」はR3年度実績とあまり変わらず、市立幼稚園保育研究会参加者による評価はR4年度目標及びR3年度実績を下回ったが、実績を加味して総合的に評価したため。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼稚園教育要領に基づく保育の実践に向けた教員一人一人の指導力の向上 →園内研修の充実と幼児教育アドバイザーによる出前研修の活用に努める。</li> <li>●質の高い保育の実践に向けた園内研修の工夫 →幼児教育アドバイザーによる出前研修や群馬大学と連携した継続的・計画的な指導等を実施する。</li> <li>●幼児一人一人の発達の特性や心の動きに応じた保育を推進 →園からの要望に応じて幼児教育アドバイザーによる出前相談を実施する。 →幼児教育アドバイザーによる出前相談を、対象幼児の理解を深め、対応や援助について相談できる機会とする。 →こども教育研修会を、特別な支援を必要とする幼児の理解と支援について学ぶ機会として活用する。</li> </ul>			

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

- ・いずれの指標も高評価であり、市立園の保育や、保育の質向上のための研修等の取組が、高く評価されていると言えます。
- ・特に本市では、幼児教育アドバイザーの果たす役割が大きいと言えます。市立幼稚園からの要望にきめ細かく応え、伴走型の支援を行っており、特に高く評価できます。

### 【改善・対応が必要な点】

- ・市立幼稚園は、通園児の保育だけでなく、前橋市が目指す幼児教育の実践園として、質の高い保育の成果を市内外に広く示すことも求められていると言えます。その点で、幼児教育アドバイザーの先生方の継続的な指導助言は欠かせないものとなっています。形だけのアドバイスに終わらず、園に寄り添って質向上に繋がられるよう、さらなる充実が期待されます。

分野		施策の柱			
学校教育分野	幼児教育	(2) 市全体でつながる幼児教育の推進			
施策の目標				評価	
1. 保幼小連携の推進 2. 就学等の支援					
担当課	教育支援課（令和4年度：総合教育プラザ）				
重要施策					
<p>・市内18の地区ブロック内の幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校・特別支援学校が参加する研修会を開催し、学びのつながりへの理解を深められるよう、幼児教育アドバイザーを派遣する。</p> <p>・電話や面接等により、就学や発達に関わる個別の相談に応じ、必要な情報提供を行うとともに年長児を中心に、一人一人に応じたきめ細かな通級指導（幼児教室）を行う。さらに特別な支援を必要とする幼児等について、園所等における適切な支援の連続性を確保するために「就学サポートシート」や「指導要録」などの引継資料の活用を推進する。</p>					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
保幼小連携地区ブロック研修会の満足度調査（4段階評価の上位1位の割合）		73%	75%	81%	
①電話相談の件数 ②就学サポートシートの必要性が認められた幼児のうち、実際に活用した幼児の割合		①1,035件 ②80%	①1,200件 ②85%	①1,078件 ②66%	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保幼小連携地区ブロック研修会を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→テーマや事例、映像を基に協議</li> <li>→18地区ブロックでの研修会を参集にて開催</li> <li>→幼児教育アドバイザーによる指導・助言</li> <li>→各地区ブロック研修会の内容と幼児教育アドバイザーの助言をまとめた報告書を作成し、配布</li> </ul> </li> <li>●電話相談対応（対応件数：1,078件）               <ul style="list-style-type: none"> <li>→子どもの発達や就学に対する保護者の不安に寄り添った相談を実施</li> </ul> </li> <li>●「ことばの教室」を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→言語聴覚士による「ことばの教室」を週3回実施</li> <li>→「幼児教室」担当者と言葉の相談について連携</li> </ul> </li> <li>●就学サポートシートの活用推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>→活用目的等を保護者や幼児教育施設、療育施設に説明し活用を推進</li> <li>→就学サポートシートの項目や内容、利用人数などについてアンケート調査を実施</li> </ul> </li> </ul>		 <p>保幼小連携地区ブロック研修会の様子</p>		
	評価理由	保幼小連携 地区ブロック研修会の満足度はR3年度実績を上回り、電話相談件数もR3年度実績を上回ったため。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「保幼小連携地区ブロック研修会」の研修の内容や進め方の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>→幼児教育と小学校教育の接続に関して、教員や保育者の理解の促進を図る。</li> <li>→各地区ブロック代表と研修の内容や進め方について連携を密にし、研修内容が充実したものとなるように努める。</li> <li>→「スタートカリキュラム」等について、意見交換の時間を設けるよう努める。</li> <li>→事例や協議など全体を通して、幼児教育アドバイザーの専門的な立場からの指導・助言を受ける。</li> </ul> </li> <li>●発達や就学に向けての不安を抱える保護者に対する相談及び幼児教室の体制の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>→一人一人の気持ちに寄り添った丁寧な対応、相談の実施に努める。</li> <li>→言語聴覚士の資格をもつ職員が担当する「ことばの教室」を週6回に増やして家庭でできる練習方法を伝授したり、幼児教室担当者で連携して幼児教室利用者の言葉に関する相談に対応したりする。</li> <li>→幼児教室の枠の確保に努め、内容の充実を図る。</li> <li>→保護者に「幼児教室」のねらいを理解してもらえよう、「幼児教室で大切にしていること」を作成・配布する。</li> </ul> </li> <li>●就学サポートシートの改善               <ul style="list-style-type: none"> <li>→アンケート調査の結果から、より活用しやすくなるように就学サポートシートの内容等を見直し改善を図る。</li> </ul> </li> </ul>				

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

- ・保幼小連携地区ブロック研修会では、研修会を開催し、幼児教育アドバイザーの助言を含めた報告書を作成するなど、充実した取組となっていて評価できます。
- ・電話相談や、就学サポートシートの活用などが継続して行われています。これらは実績数の多寡よりも、むしろ必要な子どもや保護者に確実に支援の手が差し伸べられることが大切です。今後も丁寧な対応を進めて行ければと思います。
- ・「就学サポートシート」についても、活用促進がはかられています。

### 【改善・対応が必要な点】

- ・幼少接続において、ブロック研修会は重要な役割を持っています。取組方針に「幼児教育アドバイザーの専門的な立場からの指導・助言を受ける」とありますが、これが無ければ単なる情報共有に終わってしまいます。アドバイザーには、知識提供だけでなく、現場の保育者や教員、保護者と協働して課題解決にあたる、伴走型支援としての役割も期待されていると思います。今後も引き続き、アドバイザーの体制を充実させることが望まれます。

分野		施策の柱		
学校教育分野	特別支援教育	(1) 特別支援教育及び教育相談機能の充実		
施策の目標			評価	
1. 特別支援教育の充実 2. 教育相談機能の充実				
担当課	教育支援課（令和4年度：総合教育プラザ）			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に係る情報発信や指導・助言、巡回相談による担任等への支援を行うとともに、特別支援学級介助員等の臨時職員を配置することにより、特別支援教育の充実を図る。</li> <li>プラザ相談室との連携強化と教職員の相談技術の向上をととして、学校における教育相談機能の充実を図る。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
①特別支援教育の推進についての状況調査4項目5段階評価の合計点が15点以上の学校の割合		①75%	①85%	①84%
②教育支援委員会にて審議した児童生徒の人数		②487人	②430人	②441人
教育相談研修参加者への意識調査（「とても役に立つ」（4段階評価の上位1位）と回答した割合）		93%	70%	94.5%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●巡回相談 (1)通常の学級の担任の先生に対する相談支援 →巡回相談員（LD・ADHD等通教指導教室担当）12名が実施（※R4：1,198件、R3：1,285件、R2：1,371件）</li> <li>(2)特別支援学級の担任の先生に対する相談支援 →前橋特別支援学校の特別支援教育専門アドバイザー2名が実施（※R4：186件、R3：195件、R2：290件）</li> <li>●専門性維持・向上のための講演会・研修会・視察等を実施 →講演会1回、研修会を含むケース会議40回、研修視察1回</li> <li>●相談技術認定（初級42人、中級1人が申請） →教育相談技術の向上（資格の取得）は自信を持って相談に対応できるための土台作りにつながった</li> <li>●プラザ相談室で行う相談の実施 →延べ401人（メール9件含む）</li> <li>●スーパーバイザー研修を実施（年間10回）</li> <li>●要請訪問による相談・助言（29回）、校内研修（8回）の実施 →校内における実効性のある体制づくりを支援</li> </ul>		<p>市立学校全児童生徒数（折れ線）と特別支援学級在籍児童生徒数（縦棒）の推移</p> <p>(左軸) 特別支援学級児童生徒数 (右軸) 市立学校全児童生徒数</p>	
	評価理由	特別支援教育の推進についての状況調査の結果が昨年度より大幅に向上し、教育支援委員会にて審議した児童生徒の人数や教育相談研修参加者への意識調査の結果も目標を達成することができたため。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>【課題1】異校種間の連携 →幼児教育センターと連携を密にとり、小学校入学時の連携をスムーズにするための就学サポートシートの効果的な利用を促進</li> <li>→小学校が幼稚園・保育所等、中学校が小学校を参観する機会の促進</li> <li>【課題2】特別支援学級数の増加に伴う担任の専門性を高めていくこと →研修会や指導主事訪問、前橋特別支援学校専門アドバイザーによる具体的で指導に役立つ相談、助言の継続実施</li> <li>→巡回相談員の仕事内容の見直しを図り、巡回相談の質を低下させずに、可及的速やかに巡回相談を実施</li> </ul> </li> <li>●教育相談機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>【課題1】プラザ相談室の様々なケースへの対応 →相談指導員の相談スキルの向上、及び関係諸機関との連携</li> <li>【課題2】学校の教育相談機能の充実を図る上で相談技術能力を持った教員の増員 →相談技術中級を目指す教職員が増えるように、教職員へ相談技術の重要性を伝えることを継続実施</li> </ul> </li> </ul>			

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

- ・全体として巡回相談、講演会・研修会・視察等、さまざまな取組が精力的、きめ細かに行われており、評価できます。
- ・プラザ相談室での相談でもきめ細かな対応がなされています。

### 【改善・対応が必要な点】

- ・支援学級数の増加に伴う担任の専門性を高めることは、依然として課題です。同時に、担任が不安を感じたり、過大な負担とならぬよう、担任に対する相談支援も必要と思います。「可及的速やかに巡回相談を実施」とは、重要な課題だと思います。
- ・教育相談中級の取得促進においては、どのような技術が得られ、その技術がどう役立つのかということを具体的に伝えることが必要かと思っています。

分野		施策の柱	
学校教育分野	教職員育成	(1) 教職員研修、実践的研究機能の充実	
施策の目標			評価
1. 教職員研修の充実 2. 実践的研究の推進			A
担当課	学校教育課（令和4年度：総合教育プラザ）		
重要施策			
<p>・教職員の資質能力の向上のために、群馬県教員育成指標を踏まえ、児童生徒理解に基づいた確かな授業力や経営力を身に付けるための研修を推進する。</p> <p>・前橋長期研修および前橋特別研修において、学校教育に係る諸問題を扱った事例研修等を実施し、研修員の学校経営力の向上を図る。また、学校現場と連携した実践的研究に取り組み、その成果を市内各学校に還元することで、今日的な教育課題の解決を目指す。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
指定研修及び希望研修参加者の意識調査にて「とても役に立つ」（4段階評価の上位1位）と回答した割合		91%	90%
前橋特別研修及び前橋長期研修研究員の意識調査にて「成長した」（4段階評価の上位1位）と回答した割合		79%	80%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指定研修 →教職員のキャリア段階や職務に応じて求められる資質・能力の育成と授業力や経営力の向上を目的とした研修を実施 →学び続ける教員の育成を目指した研修を実施</li> <li>●希望研修 →今日的な教育課題や各々の専門性を高めるための研修を実施 →内容の再編、リモート研修を活用</li> <li>●長期研修 →実践的研究と学校経営研修の二つの柱で研修を実施 →研究に指導主事が深く関わるとともに、群馬大学との連携を図り、教育学研究科の講義を聴講した。また、令和4年度は年度の早い時期に実践的研究における研究の進め方と検証の仕方等についてのご講義得る機会を設定</li> <li>●特別研修 →個別の指導のほか、学校に出向き授業参観するなど、より学校や学級の実態に応じた研究の実施 →研究成果は、成果発表の動画や報告書にまとめ、市内各学校へ還元</li> </ul>	<p>初任者研修における教育長講話</p>  <p>長期研修及び特別研修の合同研修</p> 	
	評価理由	講師は、指導主事の他、大学教授や文部科学省調査官による講義も取り入れ、広く理論と実践が学べる内容にした。また、前橋特別研修及び前橋長期研修研修員の意識調査の数値は高くないものの毎回、毎日の振り返りでは、8名の研究員の前向きな姿勢や研究への取組は高く評価されることから、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれのキャリア段階に応じた研修を行うことを通して、理論に裏付けられた実践力を育成する。</li> <li>●研修内容のさらなる充実 →人材育成の視点から、各研究員の資質や能力を伸ばしたり、知見を広げたりできるように充実させる。</li> <li>●リモート研修と集合研修を効果的に組み合わせ、ハイブリットな研修機会を実現していく。</li> </ul>		

学識経験者意見	
<p>【評価できる点】</p> <p>・各研修とも、充実した内容となっていることが伺われます。大学等からの専門的な指導助言や講義も取り入れられており、質の向上も意識されています。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・今後も大学等との連携を進め、理論に裏付けられた実践を行っていくこと、そして研修、研究の水準を上げていくことが求められます。中教審答申でも「教職の高度化に向けた大学と教育委員会との連携体制をより一層実効あるものとする取組を推進することが重要である」とされており、すでに他地域では教育委員会と大学が連携し研修プログラムを展開している例もみられます。本市においても、大学等の「知」の資源を積極的に活用して、研修の質と効率を高めていくことが望まれます。</p>	

分野		施策の柱		
青少年教育分野	地域健全育成	(1) 地域健全育成活動の充実		
施策の目標			評価	
1. 地域の人たちによる体験・交流活動を通じた地域健全育成活動の充実 2. 放課後の子供の居場所の充実 ★追加評価項目 地域寺子屋事業				
担当課	生涯学習課（令和4年度：青少年課） 学務管理課（令和4年度：学校教育課）			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」を活用して、子供の中に育てたいもの及び子供への関わり方などを家庭や地域の人たちに周知・啓発し、子供の主体性を育てる健全育成活動となるよう支援する。</li> <li>・地域の人などの協力により、放課後の小学校において、子供の安全安心かつ健全な成長につながる遊び場を提供する。</li> <li>・市内公民館等を会場に、教職経験のある指導者や地域のサポーターによる中学生への学習活動への支援を行い、生徒が自分の学力を伸ばせるようにするとともに、社会性や人間性を育てるようにする。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
学校評価アンケート「地域行事への参加や交流活動の推進」についての保護者の回答（4段階評価上位2位の割合）		—	77%	77%
遊び場指導員アンケートにおける充実度の割合		—	80%	86%
参加者アンケート「自分の力が伸ばせたか」の項目が、4段階中上位2位以上の割合		95%	95%	92.4%
実績	<b>●地域健全育成活動【生涯学習課】</b> →のびゆくこどものつどいはコロナ禍に伴い、令和3年度と同様に中止となった →前橋のこどもを明るく育てる地区別会議、前橋市青少年健全育成計画「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」の周知、青少年育成推進員のパトロール活動は、コロナの警戒度に応じて一部地域で実施した。		 <p>地域寺子屋での学習の様子</p>	
	<b>●遊び場の実施【学務管理課】</b> →放課後の小学校の校庭を使って児童の自由な遊びを地域のボランティアが見守る「遊び場」を実施。（41校） →一体型実施協議会の開催（26校対面開催、1校書面開催、3校開催なし） <b>★地域寺子屋事業【学務管理課】</b> 対象：市立全中学校（20校）の生徒会場：公民館等19会場 開催頻度及び開催時間（基本）：週2回、17時から20時開催 回数及び参加者数：延べ1192回 延べ6,193人			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響で書面による開催に変更したり、出来る範囲で事業を実施したりしたが、中止が多く計画どおりの実施ができなかったためB評価とした。（生涯学習課）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が収束していない中、可能な対策を取り、事業を実施するよう努めた。（学務管理課）</li> </ul>			
今後の課題及び取組方針	<b>【生涯学習課】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●行動制限が解除され、体験・交流活動も徐々に再開となる中、活動の中心を担っている高齢者の負担も増えることが懸念されるが、教育委員会からも青少年団体の活動を支援する。</li> <li>●令和5年度以降、「のびゆくこどものつどい」は、多くの地区で再開される予定だが、長期間実施を見送ってきたことで、以前の知識や経験の継承が困難となっている地区や保護者が負担の大きさを訴える地区が出てくる。</li> <li>●「まえばし出前講座」等で健全育成計画の趣旨説明や事例紹介なども引き続き継続して行う。</li> </ul> <b>【学務管理課】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●遊び場指導員不足の要因を把握するとともに、様々な広報媒体も活用し指導員の確保に努める。</li> <li>●遊び場に係る国の補助金が今後も受けられるかは不明である。また、申請どおりの補助が付いていないため、補助要件について再度確認し申請事務を進める必要がある。</li> <li>●一体型実施協議会において、放課後児童クラブとの情報交換を継続していく。</li> <li>●年度末になるにつれ、地域寺子屋の参加生徒数が減少していくことが課題となっている。生徒が参加しやすいように、年度途中でも学校行事等に合わせて実施時間を変更する対応を取っているが、公民館等の会場との調整が難しい場合がある。地域の方や学生等、いろいろな世代の人々と関わる場としての魅力も発信し、参加生徒数の増加に努めていく。</li> </ul>			

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

・「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」を活用し、子供への関わりの重要性を家庭や地域の人たちに周知・啓発することに力を入れたことは高く評価されます。家族構成や親の就労状況などの家庭環境や子供の生活や遊びの変化により、子供と地域のかかわりが減少しています。そのため、より一層地域で子供を育てることの重要性が高まっています。子供同士で、また子供と大人がかかわっていく際に、大人の指示で活動するのではなく、子供の主体性を尊重し育成することに注力することも重要です。子供と多様な人々と交流する機会の重要性とそのかかわり方について、大人が共通の理解を持ったうえでかかわっていくことができるため、コロナ禍で交流が途絶えがちになっているからこそ、「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」を活用していくことは効果的であると考えます。

・地域との連携の観点から、遊び場の実施、および「地域寺子屋事業」の取組も高く評価できます。特に、安全で仲間と一緒に遊べる子供の遊び場の確保は、子供の成長からも重要度が増しているため、事業の継続を強く望みます。また、地域寺子屋事業では、学力を伸ばすだけでなく、参加生徒の居場所になるよう相談をうけることも大切にしており、必要に応じて関係部署との情報共有に努めている点も評価できます。

### 【改善・対応が必要な点】

・「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」は平成20年に作成されたもので、策定から15年が経過しています。また、こども基本法が令和5年4月に施行されました。令和5年度には見直しを開始する予定があることから、こども基本法の観点から点検を進めていく必要であると考えます。その際、次期教育振興基本計画に取り上げられているこどものウェルビーイングの考え方に沿って、個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイングだけではなく、協働性・利他性・社会貢献意識など、人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイングの向上にも配慮していくことが求められます。

分野		施策の柱		
青少年教育分野	地域健全育成	(2) 国際理解教育活動の充実		
施策の目標				評価
1. 国際理解教育活動の充実				A
担当課	学務管理課（令和4年度：青少年課）			
重要施策				
・コロナ禍の長期化やGIGAスクール構想の進展がある中、多様な文化への理解や関心を高めるため、オンライン等、新たな形での国際交流を検討・推進する。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
オンライン交流等を試行的に実施する学校数		1校	2校	2校
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大胡中学校と姉妹校である台湾新北市の中正國民中學とのオンライン交流を令和3年度に続き実施した。</li> <li>●全員が参加でき、直接海外とやりとりができるオンライン交流は、生徒に好評であった。</li> </ul> <実施日程> 3/2～3日 1クラスずつ実施（全5クラス） <対象> 2年生 <当日> 自己紹介を行った後、立案した観光プランを互いに英語で発表しその後質疑応答等を行い交流を深めた。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JICA出前講座を活用した国際理解教育活動をみずき中学校の全校生徒を対象として、実施した。</li> </ul> <実施日程> 10/27（木）11時20分～12時10分 <対象> 全校生徒（3年生は対面、1.2年生はオンライン） <当日> 青年海外協力隊員として、タンザニアに赴任していた方を講師として招き、現地の様子や海外で大切なこと等についての講話を聞く機会を設け、異文化理解や多文化共生について考えを深めることができた。			
評価理由	新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制約がある中で、オンラインや出前講座等を活用し、新たな形での国際理解教育活動を実施できた。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンライン交流は、調整や準備などで学校に負担感があるとの意見が出ていた。対象校を拡大していく場合には、負担軽減策を検討し、実施していく必要がある</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の影響で海外派遣研修を令和2年度から中止している。海外派遣研修は、対象となる中学2年生と3年生（令和4年度に実施した場合約5,150人）のうち、参加者（定員40名）は全体の1パーセント未満となる。研修の成果が参加した生徒個人だけに限られる傾向が強い点が以前から指摘され、課題となっている。試行的に実施しているオンライン交流や出前講座の活用等も含めて、複数案を作成し、今後の国際理解教育活動の方向性を検討し、確定していく必要がある。</li> </ul>			

#### 学識経験者意見

【評価できる点】  
 ・台湾新北市の中正國民中學とのオンライン交流を5クラス実施できたことは高く評価できます。昨年度の試行を継続できたことで、そのノウハウを活かして、R5年度以降の実施校のさらなる拡大につながることを期待します。また、JICAの出張講座の実施により、子供たちの国際協力への理解の深まりと関心の広がりが期待でき、評価できます。

【改善・対応が必要な点】  
 ・オンライン交流の調整や準備における学校の負担を軽減するために、学校毎に計画立案・推進を行うのではなく、一括してオンライン交流をコーディネートできるよう、国際理解教育推進委員会を中心に組織としての対応を検討していく必要があると考えます。  
 ・海外派遣研修の再開については、オンライン交流が始まったことから、コロナ感染拡大以前のプログラムを再検討し、国際理解教育におけるこの研修の目的や育てたい生徒像に沿った募集、実施になることを希望します。

分野		施策の柱		
青少年教育分野	青少年支援センター	(1) 学校の健全育成活動と、子供をめぐる問題解決への支援の充実		
施策の目標			評価	
1. 学校支援体制の充実と問題行動の防止 2. 子供の被害防止活動の充実 3. 不登校対策の充実 4. いじめ対策の充実			B	
担当課	教育支援課（令和4年度：青少年課）			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の諸問題の解決に向けて、学校と協働して対応する。また、関係機関との連携体制や専門家による相談体制を整備し、問題行動の未然防止と解決支援を行う。</li> <li>・不審者による被害防止とネットトラブルの未然防止、および虐待の早期発見に向けて、講座や体験教室等の啓発活動を行うとともに、関係機関と連携して効果的な対策を講じる。</li> <li>・スクールアシスタントの配置、オープンドアサポーターによる訪問、適応指導教室の設置等により、個別学習支援や集団生活への適応支援を展開し、不登校対策の充実を図る。</li> <li>・いじめの未然防止と早期発見及び迅速で適切な対応に向けて、教育相談体制の整備や教職員研修の充実、外部人材を活用した解決支援、児童生徒主体のいじめ防止活動等を実施する。また、教職員がいじめ防止に組織的に取り組む体制や、学校と家庭、地域が連携・協働する体制を構築する。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
①市立小・中学校の問題行動数		①75件	①75件	①107件
②生活アンケートの調査項目内容に『いじめ』、『生活』、『学習』、『人間関係』、『ヤングケアラー』、全てを取り入れている小中学校数の割合		②-	②60%	②89.4%
ケータイ教室での学習内容を自分の課題としてとらえている児童生徒の割合（4段階評価の上位1位の割合）		小学校73.5% 中学校86.1%	小学校中学校 ともに90%	小69.3% 中84.3%
①欠席が90日以上の不登校児童生徒のうち、校内での専門的な相談・指導（SC、SSW、養護教諭）、もしくは学校外の機関（教育支援教室、医療機関、民間施設等）からの相談・指導を受けた割合		①51%	①60%	①53%
②不登校児童生徒の割合（出現率）		②小1.28% 中4.94%	②小0.8% 中3.6%	②小1.45% 中5.56%
いじめが解消した割合（解消率）		小76.0% 中77.3%	小100% 中100%	小77.1% 中80.9%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●問題行動の種別においては、暴力事案・自傷行為・わいせつ事案が増加。</li> <li>●指導主事・スクールソーシャルワーカーの学校訪問による支援の充実 訪問回数294回</li> <li>●関係機関と個別支援方針を検討する少年サポート活動の実施59回</li> <li>●スクールロイヤーの活用（55件） →学校だけでは対応が困難な相談事案に、課題の解決に向けて適切な助言を受けた。</li> <li>●学校警察等連絡協議会地区別会議 →市内全8地区で「SOSを発信できない児童生徒への迅速な対応を目指して」をテーマに、大人が児童生徒のSOSを察知し具体的な支援の連携について検討を実施。</li> <li>●ケータイ・インターネット教室の実施（26回） →全児童生徒に配布されたタブレット端末の活用意識の向上やメディアリテラシーの育成に努めた。</li> <li>●ヤングケアラーについての講習会実施 対象：生徒指導主事・主任、養護教諭 →ヤングケアラーについての認知度・理解度を高め、早期発見に繋げることを目的として、福祉部子育て支援課と連携して実施。</li> </ul>			
	 <p>ケータイ・インターネット教室</p>  <p>スクールロイヤーによる教職員対象の研修会</p>			

実績	<p>●教育支援教室（旧適応指導教室）</p> <p>→移動教育支援教室「かけはし」を開設。</p> <p>→入室児童生徒にタブレットを活用した学習支援や個別の生活支援等を実施。進路説明会や天文教室等の交流機会を設け、4教室の児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図った。また、その際に保護者交流の機会も設けた。</p> <p>→正式入室した児童生徒50人中、32人が学校復帰に繋がる等、好ましい変化が見られた。また、見学、相談等で47人の児童生徒が利用した。</p> <p>●オープンドアサポーター</p> <p>→小学校48名、中学校83名の不登校支援を行い、75名の児童生徒が学校復帰に繋がる等好ましい変化が見られた。</p> <p>●いじめ対策</p> <p>→いじめ認知件数798件</p> <p>→昨年比174件減、2年ぶりに減少。しかし、中学校では昨年度より増加しており、積極的認知が定着しつつある。</p> <p>→スクールロイヤーによる教職員対象の研修会を開催（17回）</p> <p>→いじめ予防教育の授業を実施（4回）</p> <p>→いじめ防止子ども会議（各中学校区で実施）</p>	 <p style="text-align: center;">教育支援教室体験活動（天文教室）</p>  <p style="text-align: center;">保護者交流会</p>
	<p>●評価理由</p> <p>従来の不登校支援事業に加え、教育支援教室への名称変更、移動教育支援教室の開設をしたことにより、幅広い年齢層の児童生徒に対し、支援を展開することができた。ヤングケアラー講習会、スクールロイヤーによる相談・研修機会等、学校や関係機関と協働した支援を展開できた。事業指標を十分に達成できなかった項目があるため、評価をBとした。</p>	

今後の課題及び取組方針	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒指導主事・教育相談主任を中心とした支援者の専門性を発揮するための組織的な支援体制の整備</li> <li>●自傷行為・自死に繋がる行為の増加と対応する教職員のスキル向上</li> <li>●自分に合ったメディア活用方法を身につけるため、児童生徒と共に考え、見守る支援活動の推進</li> <li>●虐待やヤングケアラーの早期発見と介入</li> <li>●不登校増加の要因・背景・環境に即した支援事業の展開</li> <li>●小学校での組織的な不登校支援体制による早期発見と対応策の検討</li> <li>●いじめ防止対策推進法や学校基本方針への理解促進と組織体制の整備</li> </ul> <p>【今後の取組方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒指導の中核となる教職員研修機会の充実（積極的な活用につながる資料の作成・周知）</li> <li>●SOSの出し方教育の全中学校実施に向けた研修の実施、啓発資料（リーフレット等）の作成</li> <li>●小学校低・中・高学年、中学生の各発達段階に応じたケータイ・インターネット教室の開催</li> <li>●生活実態調査によるメディア活用状況分析とリーフレットによる保護者・地域・学校への啓発活動</li> <li>●児童生徒の実態把握に繋げるための生活アンケートの見直し</li> <li>●教育支援教室（旧適応指導教室）の機能拡充 （教育支援教室の特色化、出張教育支援、タブレット活用支援、民間施設との連携、体験活動・探究活動の充実）</li> <li>●令和4年度の実績を踏まえたオープンドアサポーターによる、効果的な小学校訪問支援体制の構築</li> <li>●学校いじめ防止基本方針の見直し・改善を図る研修機会の確保</li> <li>●子ども未来部との連携による、子供を真ん中に据えた多面的で包括的な支援、及びヤングケアラー実態調査の実施</li> <li>●スクールロイヤーによる教職員研修と児童生徒へのいじめ予防教育授業の推進</li> </ul>	

学識経験者意見	
<p>【評価できる点】</p> <p>・移動教育支援教室「かけはし」やオープンドアサポーターといった独自の不登校児童生徒への取り組みにより、効果が出ていることは高く評価できます。ヤングケアラー講習会、スクールロイヤーによる相談・研修機会等、学校と専門機関との積極的な協働を進め、支援できている点はチーム学校という観点からも高く評価できます。いじめの認知件数が減少したことは、これまで着実な取り組みの成果として評価できます。減少傾向が継続することを期待します。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・今後の課題としてあげられているように、生徒指導主事、教育相談主事の専門性の向上、およびその専門性を活かせる体制づくりを進めていくことが重要だと考えます。加えて、児童生徒の様子を観察し話を聞くことを通して子どもを見取る専門性の向上は、全ての教員に求められており、そのための研修が不可欠です。個々の教員の状況に応じて研修ができるように、教職員支援機構が提供する動画の視聴等、オンライン研修も検討することが考えられます。</p> <p>・児童生徒の問題行動に対応するだけでなく、家庭における問題や対応に苦慮しているため、今後の課題に記述されているように、子ども未来部との連携を強化し、問題行動の未然防止や家庭の虐待の早期発見につながる取り組みを進めていく必要があります。自傷行為・自死に繋がる行為の増加に対して、家庭と学校だけで対応することは難しく、子供の居場所や相談できる場所を充実していくことが求められます。ケータイ教室での学習内容を自分の課題としてとらえている児童生徒の割合がR3よりも低下していることから、自分事として認識できる学習方法の工夫がより一層求められます。</p>	

分野		施策の柱		
青少年教育分野	児童文化センター	(1) 交通安全・天文・環境教育の充実		
施策の目標			評価	
1. 交通安全教室の充実 2. 天文教室の充実 3. 環境教室の充実				
担当課	教育支援課（令和4年度：青少年課）			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に安全な自転車の乗り方の教室や、幼稚園・保育所（園）・特別支援学校等を対象に安全な歩行の仕方の教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や実践力を育てる。</li> <li>・プラネタリウムを活用した天文教室や実際に天体を観察する移動天文教室を実施することにより、子供たちの宇宙や天体への理解を深めるとともに、興味・関心を高める。</li> <li>・全小学校5年生を対象に児童文化センターの自然や施設を活用した体験的な環境教室を実施することにより、学校における環境教育の充実を図る。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
<b>●交通安全教室</b> 【小学校】実施校アンケート（3段階評価の上位1位の割合） ① 学校側のねらいに即していた割合 ② 交通安全に対する児童生徒の意識が高まった割合 【幼稚園保育所等】実施園・所アンケート（3段階評価の上位1位の割合） ① 園・所側のねらいに即していた割合 ② 交通安全に対する子供たちの意識が高まった割合		①97% ②98%	①97% ②98%	①99% ②100%
<b>●天文教室</b> 【小学校】実施校アンケート（3段階評価の上位1位の割合） ① 学校側のねらいに即していた割合 ② 星空や星座、天文に対する児童の興味・関心・意欲・態度が高まった割合 移動天文教室実施校アンケート（3段階評価の上位1位の割合） ① 学校側のねらいに即していた割合 ② 星空や星座、天文に対する児童の興味・関心が高まった割合		①97% ②97%	①98% ②98%	①100% ②99%
<b>●環境教室</b> 実施校アンケート（3段階評価の上位1位の割合） ① 学校側のねらいに即していた割合 ② 環境に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった割合		①93% ②98%	①95% ②98%	①100% ②100%
実績	コロナ対策を行いながら、小学校4年生・6年生共に交通・天文教室をほぼ全校実施することができた。 また、幼稚園保育所も昨年度の倍以上の数を実施することができた。 <b>●交通安全・天文教室 ※《》内はR3実績</b> ・4年生 47校《47》（うち学校実施なし《10》） ・6年生 45校《27》（うち学校実施なし《0》） ・園所 31園（所）《16》（うち交通のみ1園所《1》天文のみ11園所《4》） ・特別支援学校1校（交通のみ）《1》 <b>●環境教室</b> ・5年生47校《47》実施（うち学校で実施なし《13》） <b>●移動天文教室は、学校の校庭を会場に5校実施</b>		 <p style="text-align: center;">天文教室</p>	
	評価理由	交通・天文・環境教室に関しての実施校アンケートの結果が、一部で目標値よりも低いものの全項目で高い数値となっているため。特に幼稚園保育所等では、実施数も増加し交通に関し意識の高まりがみられたため、A評価とした。		

今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交通安全教室（小学校） →自転車に不慣れな児童や自転車に乗る経験が少ない児童が増加。練習の場の設定や乗り方の助言、職員の配置の工夫に努めるとともに、指導方法の改善に取り組む。「親子自転車乗り練習会」を複数回開催し、自転車操作の習熟を図る。さらに、共生社会推進課で実施している交通安全ポスター作品展を支援する等関係課と連携し、来館者も安全について考える機会を提供するなど、継続して周知を図る。</li> <li>●天文教室（小学校） →理科担当教諭との事前打合せ等を活用し、理科の授業内容と進度に応じた展開を工夫。天文教室の充実に向けて、タブレットPCの効果的な活用方法を検討。</li> <li>●移動天文教室 →実際の天体観察を通して、宇宙や天体への興味・関心の向上を図る。また、学校における理科学習の振り返りにつなげられるように努める。</li> <li>●環境教室 →「生物多様性」や「SDGs」などの教育に活用できる環境を整備する。環境教室の内容を家庭に周知し、家族と一緒に環境を考えられる教材の充実を図る。可視化に向けて前橋児童文化センター環境マップを作成したが今後の周知と活用方法の検討が必要である。 →児童文化センターの発電施設を利用した新プログラム「自然エネルギーを生かした発電のしくみを調べよう」について指導担当者で話し合い、内容の充実が図られるように努める。</li> <li>●学校の環境教育充実のための関係課との連携強化 →各学校の環境教育の中に環境教室を位置づけるよう引き続き依頼。学校教育課と連携し、学校のニーズに応じた環境教育の支援に努める。また、市環境森林課とも連携し、専門的な知識をもった講師を招聘し、深い学びの実現に努める。</li> </ul>
-------------	---

学識経験者意見
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全・天文教室について、6年生と園所でR3の実績を大幅に上回って実施できただけでなく、利用者アンケートの結果から、内容及び学習効果も非常に高いものであったことが示されていることから、大変高く評価できます。</li> <li>・環境教室では、前橋市児童文化センター環境マップを作成し、体験的な環境学習の効果を高める取り組みを行っており、評価できます。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の環境教育の充実は非常に重要であるため、学校教育課等と連携協力し体制づくりを進めていただきたいです。また、環境マップを学校、家庭でも有効活用していけるよう、作成した環境マップの充実と効果的な活用方法についての検討を進めていただきたいと思います。</li> <li>・全ての事業指標に対する実績がほぼ100%となっていることは素晴らしいのですが、一方で、次年度の改善点を見つけることが難しい状況です。事業指標となるアンケートで、児童生徒の意見を反映できる項目を追加するなどして、課題発見につながる工夫ができるとよいと考えます。</li> </ul>

分野		施策の柱	
青少年教育分野	児童文化センター	(2) 自然体験活動の充実	
施策の目標			評価
1. 自然体験活動の推進 ★追加評価項目 里山学校			A
担当課	教育支援課（令和4年度：青少年課） 生涯学習課・市民協働課・文化財保護課		
重要施策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な活動例の提示や相談、教員への研修、自然体験学習講師の派遣や人材の紹介などを行うことにより、児童生徒が主体的に取り組む自然体験活動の充実を支援する。</li> <li>赤城山麓の自然や土地の特性などを活かした体験学習をとおして、ふるさとのよさに気付き、ふるさとを愛する心を育てるとともに幼児や小学生同士の異年齢交流、地域の子供と大人との交流、地域の枠を超えた様々な人との交流を図る。</li> </ul>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
指導協力者を活用している学校数		小41校 中8校	R4年度実績 小51校 中16校
参加者アンケート「体験を通して、地域の良さを感じたか」の項目が、4段階中上位2位以上の割合		99%	95%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然体験活動支援事業の実施 →学校や講師との情報交換を密にし、林間学校の代替事業としての一泊自然体験活動や、その他の自然体験活動を支援。 →児童生徒に貴重な体験を提供し、学校の活動実績を伸ばした。参加児童数延べ5,254名、講師数延べ265名</li> <li>●自然体験活動支援事業の要項の見直し →令和4年度からは赤城山の施設以外（北毛青少年自然の家・榛名高原学校等）でも講師と連携しながら森林環境教育を行えるよう、一部見直しを実施。</li> <li>★里山学校 →コロナ禍により、予定事業6件中3件を実施。実施した公民館では、参加者が地域の良さや魅力を実感できるプログラムを提供した。</li> </ul>		
	評価理由	自然体験活動において、指導協力者を活用している学校数をR3年度よりも18校増やすことができたためA評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の支援をさらに充実させていく。</li> <li>●自然体験活動は、講師主導型から児童生徒主体の活動に移行してきた。今後、講師との連携を一層密にし、指導の展開事例の再検討や支援の方法を工夫することにより、児童生徒の主体性や知的好奇心が高まる活動となるように、見直しを図っていく。</li> <li>●学校等の自然体験活動推進のため、担当職員が事前・事後も含めた体験活動の進め方や有効活用について助言する。また、学校の活動の様子を視察し、講師と連携しながら児童生徒主体の活動の在り方などを話し合ったり、児童生徒との接し方について具体的アドバイスを行ったりするなど積極的なコーディネートを進めていく。</li> <li>●里山学校は学校や家庭のみでなく地域全体で子供を育てる体制づくりの推進が重要。公民館を所管する生涯学習課、市民サービスセンターを所管する市民協働課と連携を密にし多くの公民館に実施協力を呼びかけていく。</li> </ul>		
学識経験者意見			
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験活動において、指導協力者を活用している学校数がR3年度よりも13校増加し、学校との連携強化が促進されたことで、自然体験活動が充実したことは高く評価できます。特に、コロナ禍によりこれまでの林間学校の代替事業として自然体験活動を支援し、児童生徒の体験が充実できたことは重要であると考えます。</li> <li>また、自然体験活動を児童生徒主体で実施できるよう、講師との連携を密にするだけでなく、具体的アドバイス等活動のコーディネートを進める姿勢も高く評価できます。</li> <li>・里山学校では、学校や家庭のみでなく地域全体で子供を育てる体制づくりの推進が重要であることを認識し、参加児童が地域の良さを実感できていることは高く評価できます。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師主導型から児童生徒主体の活動に移行するための講師との話し合いは大変重要であると考えます。体験活動のコーディネートや児童生徒との接し方のアドバイスは、根気のいる取り組みだと思いますが、児童生徒を主体とする活動の本質を見極め、きめ細やかに対応していただくことを期待します。</li> <li>・里山学校はコロナ禍により予定の半数の実施にとどまりました。R5年度には計画通り実施できるよう、生涯学習課、市民協働課と連携を密にし、里山という地域で子供を育てると意識の醸成、共有に一層努めていただきたいと思います。自然体験活動においては、子供の自然に対するセンスオブワンダーを育むことが重要であり、子供はその体験や経験を土台として、推論を拡張して一般化していくことができます。子供たちが実際の自然環境から遊び、楽しんで学ぶプレイフルラーニングを通して、興味と直感を自ら育てることが大切です。さらに、子供の思考における具体と抽象の行き来を専門員が手助けし、子供たちが生きた知識を獲得していく学びのプロセスを取り入れていくことが大切です。自然体験活動のプログラムの設計により一層注力していくことを期待します。</li> </ul>			

分野		施策の柱	
青少年教育分野	児童文化センター	(3) 科学・文化芸術活動の充実	
施策の目標			評価
1. クラブ活動の充実 2. 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実 3. プラネタリウム番組の制作と投影 4. 施設・設備を活用した企画イベントの充実			
担当課	教育支援課（令和4年度：青少年課）		
重要施策			
<p>・科学・文化芸術に関する様々なクラブ（発明、環境冒険隊、宇宙、合唱団、ジュニアオーケストラ、演劇）を実施することにより、多くの人と関わりながら個性や能力を伸ばし、自己肯定感や生きる意欲を高める。</p> <p>・科学・文化芸術に関する教室（夏季教室、わくわく教室等）を実施することにより、多様な体験活動を推進し、子供たちの興味・関心を広げるとともに、様々なことに主体的に取り組もうとする意欲を育てる。</p> <p>・自主制作のプラネタリウム番組と生解説を組み合わせ、来館者の実態や季節、天文現象に即した投影方法や解説を工夫することにより、市民の天文への理解と興味・関心を高める。</p> <p>・市民天文教室やプラネタリウムコンサートなどのイベント内容や実施方法を工夫することにより、多くの市民が宇宙や天文現象に親しむ機会を提供する。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
クラブ活動において、一年間、継続して活動に取り組めた子供の割合		90%	92%
教室参加者アンケート「最後まで自分の力でがんばれた子供」の割合		96%	98%
プラネタリウム一般投影観覧者数		7,180人	8,000人
市民天文教室とプラネタリウム特別投影の参加者数の合計		110人	300人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種クラブ活動</li> <li>→学校や年代が異なる6クラブ総計225名が活動。県の警戒度ベル)に従い、感染リスクに合わせたガイドラインをクラブごとに作成して対策に努めた。</li> <li>→各種教室</li> <li>→夏季教室（10教室）、わくわく教室（16教室）実施。コロナ対策として少人数・短時間で開催。市民天文教室は、天候不良で実施できない日もあったが、11月の皆既月食観望実施時には、惑星観察も実施。参加者の天文への興味関心を高めることにつながった。</li> <li>→プラネタリウム</li> <li>→星座解説や番組制作の充実により、一般投影観覧数が増加。</li> </ul>	 <p>市民天文教室</p>	
	評価理由	観覧者数等関連数値が前年実績に比べ2倍以上に増加した。科学文化芸術に関する様々なクラブや教室の事後調査の結果の数値も増加し、目標を上回ったため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各クラブとも、学校や世代間交流の場として知的好奇心が高まる活動を今後も継続して実施できるように、活動内容の精選や改善、さらには講師陣の新たな任用も含めた人材開拓に努めていく。</li> <li>●同世代・多世代間交流の中で主体性を育むことができる夏季教室やわくわく教室などの教室は、例年応募数が多く参加者の満足度も高い。参加人数や参加者の実態に合わせた教室づくりを引き続き検討する。</li> <li>●自主制作のプラネタリウム番組の月毎の更新や内容の充実を引き続き行い、市民により良いプログラムを提供できるようにしていく。また、来場者の増加を目指し、施設やプログラムの周知、休祝日の投影回数追加やプラネタリウムを利用した新企画等を検討していく。</li> <li>●市民天文教室は、曇天時におけるプラネタリウムの活用等も含めて開催を目指す。プラネタリウムコンサートは、ジュニアオーケストラの生演奏とプラネタリウムの生解説を融合し、幅広い年齢層に向けて年間で2回開催を目指す。また、昼間の月の観察等、天文現象に触れる機会となる新企画も検討する。</li> </ul>		

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

・科学・文化活動の推進に関して、多様なプログラムやイベントを多数準備・実施し、多数の市民が参加していることは高く評価できます。コロナ禍により3年間実施できなかった合唱団の活動が再開できたり、演劇クラブに参加している子供たちがプラネタリウムの解説に参加したりするなど、クラブ活動の充実が図られており、高く評価できます。加えて、これらの活動を通して、世代間交流の場にもなっており、地縁による地域活動が難しくなっている状況において、それに代わる重要な取り組みの一つとみることができ、高く評価できます。

### 【改善・対応が必要な点】

・共働き家庭の増加に伴い、子供が地域社会で多様な経験をする機会が減少しているという報告があります。家庭の状況によらず、これらの活動に誰もが参加していけるような仕組みになっているか、改善すべき点がないか再点検する必要があります。

分野		施策の柱	
青少年教育分野	児童文化センター	(4) 「学び」と「遊び」の充実と多世代交流の推進	
施策の目標			評価
1. 各種イベントや体験的な事業の推進 2. 交通安全に関わる体験の推進 3. 市民力の活用と多世代の交流			
担当課	教育支援課（令和4年度：青少年課）		
重要施策			
<p>・「こども春(秋)まつり」や「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊び場」などにおける子供たちの「学び」や「遊び」の子供主体の体験活動を充実させることにより、個性や能力、創造性の伸長を図る。</p> <p>・足踏みカートや交通信号、横断歩道、ゴーカート等での体験を通して、交通ルールや公共の場でのマナー等の社会性を身に付ける機会を提供する。</p> <p>・様々なイベントや教室等において、ボランティア・青少年ボランティアなど多世代の人と交流する体験を通して、子供たちの人と関わる力や豊かな人間性を育む。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
わくわくチャレンジコーナーの利用者数		2,321人	2,500人
ボランティア実施教室への参加者数		72人	800人
足踏みカートとゴーカートの利用者数の合計		126,883人	130,000人
ボランティアの活動のべ回数と青少年ボランティアの活動のべ回数の合計		127回	150回
実績	<p>いずれの事業も感染症対策を講じながら実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●わくわくチャレンジコーナー →利用者にも広く定着し、講師であるサポートスタッフへの希望者も増え、R4年度以降も指導継続の見通し。</li> <li>●交通安全に関わる体験 →ゴーカートは、感染症対策を講じて運営し、大きな事故等もなく利用者数も増加。 →足踏みカートは、公園指導員の見守るなか、多くの子供たちが適切に利用。</li> <li>●市民力の活用と多世代の交流 →ボランティア主催行事は関係者の努力により、センターボランティアの会の企画・運営による事業を実施。 →ボランティアの企画行事や短・長期インターンシップ等を実施。大学生ボランティアは様々な活動で子供たちの指導・支援に参加。</li> </ul>		 <p>ボランティアの会主催事業</p>
	評価理由	わくわくチャレンジコーナー、ゴーカート、足踏みカート利用者数やボランティア実施教室参加数は大幅に増加して、目標を上回る実績となったため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種イベントや体験的な事業等において、企画の見直しや指導内容の検討・確認を図る。また、講師との事前打合せを十分に実施して、子供たちの主体性を育む。</li> <li>●「わくわくチャレンジコーナー」での体験活動の充実に向けて、講師研修を継続して実施。サポートスタッフの活動意欲を高める。(R4年度は4回の計画で実施は3回)。</li> <li>●足踏みカートなどで楽しく遊びながら交通ルールやマナーなどについて学べるように、公園指導員を配置。公園利用のルールについて、引き続き指導の充実を図る。</li> <li>●冒険遊びゾーン内の遊具について、専門業者による点検・補修を行う。学びと遊びの場として安全な運営を継続していく。(R2年度より継続)。</li> <li>●ボランティアの会と協力し、情報を共有したり連携を図ったりすることを通して、ボランティア活動の活性化や自主的な企画・運営の支援を引き続き行っていく。</li> <li>●若手ボランティアの増員を目指すために、学生ボランティアを経験した学生や視察等に訪れた学生等に積極的に声かけを行っていく。</li> </ul>		

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

コロナ禍以前の参加者にはまだ戻ってはいないものの、利用者、イベントの参加者数が増加していることは、スタッフの創意工夫の成果であり高く評価できます。また、スタッフとしてのボランティアが増加しており、高く評価できます。

### 【改善・対応が必要な点】

市民力の活用と多世代の交流の推進を可能にする背景には、ボランティアの会のメンバーの活躍があります。このボランティアの会が培ってきたノウハウを、青少年育成事業等、他の事業におけるボランティア活動にも活用できれば、市民力の活用をより一層進めていくことができると考えます。

分野		施策の柱		
社会教育分野	生涯学習	(1) 「主体的な学び」の実現につながる学習機会の提供		
施策の目標			評価	
1. 子育て、親子支援の充実 2. 青少年体験・チャレンジ活動の充実 3. 生涯学習奨励員活動支援の充実 4. 自主学習グループ活動支援の充実 5. 学び合い、人権、地域ふれあいの充実				
担当課	生涯学習課			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する基礎的な知識や技術に関する学習、親子のふれあい、参加者の交流、リフレッシュの場を提供する。</li> <li>・地域全体で子育てを支援する意識を高めるため、各種団体や地域住民を対象に「子育て支援・理解」の講座を開催する。</li> <li>・ふるさとへのよさに気づき、ふるさとを愛する心の育みにつながる「自然」「歴史」「文化」「食」等をテーマとした子どもが主体的に取り組める体験プログラムを実施する。</li> <li>・生涯学習奨励員の研修や実践研究会等を開催して、社会教育への見識を深め、奨励員活動の充実を図る。</li> <li>・自主学習グループの活動支援（会員増・活動の活性化）や立ち上げにつながる講座を開催する。</li> </ul> <学び合い> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康、食育、環境、安全安心など、地域課題やニーズを捉えた講座を開催する。</li> </ul> <人権> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部落差別をはじめとした多様な人権問題の解消を促進するための啓発や人権教育講座の開催等を実施する。</li> </ul> <地域ふれあい> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化・産業・伝統伝承等の地域特性を活かした事業や講座を開催する。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
事業（講座）開催回数（子育て・親子支援）		133回	170回	196回
事業（講座）開催回数（青少年体験・チャレンジ活動）		98回	130回	108回
事業（講座）開催回数（生涯学習奨励員活動支援）		21回	32回	38回
事業（講座）開催回数（自主学習グループ活動支援）		63回	48回	80回
事業（講座）開催回数（学び合い、人権、地域ふれあい）		329回	320回	405回
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て、親子支援、青少年体験・チャレンジ活動 子育ての悩みや不安を共有し、安心・安全な場の中での親同士のコミュニティ作りの支援を行った。また、親子が触れ合う講座の実施により、子育てに必要なヒントを学習することができた。</li> <li>●生涯学習奨励員活動支援 デジタル化の進展により、生涯学習奨励員活動におけるデジタルリテラシー向上を図り、デジタルデバイス解消のための研修会を開催した。</li> <li>●自主学習グループ活動支援 自主学習グループの体験見学の機会を設けることで、地域の学びの場の周知とともに、自主学習グループ会員増へのきっかけとなった。</li> <li>●学び合い、人権、地域ふれあい 上川淵公民館では、ヤングケアラーの存在や問題点についての講座を実施し、子どもの置かれている状況を学んだ。桂萱公民館では、前橋市手をつなぐ育成会活動パネル展と前橋特別支援学校児童生徒の美術作品展を同時に実施し、来館者への障がい者理解を深めた。また、福祉作業所製品の特別販売会により、障がい福祉や人権に対する興味・関心を深めた。</li> </ul>			
	評価理由	コロナ対応型公民館講座により、前年度実績を上回るとともに目標を達成できたためA評価とした。		

子育て・親子支援事業  
「城南おやこひろば」の様子

今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民の学びを止めないよう、開催手法や開催時期を工夫し公民館事業を実施することができたが、長期に渡る新型コロナウイルス感染症への対応による学習機会や意欲の低下や、自主学習グループ会員の高齢化により、会員数が減少していることから、既存の自主グループ支援とともに、新たな自主グループ立ち上げのための公民館事業を企画する必要がある。</li> <li>●人権教育、国際理解などにも積極的に取り組み、誰もが参加しやすい講座づくりに努め、地域関係団体との連携による公民館事業展開を行う。</li> <li>●公民館利用者の幅を広げるために、若年世代・障がい者・外国人等にも足を運んでもらえるような講座開設のため、高校生学習室を利用している高校生との意見交換を行う。</li> </ul>
-------------	---

**学識経験者意見**

**【評価できる点】**

・令和4年度は、コロナの状況も少しずつ改善されたことをうけて、公民館講座が各種再開されました。特に親子支援の講座の再開は非常に意義のあることです。また生涯学習奨励員のスキル強化として、デジタルリテラシー向上を図り、デジタルデバイド解消のための研修会を開催されたこともとても評価できるでしょう。この際、対面とzoomのハイブリッドで実施していただいたことも、なかなか容易なことではないので評価したいとともに、今後もこの方法を生かして欲しいと思います。また全公民館でパネル展が実施できたことも、新型コロナウイルス感染症の影響下においては大きな意義があるように思います。

**【改善・対応が必要な点】**

・コロナの影響や高齢化により自主学習グループの会員数が減少してしまったとのことなので、新しい会員が入るようなシステムづくりをお願いしたいです。また、子育て支援もコロナの中、工夫してやっていただいたと思いますが、地域によっては実施できていないところもあったので、市全体で実施していただけるとありがたいです。また小学生・中学生対象の青少年体験・チャレンジ活動も、コロナの状況が改善されてきているので、これまで以上に実施していただければと思います。

分野		施策の柱		
社会教育分野	生涯学習	(2) 公民館・コミュニティセンターの充実		
施策の目標			評価	
1. 公民館における社会教育事業の充実 2. コミュニティセンターにおける社会教育事業の充実 3. 職員研修の充実			B	
担当課	生涯学習課			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題や住民ニーズを捉えて、ウィズコロナを考慮しながら、地域団体・教育機関・企業等との連携・協働により多様性のある事業を行う。</li> <li>・地域課題や住民ニーズを捉えて、ウィズコロナを考慮しながら、地域団体・指定管理者・地域担当専門員等との連携・協働により多様性のある事業を行う。</li> <li>・公民館及びコミュニティセンターの職員を対象とした各種研修を実施して、職員の意識や資質の向上を図る。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
公民館事業開催回数		646回	700回	827回
コミセン事業開催回数（中央公民館共催含む）		39回	24回	30回
職員研修開催回数		15回	20回	21回
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対面講座が難しい状況下でも遠隔地から参加できるZOOMの特性を生かした公民館講座を実施した。特に本土復帰50周年を迎える沖縄から、海を見ながらのヨガ体験を通じて運動不足解消とともに心身のリフレッシュを行った。（接続者数72名）</li> <li>●第1, 3, 4, 5コミセンでは、地域住民を対象としたデジタルデバйд解消スマホ教室を実施し、参加者のデジタルリテラシー向上を図った。また、全コミセンでの救急救命講座（消防局協力）を実施し、地区での救急対応について学習する機会を設けた。</li> <li>●公民館職員研修では、主に事業別担当者での意見交換を行い、ワークショップによる新たな公民館講座の企画など実践的な研修を行った。また、公民館講座における動画作成方法などの専門的な研修を行い、職員のスキルアップを図った。</li> </ul>		 <p>東公民館・元総社公民館共催 「沖縄の海でヨガしよう」講座（ZOOM77リ）</p>	
	評価理由	公民館事業開催回数は目標を越えて実施できているが、コミセン事業では前年度実績より減少しているためB評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ感染症の分類の引き下げに伴い、対面を中心とした公民館講座が増加していくと思われるが、公民館に来館できない市民への学びの場として、引き続きオンライン講座の開設や動画（Youtube）配信を行い多様な学びを確保するための公民館講座の実施を図る。</li> <li>●コミセンで社会教育事業推進のため、引き続き需要のあるデジタルデバйд解消型スマホ講座の実施回数を増やすことや、館内でのデジタルスキル指導者養成講座などを企画していく必要がある。</li> <li>●職員研修については、専門研修として動画作成方法を継続して取り組むとともに、動画作成手法の平準化を図るため、職員の理解度に応じた研修を開催する。また、専門的知識を習得している社会教育主事（士）への専門研修を行い、新たな講座開設手法や講座開設のノウハウについての研究を行う。</li> </ul>			

## 学識経験者意見

### 【評価できる点】

・Zoomを利用することにより、沖縄とつないでヨガ教室を実施したとのこと、コロナという状況にあっても、それを克服する形での講座開催は大変意味のあることでしょう。また、この講座は職員が先生を見つけるという主体的な取組みであったということで、このこともさらに評価できます。このような講座開催は、今後の講座の可能性を広げるものだと思います。参加者も多かったということで、それとともに従来とは違う層のニーズがあったということも評価したいです。このような新たな取組は公民館職員研修などでの共有していただくことも必要だと思いますが、研修もしっかり開催していただき、意見交換などもしているとのことなので、この点も評価できる点だと思います。

### 【改善・対応が必要な点】

・コミュニティセンターの事業は、令和4年度はなかなか開催が難しかった事情もあったとのことですが、コロナの状況も改善された令和5年度はより一層多くの事業を開催していただけるよう、期待しています。

分野		施策の柱	
社会教育分野	生涯学習	(3) 地域で活躍する人材の育成と活用	
施策の目標			評価
1. 学びの成果の地域還元 2. 地域の人材育成と活用 3. 青少年の育成推進			
担当課	生涯学習課		
重要施策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びを通して自己実現と社会参画への意欲の喚起を促し、学習成果を地域へ還元できる機会を提供する。</li> <li>・ 市民や各種団体が公民館事業の企画・運営に携わる機会を増やし、自己有用感を高め主体的な地域活動への参加を推進する。</li> <li>・ 高校生に自主的な学びの場を提供することで自己成長を促す。</li> </ul>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
市民講師の登録者数		25人	24人
市民講師による出前講座利用件数		16件	80件
高校生学習室利用登録者の地域活動参加者数		30人	25人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民講師による出前講座や企業・団体による出前講座情報をパンフレットに掲載し、多くの学習機会を提供し、令和3年度実績から大幅に利用者数が増加した。</li> <li>● 高校生のための自主的な学びの場を提供し、学校にとらわれない仲間づくりを支援するため、令和3年度にアクエル前橋内に高校生学習室を開設した。令和3年度の延べ利用者は18,194人で、コロナ禍にあっても当初想定を越えた利用があったが、令和4年度は30,898人とさらに利用者数が増加した。また令和5年3月には高校生学習室の利用者を中心に高校生文化祭を自主的に開催し、参加した高校生の非認知能力の向上を促すことができた。</li> </ul>		
	評価理由	市民講師の登録者や出前講座の利用件数、高校生学習室の地域活動参加者数については、目標値を上回っており、地域活動参加者数について前年度と同数のためA評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公民館学習グループや地域住民による出前講座利用については、コロナ前に近づきつつあるが、新たな市民講師の発掘や育成が必要であることから、人材育成講座などを実施し、市民講師の登録者増を図る。</li> <li>● 高校生学習室について、学習環境の整備により継続した利用者増を図る。また、進学や就職などそれぞれの希望実現に向けての取り組みを行い、相談・情報提供・仲間づくり・社会参加を通じて、自立心や地元愛を醸成するとともに、卒業後に途絶えがちな前橋市とのかかわりを継続させ、地元定着やUターンにつながる取り組みや、相互成長を促して次世代を担う人材育成に取り組む。</li> </ul>		
学識経験者意見			
<p>【評価できる点】</p> <p>アクエル前橋内の高校生学習室の利用者が前年比で増加し、高校生文化祭やクリーンアップ活動を実施できたことは、従来と異なった世代の公民館利用者の促進にもつながり、特に評価できる事業です。利用者が多い時期には、会議室なども開放して対応してくださっているとこのことで、このようなご尽力により勉強の場としての認知度が増しているものと思われます。学校の枠を越えた高校生文化祭が、地域の文化祭として認知され、さらに大きく発展していくことを期待しています。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>市民による出前講座の実施がさらに拡充し、全公民館に広がっていくことを希望します。またこのような市民講座において継続性のあるものが増えていくことも期待したいところです。コロナ前にあった高齢者が中心となるカフェ事業も、高齢者の居場所の一つとなると思うので、少しずつ復活してほしいと思います。</p>			

分野		施策の柱			
社会教育分野	図書館	(1) 知的活動を支援する図書館の充実			
施策の目標				評価  A	
1. 暮らしを支えるサービスの充実					
担当課	図書館				
重要施策					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学習要望や知的好奇心に応えるために、幅広い資料を的確に収集、保存するとともに、レファレンス機能の充実を図る。また、高齢者施設をはじめとした各種団体への団体貸出を通じた読書普及や学習支援を行う。</li> <li>・利用者の利便性向上のため、本館、分館を結ぶ物流ネットワーク機能を充実させる。</li> </ul>					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
図書館貸出利用者数		415,471人	360,000人	415,301人	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レファレンスサービス（調査相談） 2,315件（令和3年度：2,358件）</li> <li>●雑誌スポンサー70誌、56万円（令和3年度：46誌、45万円）</li> <li>●学校への図書館資料の団体貸出 延べ20校、346冊（令和3年度：延べ15校、340冊） 利用した学校数12校</li> <li>●社会福祉施設への団体貸出 延べ224回、3,771冊（令和3年度：延べ156回、2,642冊）</li> <li>●毎週3日、本館・前橋こども図書館・16分館を結んだ物流ネットワークサービスを実施し、利用者の利便を図った。</li> <li>●令和5年度の自動貸出機及びセキュリティゲート等のICTタグ関連機器の稼働に向け、図書資料等約101万点にICTタグを貼付。</li> <li>●電子書籍サービス 令和5年3月から電子書籍サービス（前橋電子図書館）を導入。電子書籍等32,429点</li> <li>●パブリックコメントを経て、図書館新本館基本構想を公表</li> </ul>		 <p>雑誌スポンサー</p>		
	評価理由	レファレンスサービスは前年度より件数を若干減らしているものの、雑誌スポンサーは順調であり、団体貸出利用も一定の需要が認められるため、A評価とした。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インターネットの普及やコロナ禍の影響で、レファレンス件数は若干減少。今後は、新本館整備も見据え、利用者の知的好奇心に応えられるように司書を中心に人材育成を行い、引き続き、ICTを活用したサービスの提供方法について研究しつつ、第3期前橋市教育振興基本計画にある「郷土資料の知識やレファレンス技術向上のための意見交換会や勉強会」を毎月実施しながら、レファレンスの質の向上を図っていく。</li> <li>●団体貸出事業は、引き続き周知を行い、利用促進につなげていく。</li> <li>●「どこでも借りられてどこでも返せる図書館」が前橋市立図書館のサービスの特徴である。令和4年度には、配送経路と従事職員の勤務体制を見直して、週3日で各日全ての分館を回れるようにするとともに、回送冊数の多い分館には、臨時に車両を追加するなど業務改善を行いサービスの維持に努めてきた。しかしながら、本館と各分館を結ぶ物流ネットワークサービスは、年々回送数が増加しており令和4年度は毎月平均約10万冊と非常に多く、量的にも人的にも限界に来ている。運搬車両と人員の確保が不可欠である。</li> </ul>				
学識経験者意見					
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこでも借りられてどこでも返せる図書館」という特徴のある取組みがいつそう認知されてきて、多くの人に利用されていることは、非常に評価できます。雑誌スポンサー制度はさらに拡充しており、利用者の利便性が向上していることも評価点といえるでしょう。また団体貸出も増加しており、この点も引き続きご尽力をお願いしたいです。レファレンス技術の向上に関しても非接触型の対応やICT利用など、コロナ禍で得られた方法も生かしながら、よりよいサービスの提供にご尽力いただいております。この点も評価したいと思います。令和4年度はICタグや電子書籍導入なども進められ、サービスの充実化が図られました。令和5年度には、これらのサービスにより利用者へ便宜がますます図られることを期待しています。</li> </ul> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこでも借りられてどこでも返せる図書館」は本市の図書館の特徴ある事業として大きなものですが、利用者の増加に比して、運搬車両と人員に限界があるとのこと、この点は早急に改善すべき点だと思いますので、車両と人員の確保をお願いしたいです。</li> </ul>					

分野		施策の柱		
社会教育分野	図書館	(1) 知的活動を支援する図書館の充実		
施策の目標			評価  A	
2. 文化事業の推進				
担当課	図書館			
重要施策				
・郷土資料を活用した展示や、講演会などの文化事業等を実施し、郷土を思う心を育む。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
集会行事の参加者数		5,759人	2,000人	5,766人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コレクション展 2回（前期・後期） →開館106年の図書館コレクションを総括する展示。図書館が所蔵する貴重な資料を使用したことで、新たな発見があった等の声が多かった。</li> <li>●企画展 2回（「萩原朔太郎大全2022」への参加企画展示・上毛仏教美術展） →「萩原朔太郎大全2022」への参加企画展示「いつか私は詩人朔太郎に出会う運命にあったー前橋市立図書館と渋谷国忠ー」を開催。当館の元館長で、朔太郎研究の先駆者である渋谷国忠にスポットを当てて内容とした。</li> <li>●企画展示と連携した講演会 2回 →天明の浅間山噴火から240年の節目の年ということで、上毛仏教美術研究会と連携して企画展示を開催した。高雲院宿弁に関する内容の講演会を行い、聴講者からは郷土に起こった災害や、当時の様子について改めて考える機会になった等の反響があった。</li> <li>●他所属・団体等との連携 →高等学校連携事業として市立前橋高等学校のJRC部による読みきかせ、書道部作成のしおり配布、図書委員会によるおすすめ本POP展示</li> </ul>		 <p>企画展のポスター</p>	
	評価理由	郷土に関連した様々な企画展を実施し、特に、郷土の人物に焦点をあてた企画は、市外・県外からも来場者が多く、好評を博したため、A評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施事業への反響は概ね良好。引き続き、郷土に関連した企画を実施し、アンケート等で来場者からの意見や感想を吸い上げながら、参加者の郷土への興味関心を引き出す機会の提供を図っていく。</li> <li>●貴重資料の展示については、今後も、資料の収集、保存、展示（公開）を計画的に実施していく。</li> </ul>			

学識経験者意見

【評価できる点】

「萩原朔太郎大全2022」への参加としての企画展示や、天明の浅間山噴火から240年の節目の年での企画展示および講演会の実施は時宜をとらえたものとして大変評価できます。そのうえ、図書館が所蔵する貴重な資料を展示したコレクション展の実施も、所蔵品の公開・活用という点でも評価できます。同様にミニ企画も7回実施していただいたとのことで、図書館ならではの発信という点でも評価できるでしょう。また、近隣の高校との連携事業も高校生など若い世代の来館を促す意味においても重要で、継続して行っていただきたいものです。

【改善・対応が必要な点】

・コロナの状況が良くなってきているので、集会行事への参加者数の増加を期待します。そのための良い企画の実施を引きお願いしたいです。新たな入館者層の開拓のためにも、以前敷島公園のイベントと同時に開催していた「森と空と水の移動図書館」のような出張開館も復活させて欲しいものです。図書館所蔵の貴重書などのデジタルアーカイブ化もさらなる公開・活用という観点から必要なことと思います。

分野		施策の柱	
社会教育分野	図書館	(1) 知的活動を支援する図書館の充実	
施策の目標			評価
3. 子ども読書活動の推進			A
担当課	図書館		
重要施策			
<p>「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、絵本に親しむきっかけづくりとしてのブックスタート事業、幼稚園等への絵本セット団体貸出事業、市内小学1年生への図書館利用登録促進事業等、子供が主体的に本に親しめる取組を市民と共に推進する。</p>			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
読書活動普及行事の参加者数		2,465人	6,257人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書活動普及行事 →前年比2.5倍</li> <li>●ブックスタート事業 対象者2,093人中、引換者1,725人引換率82.4%（令和3年度78.7%） →コロナ禍前の引換率（令和元年度83.2%）に戻りつつある。</li> <li>●絵本の団体貸出 利用団体数 延べ136団体 貸出冊数 13,600冊（令和3年度13,400冊）</li> </ul>		 <p>分館での読み聞かせ会</p>
	評価理由	withコロナでの運営に転換した結果、読書活動普及行事の参加者数が大幅に増加した。加えて、ブックスタート引換率の上昇並びに地域での読み聞かせ会開始にこぎつけたため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき、図書館、学校、家庭、地域、各種団体と連携して子ども読書活動を推進する。</li> <li>●2か所の分館から始まったブックスタート読み聞かせ会の実施館を増やすため、読み聞かせ団体の協力を得ながら準備を進めていく。</li> <li>●共生社会を推進するための取組として、NPOとの連携及び来館者の目に触れやすい場所でのユニバーサル絵本の配架を継続する。</li> <li>●令和5年3月に事業内容を拡充し、障害児通所支援施設や障害時入所施設等を対象に加えた「特別支援教育等団体貸出」の利用増に向けて周知を図る。</li> </ul>		
学識経験者意見			
<p>【評価できる点】</p> <p>・令和4年度は読書活動普及行事の参加者が大幅に増えたとのことで、コロナ禍における工夫などが功を奏したということができ大変評価できます。ブックスタート事業の引換率も、ほぼコロナ以前に戻ったとのことで、まだまだ影響が大きかった年度であったことを勘案しますと、非常に評価できることといえるでしょう。また分館における読み聞かせ会ができるようになったことも、ブックスタート事業とも連動し、重要なことと考えます。ブックスタート事業の受け手が、次に読み聞かせる側となっていくというような良い循環が生まれているとのことで、この点も評価したいと思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・特にありませんが、引き続きブックスタート事業の引換率向上や、分館での読み聞かせ会も全館で実施できるようにお願いしたいと思います。</p>			

分野		施策の柱	
社会教育分野	図書館	(1) 知的活動を支援する図書館の充実	
施策の目標			評価
4. 図書館運営への市民参加の促進			A
担当課	図書館		
重要施策			
・市民との協働による開かれた図書館づくりを推進するため、読み聞かせグループ連絡協議会などへの支援を継続するほか、他団体との連携を図るとともに図書館運営に係るボランティアの活性化を図る。			
事業指標		R3年度実績	R4年度目標
ボランティア参加人数		402人	761人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本館（いずれも夏季休業中に実施）            &lt;図書館サマー・フレンズ&gt; 対象：中学生及び高校生            参加人数：中学生1人、高校生7人（延べ42人）            分館&lt;図書館キッズ&gt; 対象：小学生            参加人数：5・6年生26人（延べ45人）</li> <li>●前橋こども図書館            &lt;読書活動普及行事&gt;            ボランティア参加者数延べ674人（令和3年度延べ259人）            保護者の関心が高い英語の読み聞かせでは、従前の学生（大学生、高校生）に加えて、子ども英会話教室の講師が新たに従事。また、男性講師による紙芝居を中心としたお話会やブックスタート読み聞かせ会が一部の分館で始まるなど、市民活動の広がりが多様な世界観を子ども達に届ける一助となっている。</li> </ul>		 <p>英語の読み聞かせ会</p>
	評価理由	事業指数の目標を大幅に上回るボランティア参加人数があったため、A評価とした。	
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「図書館サマー・フレンズ」の実施については、実施後の参加者アンケートや活動中の意見を参考にして、より有効性の高い活動内容を計画していく。</li> <li>●前橋こども図書館は、開館以来一貫して多彩な市民による活動に支えられている。お話会等の行事に従事して下さる市民の思いや願いが子ども達に届くよう、ボランティアとの連携、情報共有を密にとり活動を支援していく。</li> </ul>		

学識経験者意見	
<p>【評価できる点】</p> <p>・全般的にはボランティア参加人数の大幅な増加となりました。特に前橋こども図書館におけるボランティアが増え、コロナ前に戻ったとのことで、まだコロナ禍であった令和4年度ということ考えると非常に評価できます。またそのボランティアの中でも、男性講師や外国人講師など、今まであまり参加のなかった人が講師となって、読み聞かせ会が実施されたとのことで、これは子どもたちにとっても非常に良い経験になっていると考えられるでしょう。今後もいろいろなパターンの読み聞かせ会の実施を期待しています。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・ボランティアの全体数は増加しましたが、夏休みのサマーフレンズは減少してしまいました。周知の工夫などで、中学生・高校生の参加を促していただければと思います。また、コロナの状況が改善してきたことを受けて、完全にストップしてしまった図書館サポーター制度なども、徐々に再開していただくとよいと思います。図書館運営に主体的に関わるボランティアの増強をお願いしたいです。</p>	

分野		施策の柱			
社会教育分野	文化財	(1) 文化財等の保護と活用			
施策の目標				評価	
1. 文化財等に親しみ、郷土への愛着の心の未来への継承				A	
担当課	文化財保護課				
重要施策					
・各種文化財の調査、適切な保護と管理、環境整備を進めることで、市民の歴史学習や来訪者の歴史観光などの利便性を向上させるなど、利活用の促進を図る。					
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
保存活用計画策定数(延べ件数)		3件	4件	3件	
文化財施設入館者数(人)		46,855人	49,000人	80,679人	
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●良好な環境を維持するための定期的な史跡の除草・樹木管理等の実施</li> <li>●史跡の保存・活用の推進のため、国指定史跡八幡山古墳の追加指定地を地権者と交渉し取得した。</li> <li>●令和元年に寄附を受けた市指定史跡不二山古墳前方部用地の除草や間伐等の環境整備を実施した。史跡としての環境が整ったことから、確実な保護のため追加指定を行った。</li> <li>●臨江閣の有料貸館業務 →婚礼の前撮り等の会場として安定的な需要がある。貸館収入約309万(令和3年度約244万)。NHKの全国放送番組にも紹介されるなど、入館者数が増加した。</li> <li>●臨江閣の魅力を伝えるためクリアファイル、ポストカードを作成した。</li> <li>●県指定重要文化財三夜沢赤城神社本殿改修工事への支援、補助を実施した。</li> <li>●池端北耕地下ノ割遺跡の埋蔵文化財調査の様子やドローンでの空撮をYouTube市公式チャンネルで公開した。</li> <li>●前橋市内の文化財に触れる機会を作るため、一般市民を対象にした文化財探訪を実施し、「城南地区の文化財」と「前橋城跡」に焦点を当て、各地区の文化財を歩いてめぐった。</li> </ul>		 <p>八幡山古墳</p>		
	評価理由	事業指標の入館者数は目標を大きく上回るとともにコロナ前の水準に回復したため、A評価とした。			
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5年度粕川歴史民俗資料館春期企画展では「昭和46年刊行前橋市史第一巻以後」と題して、発掘調査結果により明らかになった前橋市の原始古代の歴史を遺物とともに展示、講演を予定している。</li> <li>●厳しい財政状況の中、施設の老朽化や耐震対策、防火対策について計画的に進めていくことが必要。令和5年度は、阿久沢家住宅の耐震対策工事、旧関根家住宅の茅葺屋根改修工事等を実施予定。令和4年度は、臨江閣整備委員会に新たに防火専門の学識経験者を委員に委嘱し、協議を行った。本格的な対策工事には実施設計等の準備期間を要するが、国や県、消防局等関係団体と連携し進めていく。</li> <li>●文化財の適切な保護と利活用の指針となる保存活用計画の計画的な策定を目指す。</li> <li>●臨江閣のクリアファイル等については、売上の一部を文化財の保護に活用する予定。</li> </ul>				

学識経験者意見	
<p>【評価できる点】</p> <p>・令和4年度は文化財施設入館者数が昨年度を大きく上回りました。これは非常に評価できる点でしょう。コロナ禍にあっても、担当の方々それぞれの施設でご尽力し続けていただいていた結果であろうと考えます。また、コロナ禍により獲得された技術としての動画配信は、結果として市内はもちろんですがそれを越えて、全国の興味関心ある方々に届くこととなりました。本市の魅力を全国に発信することにもつながり、歴史観光にもつながるように思います。</p> <p>以上のようなことの根拠として、史跡の良好な環境を維持するための除草・樹木管理等が非常に大切な事業です。目立つことではありませんが、その点をともしっかりと実施していただいております。このことを高く評価したいと思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・特に改善・対応が必要な点、ということではありませんが、令和5年度はアフターコロナの年度となると思いますので、止まっていた事業の再開などコロナ以前の状況への回帰、そしてさらにその先への見通しが必要となるかと思えます。たとえば、文化財施設へ来館を促すような事業など、コロナ禍によって得た技術も生かしながら、新たに考えてくださるとありがたいです。</p>	

分野		施策の柱		
社会教育分野	文化財	(1) 文化財等の保護と活用		
施策の目標			評価	
2. 未来へ繋げる人づくり、学びの場の構築と文化財の普及啓発				
担当課	文化財保護課		A	
重要施策				
・関係機関・団体等と連携を図りながら、文化財関連施設それぞれの役割や機能に応じた効果的な事業手法や周知方法を検討・実施し、普及啓発を図る。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
学校児童生徒の学びの場としての見学・学習者数(人)		2,336人	4,000人	2,766人
文化財各種イベント来場者数(人)		2,772人	3,500人	5,765人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第16回前橋高崎連携文化財展の開催 →展示物とあわせて国重要文化財である臨江閣を見学してもらえるよう前橋会場を前年と同様に臨江閣とした。</li> <li>●小学校への出張授業や各種体験教室の実施 →夏休みに小学生向けの考古学教室を実施、冬に大人向けの古墳の教室を再開。定員に達する回が多く、参加者にも好評であった。(計170名) →中止が続いていた阿久沢家住宅における里山学校の再開。竹細工体験や国蝶オオムラサキの観察、放蝶を行った。</li> <li>●ホームページ「歴史発見!前橋フィールドミュージアム」の充実 →本市文化財の一層のPRを図るため、イベント体験教室の紹介や発掘調査の速報も掲載した。</li> <li>●粕川歴史民俗資料館における企画展の開催 →春期は「前橋の刀工と刀剣」をテーマに、秋期は「赤城山南麓の弥生式土器」をテーマに開催。刀剣展示では刀工による銘切の実演も行い、多くの人の参加があった。</li> </ul>		 <p>阿久沢家住宅 里山学校 竹細工体験</p>	
	評価理由	事業指標の「学校児童生徒の学びの場としての見学・学習者数」は、コロナ前の令和元年度と同等程度の人数を想定し目標値としたが、資料館等の社会科見学の他、特に学校への出張授業の実施がコロナの余波を受け激減(1,370人→94人)したことにより目標には達しなかった。しかしながら「イベント来場者数」は、特に下半期に実施したイベントにおいて目標指数を大きく上回ったため、A評価が相当とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●with コロナ時代に即した、感染症対策を講じた上で、可能な限りイベント・教室を開催できるよう努める必要がある。令和5年度は、小学校からの要望に応じ、引き続き出張授業を実施するとともに、昨年度再開した里山学校についても、関係課・関係団体と協議しながら実施する。</li> <li>●令和5年度も、古墳や城跡など地域の特徴的な文化財を活用し様々な世代が文化財を学び、楽しめる企画を検討する。</li> <li>●体験型の学習や文化財展等は、現地で見たり体験しないと伝わりにくい内容もあるが、文化財への理解が一層進むよう動画配信にも取り組んでいく。</li> <li>●旧関根家住宅で予定される茅葺屋根葺替工事や阿久沢家住宅の耐震対策工事は、普段見られる機会が少ない工事であるため、安全に配慮しながら見学会の開催を検討する。</li> </ul>			
学識経験者意見				
<p>【評価できる点】</p> <p>・令和4年度における文化財各種イベント来場者数は前年度に比べ、ほぼ倍増となっています。まだコロナの影響が続いたなかでのこの実績は、非常に評価できることと考えます。また、前橋高崎連携文化財展も好調で、前橋では臨江閣を会場としたため、臨江閣の見学との相乗効果を生み出すことができました。さらにまだまだ制限のあるなかでの、里山学校の再開や、各種体験教室の再開は、ご担当者の方々の工夫とご努力なしには実施できないことですので、たいへん評価できることと思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・令和5年度は、アフターコロナの年度とならうかと思っておりますので、これまで以上に各種体験教室などの需要の高まり、それにともなう実施計画が必要にならうかと思えます。ホームページや動画配信などの新しいツールを有効に使いながら新しい企画なども考えていただき、さらなる普及啓発につなげていってくださるとありがたいです。</p>				

分野		施策の柱		
社会教育分野	文化財	(1) 文化財等の保護と活用		
施策の目標			評価 <b>A</b>	
3. 郷土の魅力の発見と新たな創出				
担当課	文化財保護課			
重要施策				
・新たな前橋の魅力の発見に努め、総社古墳群、市内蚕糸業に係る建造物、上野国府など、各種の文化財の調査研究を、活用を見据えながら進める。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
文化財保護指導員による巡回監視の評価(4段階評価)における上位2評価の割合		91%	85%	92%
文化財等調査件数(件)		16件	15件	17件
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総社古墳群範囲内容確認調査では、古墳群の史跡指定を目指し、調査報告書の作成を行った。</li> <li>●上野国府等範囲内容確認調査は毎年国府関連施設を検出している宮鍋神社南方で実施。</li> <li>●開発事業に伴う発掘調査を市直営で5遺跡1,748㎡、民間委託で4遺跡19,467㎡を実施。</li> <li>●発掘調査成果を市民に還元するため、臨江閣において、新出土文化財展(1,968人来場)、前橋高崎連携文化財展(1,838人来場)を開催、総社歴史資料館ではミニ企画展を開催</li> <li>●発掘調査現地説明会を、元総社蒼海遺跡群・上野国府跡(104名参加)で実施。</li> <li>●文化財専門職の正規職員を募集し、2名採用した(本市初。令和5年度採用)。</li> </ul>		 <p>現地説明会(元総社町)の様子</p>	
	評価理由	令和4年度も各種調査、調査結果の周知が適正に実施され、事業指標も目標値を上回ったためA評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上野国府等範囲内容確認調査で重要遺構が検出された場合、遺構を現状保存するために全庁的な協力が必要。</li> <li>●上野国府解明のため国府周辺遺跡のデータ整理・分析作業を引き続き実施。</li> <li>●専門的な行政分野である埋蔵文化財行政を適切に行うためには、専門知識と豊富な実務経験を有する専門職員が必要となるため、計画的に専門職員の補充及び後継となる職員の教育・育成を実施。</li> <li>●総社古墳群の平成29年度から令和3年度までの範囲内容確認調査結果について、令和4年度に調査報告書等を作成した。令和5年度は総括報告書を作成し、年度内の国史跡指定を目指し、引き続き文化庁や調査委員会と協議を進める。</li> <li>●埋蔵文化財への理解と関心を深めてもらうため、発掘調査現場説明会や各種展覧会・講演会を開催。</li> </ul>			

#### 学識経験者意見

【評価できる点】  
・総社古墳群の史跡指定を目指して、範囲内容確認調査の総括報告書を作成させました。報告書は今後の活用を見据えたときにも基盤となるものであり、とても重要な実績です。また、上野国府等範囲内容確認調査も引き続き行われ、国府関連施設のさらなる検出が期待されます。上野国府のさらなる解明は全国的に見ても求められていることで、令和4年度も建物跡が発見されたとのことで、今後の調査でもますますその重要性が明らかになることを期待します。  
・文化財保護課として必須である文化財専門職の正規職員を、本市として初めて採用していただけたことは大変重要なことです。専門的な知識をもった職員が長らく求められていましたが、ようやく正規職員が採用されたことは大変評価できることです。  
その他、新出土文化財展や、ミニ展示、発掘調査現地説明会を実施していただき、市民へのアウトプットが早い段階でできていることも評価すべき点でしょう。

#### 【改善・対応が必要な点】

特にありません。今後も活用を見据えた調査・研究、展示をお願いします。

分野		施策の柱		
社会教育分野	文化財	(1) 文化財等の保護と活用		
施策の目標			評価	
4. 市民ボランティアとの連携、円滑な協力体制づくり				
担当課	文化財保護課		A	
重要施策				
・文化財の市民解説ボランティア等の育成・体制づくりを積極的に支援するため、情報交換、史跡見学会、講座開設、自主活動への協力などを行う。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
文化財関連ボランティアの利用人数(人)		2,861人	4,500人	5,743人
構成人数(人)		49人	45人	48人
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大室古墳の語り部 利用人数672人</li> <li>●古墳の語り部ボランティア養成講座 →コロナの影響で講座は中止になったが、新たに60代の3名がボランティアに加入。平均年齢が下がった。 →利用人数はコロナ以前より多くなっている。</li> <li>●前橋観光ボランティア会(臨江閣)、総社歴史資料館説明員の会の活動 →前橋観光ボランティア会は、4月から徐々に活動を再開し、7月から本格的に活動再開となった。団体観覧申込も回復し、社会科見学等の学習活動の他、一般観覧者への解説もコロナ以前と同様に行った。 →総社歴史資料館説明員は、コロナ感染予防対策を講じながら、社会科見学等における児童生徒への説明を実施し、コロナ以前と同様に子供たちの学習に貢献。</li> </ul>		 <p>前橋観光ボランティア会による 小学生への社会科見学説明(臨江閣)</p>	
	評価理由	事業指標のボランティアを行う構成人数及びボランティア利用人数ともに目標に達したことから、A評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティアの登録者数は増えたが、70歳代以上が多く、どのボランティア団体も依然として会員の高齢化が進む。市民ボランティア組織継承のためにも、若い世代の加入が課題。高齢ボランティアが活動しやすいよう支援するとともに、ボランティア案内利用者に会員募集のチラシを配るなど、引き続き世代に合わせてWebを活用した募集・支援など若手ボランティアも増やせるように力を入れる。</li> <li>●社会科見学や団体観覧ではガイド利用希望が多いため、新規ボランティアの入会を目指し、ボランティア養成講座を開催するとともに、ガイドの知識をより深めるための講演会等への参加支援を行って行く。</li> </ul>			
学識経験者意見				
<p>【評価できる点】 古墳の語り部ボランティアに60代の方3名が加入され、平均年齢が下がったことは、非常に喜ばしいことです。これまでの古墳の語り部の方々の活性化にもつながるものと期待します。前橋観光ボランティア会(臨江閣)、総社歴史資料館説明員の会の活動も徐々に復活したことも評価できます。今後コロナの状況が改善されていくなかで、ボランティアガイドの需要は高まることが予想されますので、体制づくりをお願いしたいと思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】 なかなか難しいことだとは思いますが、高校生や大学生のボランティアを増やしていただければと思います。高校や大学と連携することによって、興味のある生徒・学生が可能な時間にコミットできるようなシステムができると良いと思います。</p>				

分野		施策の柱		
社会教育分野	文化財	(1) 文化財等の保護と活用		
施策の目標				評価
5. 郷土の伝統文化・伝統芸能の継承				A
担当課	文化財保護課			
重要施策				
・郷土芸能の継承を推進するため、映像記録のWebページ公開の充実や学校・各種団体への積極的な紹介・貸出しを行うなど、学校や市民力を活用した連携を進めて伝統文化の継承を図る。				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
郷土芸能連絡協議会加盟団体の子どもが加入する団体数		22団体	22団体	22団体
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●郷土芸能大会や地域の活動</li> <li>→郷土芸能大会は、コロナ禍により中止が続いていたが、3年ぶりに開催され、市内高校生による出演もあった。初めて臨江閣を会場としたが、立ち見が出るほどの観覧があった。大会動画をYouTube市公式チャンネルで公開した。</li> <li>→御霊神社保存会は、長年の活動が評価され、群馬県文化奨励賞を受賞。</li> <li>●市郷土芸能連絡協議会が地域社会振興財団の交付金採択を受けた地域郷土芸能の普及・参加啓発事業に着手した。</li> <li>●加盟団体所有の道具の保存修理の補助申請支援</li> <li>→1件（下長磯操翁式三番叟保存会）</li> </ul>		 <p>郷土芸能大会 県立勢多農林高等学校 郷土芸能部 和太鼓演奏</p>	
	評価理由	事業指標が目標値であったこと、コロナ禍にあっても可能な限り活動を行ったためA評価とした。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の郷土芸能の普及啓発、後継者の育成、参加者の減少が課題。加盟団体とも協議を進める。令和5年度は、前述の交付金を活用し市郷土芸能連絡協議会が作成した郷土芸能紹介冊子等を展示し、郷土芸能の魅力の発信に努める。</li> <li>●令和4年度に再開した郷土芸能大会は、会場を臨江閣としたが、想定より多くの来場者があり、観覧に支障が出るほどだったため、令和5年度はより大きな会場を検討する。郷土芸能部がある市内の高校にも出演依頼を行う。また、動画配信も行い、より多くの人に郷土芸能の魅力を伝えていく。</li> <li>●郷土芸能の保存団体等の活動が停止することなく継承させていくための取組や課題整理、守り育てるための方法など、情報交換できる機会を作る。</li> </ul>			
学識経験者意見				
<p>【評価できる点】</p> <p>・コロナ禍により中止が続いていた郷土芸能大会が3年ぶりに臨江閣を会場として開催され、大盛況だったということは本当に素晴らしいことです。大盛況ぶりから、この大会を待ち望んでいた人が多かったこともうかがい知れました。また、大会の動画を市の公式YouTubeチャンネルでも配信したということも評価できます。反響がなかなかわかりにくいとも思いますが、まずは誰もがいつでも見られるためのご配慮であり、さらに会場に足を運べなかった人でも郷土芸能に興味をもってもらうことが可能となる事業でもありますので、継続していくことにより今後の郷土芸能の継承につながっていくことにもなりえ、非常に評価できると思います。</p> <p>【改善・対応が必要な点】</p> <p>・コロナの状況が改善されていくなかで、学校や各種団体への紹介や貸出などについても、今後は積極的に取り組んでいってくださると、継承に結びつく人材の裾野を広げることにもつながっていくかと思えます。</p>				

分野		施策の柱		
教育環境整備分野	教育施設整備	(1) 教育施設の整備		
施策の目標			評価	
1. 学校教育施設の整備 2. 青少年教育施設の管理と整備 3. 社会教育施設等の整備 4. 文化財施設の整備			A	
担当課	教育施設課・教育支援課・生涯学習課・図書館・文化財保護課			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎等学校教育施設の整備 児童生徒が安全かつ快適に過ごせるよう、空調整備、トイレ洋式化、バリアフリー化、外壁落下防止等により教育環境の充実と防災機能の強化を進める。また、大規模改造等による計画的な機能の更新と定期的な点検により現有施設の長寿命化を図る。</li> <li>・市有施設の管理及び活用推進 青少年教育施設の指定管理者と連携して施設の活用推進を図る。</li> <li>・児童文化センターの管理及び活用推進 前橋こども公園と一体化した児童文化センターの施設の維持管理を行うとともに、子供たちの活動交流拠点として施設の環境を整え、活用の推進を図る。</li> <li>・市民が安心して快適に利用できるよう公民館、コミュニティセンターの適正な維持管理と計画的な改修を行う。</li> <li>・図書館の整備 老朽化した本館について、将来を見据えた整備の検討を行う。</li> <li>・文化財施設の適切な維持管理に努めるとともに、拠点的な文化財施設の整備についても調査・検討を行う。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
大規模改修校数 ※( )内は設計数		5(1)	1(0)	1(2)
長寿命化対策(屋上防水、外壁落下防止、受水槽、受変電設備)校数 ※( )内は設計数		8(8)	13(5)	13(5)
トイレ洋式化率		60%	66%	68.5%
空調設備設置・更新校数 ※( )内は設計数		8(12)	5(12)	5(12)
市有施設(赤城少年自然の家)の利用者等の人数		3,274人	7,000人	6,608人
市有施設(おおさる山乃家)の利用者等の人数		802人	900人	1,012人
児童文化センターの利用者等の人数		228,489人	300,000人	319,363人
大規模な改修事業等の進捗状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>●永明公民館 →移転新築工事概ね終了</li> <li>●図書館 →本館移転までの現本館の整備調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●永明公民館の外構工事完了 ・城南公民館の駐車場再整備関連工事完了</li> <li>●施設整備検討の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●永明公民館の外構工事完了 ・城南公民館の駐車場再整備一部関連工事完了</li> <li>●排煙窓改修(2,057千円) 図書館新本館基本構想策定。基本構想に基づいて、図書館新本館基本計画を作成中</li> </ul>
文化財保護指導員による巡回監視の評価(4段階評価)における上位2評価の割合		91%	85%	92%

## 【教育施設課所管】

- 校舎大規模改造工事の実施  
→計画どおり実施。
- 屋上防水工事及び外壁落下防止工事の実施  
→計画どおり実施。
- トイレの洋式化工事  
→改善要望が多いが、改修計画に則り進めることができた。
- 小学校特別教室の空調設備設置工事  
→職員室等に設置済みである空調の更新工事を行うのと同時に、特別教室（理科室、家庭科室及び図工室）への新設工事を令和4年度より計画的に進めていく。

## 【文化財保護課所管】

- 臨江閣の障子改修、畳表改修、トイレ洋式化工事  
→傷み、破損が激しかった別館の障子張替工事や畳の表替え修繕を行った。また、別館・本館の和式トイレ6基の洋式化工事を実施し、高齢者やインバウンド等の外国人観光客の利便性向上を図った。
- 阿久沢家住宅耐震対策工事実施設計  
→有識者と協議し、耐震対策工事に向けた実施設計が完了した。
- 総社歴史資料館前の冠水対策排水工事  
→大雨や台風時の資料館前の冠水が課題であったが、集水枥を埋設する排水工事を実施した。

## 【生涯学習課所管】

- 赤城少年自然の家  
→コロナ禍による休館、林間学校の中止や予約キャンセルが続いていたが、利用者アンケートを参考にし、ニーズに沿った事業を行っているため多くのリピーターが施設を利用。林間学校や団体での利用、主催事業参加者もR3年度と比較し大幅に回復している。
- おおさる山乃家  
→コロナウイルスの影響により利用者は減少傾向だったが、創意工夫しながら、施設管理、自主事業を行いR3年度と比較し200人ほど利用者数が増加しており回復傾向に向かっている
- 永明公民館の整備  
→外構工事はすべて完了し、移転作業及び開館業務も円滑に進め、令和4年5月16日に落成記念式典を行い、予定どおり開館することができた。
- 城南公民館の駐車場再整備  
→側道に接する城南公民館の西側出入口や排水管の付け替えなど駐車場再整備の一部関連工事を完了することができた。

## 【教育支援課所管】

- 児童文化センター  
→前橋子ども公園と一体である施設の特徴を生かした活動や、コロナ禍に対応するガイドラインに沿って、可能な範囲での利用拡大を行い、様々なイベント等を実施。ボランティアを中心に市民力の活用と諸活動の充実が図られた。  
→令和4年9月実施の外壁落下防止実施設計業務における外壁打診調査では、広範囲のタイルに浮きが確認されたため、令和5年度に外壁落下防止工事を実施予定。また、トイレ内LED照明交換のほか、日常点検にて発見された破損箇所など、各所設備等の修繕を実施した。  
→施設管理に関する計画を策定し内容を精査中である。  
→子育て世代をはじめ、子供に関わる幅広い年代の方が来館している。前橋市外からの利用者も多く見受けられ、コロナ禍で減少した利用者数も回復傾向にある。

## 【図書館所管】

- 現本館について、修繕可能箇所の随時修繕を実施。  
令和5年度ICタグ関連システムの稼働に向けて、自動貸出機及びセキュリティゲートなどのICタグ関連機器を本館、前橋子ども図書館及び一部分館に設置した。また、新本館については、基本構想を公表するとともに、前橋子ども図書館の移転統合が決定した。



校舎長寿命化改良工事（着工前）



校舎長寿命化改良工事（着工後）



臨江閣 トイレ洋式化工事



永明公民館落成記念式典

	評価理由	教育支援課所管施設の利用者等の人数も目標を上回り、生涯学習課所管施設も予定どおり目標を達成することができたためA評価とした。
今後の課題及び取組方針		<p>【教育施設課所管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●バリアフリー法の改正により、障害のある児童生徒等の教育環境の充実が求められているため、スロープ及びバリアフリー用外トイレの整備や新たに設置した拠点地区におけるエレベーター整備を計画的に進めていく。</li> <li>●小学校特別教室（理科室、図工室、家庭科室）及び中学校体育館への空調設置を推進していく。</li> <li>●老朽化した校舎が数多くあり、計画的な大規模改修が必要。屋上防水工事や外壁落下防止工事など部分別に保全工事を進めながら、建物全体をリノベーションする長寿命化改修工事を計画的に実施できるように、国庫補助金の活用及び市財政当局との連携・協調を図る。</li> </ul> <p>【文化財保護課所管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●旧本間酒造 →令和4年度入札不調により実施できなかった経年劣化している外塀の建替え工事を実施する。（森林環境贈与税基金活用事業）</li> <li>●阿久沢家住宅 →耐震補強工事の実設計完了を受け、専門家の見解も踏まえ、令和5年度に耐震対策工事を実施する。</li> <li>●旧関根家住宅 →経年劣化している茅葺屋根（北側）を防水シートにより応急措置をしているが、令和5年度に茅葺の全面葺替え工事を実施する。</li> <li>●拠点的な資料館の建設・整備に向けた研究・検討 →総社歴史資料館、粕川歴史民俗資料館のようなサテライト的な資料館に加えて、博物館機能を有した拠点的な施設についての研究・検討の継続。</li> <li>●狭隘化・老朽化に対応した施設の移転・集約・充実 →総社庁舎、文化財収蔵施設などの移転・集約・充実が課題。引き続き関係課等との協議を行う。</li> </ul> <p>【生涯学習課所管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●赤城少年自然の家、おおさる山乃家 →利用者数も回復傾向にある。また、関係団体と連携しながら、創意工夫した魅力あるプログラムを取り入れることにより、更なるリピーターおよび新規利用者数の増を図る。施設の老朽化は進んでいるが、恵まれた環境の中で行う林間学校や自然体験プログラムの魅力をSNS等を通じてPRしていく。</li> <li>●上川淵公民館の整備 →永明公民館の整備工事等がすべて完了し、開館したため、次期整備公民館として上川淵公民館を決定した。前橋市教育施設長寿命化計画に基づき改修を基本として整備していく。</li> <li>●城南公民館の駐車場再整備 →国道50号拡幅工事や国による東側市道拡幅工事の進捗も考慮しながら、舗装工事など駐車場再整備に本格的に着手していく。</li> <li>●元総社公民館空調設備改修 →建築後15年が経過し、機器の不具合も多くなってきているため、空調設備の改修に着手していく。</li> <li>●公民館等の利用者に係る快適性、安全性を確保するには、施設の老朽化対策への対応が必要。財政状況が厳しい中で有利な財源もないため、事後保全的な対応を進める。</li> </ul> <p>【教育支援課所管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童文化センター →建設から10年以上が経過したが、来館者が安全で安心に施設を利用でき、子供たちの学習や体験の場の環境を維持できるよう継続的に運営する必要がある。プラネタリウムでは今後も高額な設備更新が予定されており、外壁等の工事も含めた多額の施設管理経費は、バランスを考え適切に予算を見込まなくてはならない。併せて、各所の改修や修繕箇所は優先順位をつけて実施するなど、市教育施設長寿命化計画や個別の施設管理計画に基づき、引き続き計画性ある施設管理に取り組む。</li> </ul> <p>【図書館所管】</p> <p>現本館については、適切な維持管理に努める。また、新本館については、新本館基本構想よりも具体的な内容の「新本館基本計画」を策定する。更には、千代田町中心拠点地区第一種市街地再開発事業における新本館基本設計に対して、新本館基本計画に即した内容を反映させるよう努める。</p>
学識経験者意見		
<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育施設課所管の教育施設の整備では、事業指標に関して、すべて計画通り目標を達成できていることは高く評価できます。前橋市は教育施設長寿命化計画を、平成25年3月（平成30年3月一部改訂）を策定しており、建設から40年以上経過する教育施設が多数ある中で、この計画があることにより老朽化する教育施設の効率的な改修ができています。また、この計画策定から10年が経過したため、これまでの取組の進捗や社会情勢の変化に対応する新たな計画を令和5年3月に策定しており、PDCAプロセスが着実に実行されていることも評価できます。また、生涯学習課所管の公民館も地域コミュニティの拠点として、計画的に改修を進めることができおり、評価できます。</li> <li>・赤城少年自然の家、おおさる山乃家、児童文化センターでは、コロナ禍においても利用者数が回復傾向にあり、施設が市民に有効活用されていることは、施設の有効性を示すものであるとともに、維持管理においても有益であるため評価できます。</li> </ul>		

・図書館は新本館基本構想を公表し、「対話による多様な学びがある知のひろば」をビジョンに掲げ、市民の知的関心を高める地域とともにある図書館を目指しており評価できます。また、現本館についても、電子書籍の購入や自動貸出機導入等、利便性の向上に努めており評価できます。

・文化財保護課所管の臨江閣は、トイレ洋式化工事等、利便性向上を図ることで利用者数の増加を目指しており、評価できます。また、文化財施設についても計画的に対応しており、文化財保護指導員による巡回監視の評価も良好なことから、評価できます。

【改善・対応が必要な点】

・文化財保護課では、拠点的な資料館の建設・整備に向けた研究・検討、および狭隘化・老朽化に対応した施設の移転・集約・充実について検討を進めていますが、特に、DXの観点から文化財の保護と活用の在り方の検討を進めていただき、効果的な対応を考案いただくことを期待します。

・児童文化センターの令和4年の外壁打診調査で、広範囲のタイルに浮きが確認され、令和5年度に外壁落下防止工事の実施が予定されています。施設職員、来館者の安全を第一に、浮きの原因究明と落下防止工事を速やかに実施していただきたいと考えます。

分野		施策の柱		
教育環境整備分野	学校給食	(2) 子供たちの健やかな成長を育む学校給食の充実		
施策の目標			評価	
1. 学校給食を要とした食育の充実 2. 安全・安心でおいしい学校給食の安定供給 3. 共同調理場の運営方法の適正化（民間委託）			B	
担当課	総務課・学校教育課			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時の訪問指導や教科等の授業における専門性を生かした指導が充実するよう、学校と学校栄養職員等との連携を対する支援を行う。</li> <li>・身近な地元食材を通じて、「生産」から「消費」までの関わりを学び、地域等への理解を深め、郷土への愛着心や生産者等への感謝の気持ちを育むため、学校給食における地産地消の取組を推進する。</li> <li>・異物混入や食中毒の発生防止等に努め、献立の研究や調理の工夫をし、美味しく栄養バランスのとれた給食を提供する</li> <li>・効果的で効率的な共同調理場運営を図り、民間委託に取組む。</li> </ul>				
事業指標		R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績
野菜地産地消率 県内産（うち前橋産）		47% (35%)	50% (38%)	46% (36%)
民間委託調理場数		3か所	3か所	3か所
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校給食を要とした食育の充実 →地場産物の活用による郷土食や季節の行事食を提供。由来を説明する校内放送資料を配付し食育指導を実施。 →共愛学園前橋国際大学短期大学部の栄養専攻学生による給食施設紹介の動画を作成。</li> <li>●地産地消の推進 →前橋産食材を最優先に納品するよう発注。（前橋産がなければ群馬県産、群馬県産がなければ県外産）</li> <li>●献立会議の開催（WEB） →食材選定は栄養士と調理場長が実施。</li> <li>●西部・南部・東部調理場の調理・配送等業務業者の選定 →プロポーザル方式により令和5年度から3か年の委託業者の再選定を実施し、業務の効率化とコスト削減に取り組んだ。</li> <li>●給食費の適正化に向けた検討の継続 →物価高騰等による実績を踏まえ給食費単価の検討を行った。</li> <li>●コロナ禍の学級閉鎖等による余剰食材の対応 →余剰を押えるため牛乳等は数量調整を各学校により対応のうえ、余剰となった米及び牛乳はフードバンクに提供を行った。</li> </ul>		 <p>令和4年10月24日学校給食ぐんまの日 郷土食前橋メンチカツ、おっきりこみ等</p>  <p>共愛短大による給食施設紹介の動画作成</p>	
	評価理由	野菜地産地消率 前橋産はR3年度実績よりアップしたものの、県内産・前橋産ともに事業指標の目標値に達することができなかったため。		
今後の課題及び取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●野菜は収穫量が天候に左右されやすく量や品質確保に難しい面がある。多様な食材や料理を食べる経験と児童生徒の健康を支える食育の一環として、積極的に地産野菜を発注していく。</li> <li>●食べ残し状況（残さ量） →食べ残し状況の把握と献立内容等の改善に引き続き取り組み、残さ量の減少に繋げていく。</li> <li>●共同調理場の運営方法の適正化 →児童生徒数やクラス数の動向、正規職員数、施設設備の更新などを総合的に考慮しつつ、民間委託の拡大も含め適正化を検討していく。</li> <li>●休校等により生じた余剰食材の活用課題 →食品ロスを最小限に抑えると共に休校等の措置解除後への変更や閉鎖していない他校に提供など学校給食内で使用。また牛乳や炊飯前の白米などフードバンクの受入基準に適している食材に関しては状況に応じて寄付を行う。</li> </ul>			

●給食費の値上げ

→学校給食摂取基準に基づく栄養バランスのとれた給食提供と食材費高騰にも対応することが必要。  
→R4年度の値上げ（1食単価30円増）については公費負担を継続。食材の値上げ品目が多く、保護者負担の在り方について、引き続き検討を進める必要がある。

●安全・安心でおいしい学校給食の安定供給

→給食施設の老朽化が進み、施設改修や大型調理器具の修理及び更新が喫緊の課題となっている。財源が厳しい中でも給食の安定供給のためには前提として重要な「安定稼働」に取り組んでいく。

学識経験者意見

【評価できる点】

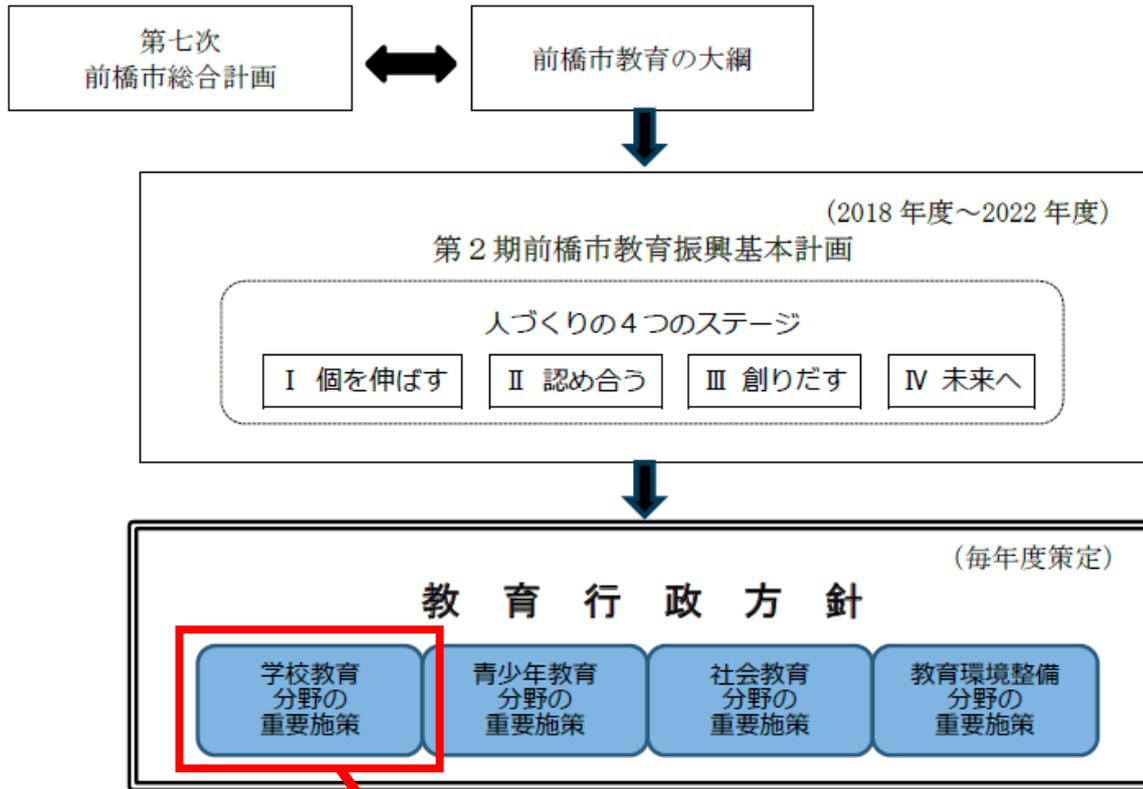
・野菜の地産地消の取組の推進は、目標値に実績値が届きませんでした。前橋産がR3年度よりもアップしており、評価できます。特に、SDGsの観点から、地産地消は有効な取り組みであり、目標値達成には天候や契約農家からの地理的条件が関わってきますが、継続して取り組んでいただきたいと思います。  
また、給食の食べ残し量の減少につながるよう献立内容を検討し、残飯については東部・西部・南部・北部の4つの共同調理場は養豚業者への提供などによりリサイクルされています。コロナの影響で給食を通した食育の実施が難しい状況にありましたが、リサイクルプロセスの情報をういた食育の準備も進めており、今後の取り組みに期待したいと考えます。

【改善・対応が必要な点】

・給食費の値上げについては、公費負担を継続していますが、食材の値上げが続いており財源も限られていることから、保護者負担を検討する必要があります。一方で、一部の自治体で給食費の無償化が実施されています。様々な側面からの検討が必要となりますが、安心、安全でおいしい給食を安定して提供するために、議論を進めていただくことを期待します。施策の目標に給食の安定供給が挙げられていますが、共同調理場の老朽化が進んでおり、適切な対応が求められます。

# V 具体的施策評価シートと 教育振興基本計画等の 関係について

Ⅴ 具体的施策評価シートと教育振興基本計画等の関係について



I 学校教育分野 — (I) 義務教育

施策の柱(1) 学校力を高める学校経営

～学校教育目標の達成に向けたチームとしての学校づくり～  
学校経営の基盤となる各種管理体制や指導体制、学校間や地域・家庭との連携、学校評価等の充実を図るとともに、教職員、事務職員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動支援員などの専門スタッフや学校支援ボランティアが連携・分担し、それぞれの力を発揮できる「チーム学校」としての体制を構築します。

施策の目標	重要施策
1. 一人一人がチームの一員として参画する学校づくり	・「チーム学校としての協働的な取組例」や「校務分掌における一人一人の役割の明確化」など、学校教育充実指針推進指針が円滑に推進できるようにするための情報共有の場としての推進部会を開催する。【学校教育課】 ・カリキュラム・マネジメントの充実を図るために、学校評価システムに基づいた活用上の支援や情報提供を行う。【総合教育プラザ】
2. 学校間の連携と家庭・地域の教育力を生かした教育の推進	・学校運営への参画と学校支援を一体的に実施する学校支援協議会【前橋版コミュニティスクール】の推進に向けた情報提供及び学校訪問による支援を行う。【学校教育課】
3. 多様なニーズに対応する教育の推進	・障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指した指導を推進するために、校内委員会による組織的な取組を進めるとともに、個別の教育支援計画等に基づいた指導・支援の充実や会計年度任用職員の効果的な活用を図る。【総合教育プラ

具体的施策評価シート

分野		施策の柱		
学校教育分野	義務教育	(1) 学校力を高める学校経営		
施策の目標			評価 <b>A</b>	
1. 一人一人がチームの一員として参画する学校づくり				
担当課	学校教育課・総合教育プラザ			
重要施策				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チーム学校としての協働的な取組例」や「職務分掌における一人一人の役割の明確化」など、学校教育充実指針推進教諭が円滑に推進できるようにするための情報共有の場としての推進部会を開催する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの充実を図るために、学校評価システムに基づいた活用上の支援や情報提供を行う。</li> </ul>				
事業指標		R2年度実績	R3年度目標	R3年度実績
学校評価 「充実指針を生かした学校課題の解決に向けた取組」についての教師の回答（4段階評価の上位2位の割合）		92%	95%	91%
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計2回の推進部会をオンライン会議により開催し、全体での研修や情報交換を行いました。</li> <li>・第1回は、充実指針の趣旨や推進教諭の役割等を確認し、各学校で実際に行われている推進上の具体的な方策について情報交換を行いました。</li> <li>・第2回は、コロナ禍における推進上の課題を確認するとともに、1年間の推進上の工夫点及び成果や課題について情報交換を行い、改善策について協議を行いました。</li> <li>・令和3年度より各学校で一人一機タブレットを使用できることとGoogle フォームによる学校評価アンケートの作成により、これまでの紙面アンケートからデータアンケートに変更しました。その結果、実施、集計、分析がより効率的に行えるようになりました。アンケート結果については、各校での分析の依頼とともに報告を受けまして本市の全体的な傾向について分析し、各学校へ通知するとともに研修会や紀要で周知しました。</li> </ul>	<p>2 実践発表及び協議の場の方</p> <p>後半「次年度に向けた課題と改善策」 16~40分まで</p> <p>校閲テーマ ①コロナ禍における<b>自主性や社会性</b>を育成する取組の工夫点について</p> <p>②コロナ禍における<b>豊かな人間性</b>を育成する取組の工夫点について</p> 		
	評価理由	<p>目標に対し達成度が同程度であり、各学校において、推進教諭を中心として、学校課題の解決に向けた取組の推進がおおむね図られているため。</p> <p>Google フォームによる学校評価アンケートの実施により、読み取り作業などがなくなり、これまでの担当者への負担が大幅に削減され、効率化を実現できたため。担当者へのサポートについても、研修やいつでも確認ができるようにGoogle ドライブに各資料を保存し、環境を整えてある。</p>		
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進教諭の経験等の差による取組の学校間格差、組織的・計画的な推進が課題として上げられることから、各学校の推進教諭が役割を十分に自覚したうえで、コーディネーターとしての取組を適切に推進できるよう、計2回の推進部会の場で意見交換や交流の時間を十分に確保するとともに、校長会議や計画訪問等の機会を活用して、実践事例や具体的な取り組み方についての共有・周知を図っていきます。</li> <li>・Withコロナ禍における推進上の課題について推進部会で情報共有を図るとともに、改善策について協議を行い、各学校の取組を推進できるように工夫していきます。</li> <li>・各学校において学校評価の結果を効果的に生かし、組織的・継続的にカリキュラムマネジメントの充実を図れるよう、継続して教務主任研修等の機会を通じて、さらに周知していく必要があります。</li> </ul>			



令和 4 年度前橋市教育委員会事務  
点検・評価報告書

令和 5 年 8 月発行

前橋市教育委員会事務局総務課  
前橋市大手町二丁目 1 2 番 1 号  
0 2 7 - 8 9 8 - 5 8 0 2 (直通)